

# 山形大学農学部

2013年報

2014年4月

## 2013年報 目次

### 1. 管理運営

- (1) 平成25年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）…………… 1
- (2) 農学部機構図 …………… 3
- (3) 農学部現員表 …………… 3
- (4) 職員組織 …………… 4
- (5) 農学部各種委員会一覧 …………… 6
- (6) 平成25年度農学部における発行印刷物一覧 …………… 7

### 2. 教育・研究活動

- (1) 平成26年度入学試験実施状況 …………… 8
- (2) 平成25年度在学者数 …………… 8
- (3) 卒業・修了後の進路 …………… 9
- (4) 平成25年度大学院農学研究科修了者について …………… 10
- (5) 教員の活動実績
  - ① 研究活動 …………… 13
  - ② 学会・社会活動 …………… 50
  - ③ 産学官など、国内他機関との連携研究実績 …………… 85
  - ④ 海外研究者との研究活動 …………… 91
  - ⑤ 研究員等の受け入れ状況 …………… 98
  - ⑥ その他 …………… 100

### 3. 国際交流状況について

- (1) 学術交流協定締結大学一覧 …………… 102
- (2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）…………… 102
- (3) 外国出張一覧 …………… 103
- (4) その他の国際交流の実施 …………… 105

### 4. 社会活動・地域貢献

- (1) 地域連携推進室へ寄せられた事項への対応状況一覧 …………… 108
- (2) 社会・地域へ要請により派遣した職員一覧 …………… 110
- (3) 他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧 …………… 113
- (4) 外部資金等の受け入れ状況
  - ・ 科学研究費補助金交付決定一覧・分担金一覧…………… 114
  - ・ 奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況 …………… 117
- (5) 公開講座等大学開放実施状況 …………… 118

### 5. フィールド科学センターの概況等 …………… 122

### 6. 農学部図書館の概況等 …………… 139

### 7. 大型設備の設置状況 …………… 140

### 8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地、土地・建物の概要、配置図 …………… 141

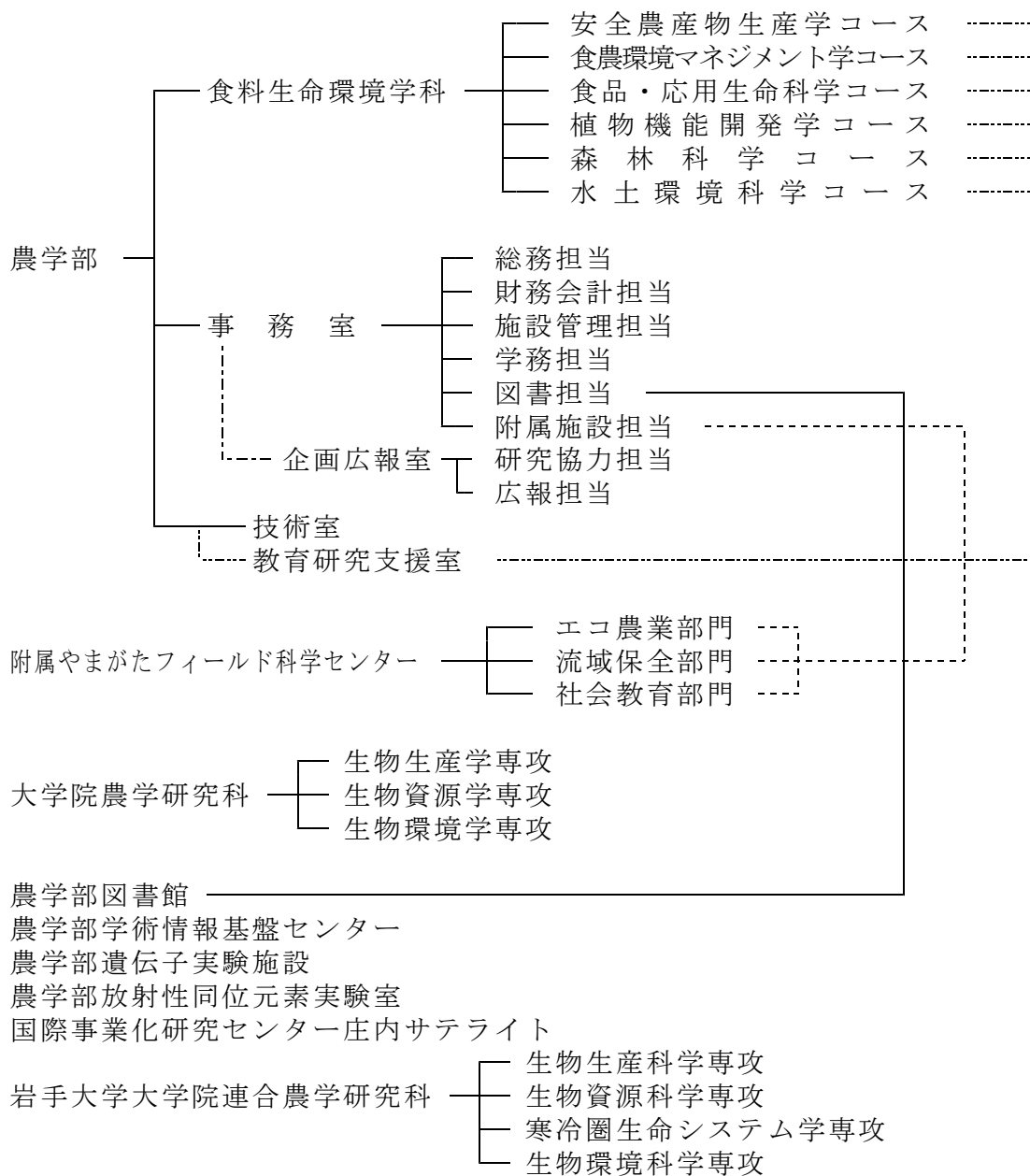
# 1. 管理運営

## (1) 平成25年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）

25.	5.	6	演習林入山式
25.	5.	22	地域教育文化学部食環境デザインコースとの情報交換会
25.	5.	27	農学部ホームカミングデイ
25.	6.	5	平成25年度山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会総会
25.	6.	13	全国農学系学部長会議（～14日）
25.	6.	30	リフレッシュセミナー
25.	7.	6	平成25年度山形大学農学部公開講座（～7月27日）
25.	7.	6	3年次編入学試験
25.	7.	12	3年次編入学試験合格発表
25.	7.	19	学長特別講演会
25.	7.	19	学長、学部長と女性研究者との懇談会
25.	7.	19	学長オフィスアワーin農学部
25.	7.	20	森の学校①（悪天候のため中止）
25.	7.	30	農学部ホームカミングデー
25.	8.	1	夏期セミナー
25.	8.	2	農学部オープンキャンパス（鶴岡キャンパス）
25.	8.	3	農学部オープンキャンパス（小白川キャンパス）
25.	8.	19	（独）国際協力機構（JICA）の地域別研修「アフリカ地域（英語圏）稲作収穫後処理」コース（～9月26日）
25.	8.	27	平成25年度在来作物実践講座「おしゃべりな畑」（～2月7日）
25.	8.	29	北海道・東北地区農学系学部長会議（～8月30日）
25.	9.	21	山形大学ビーチサッカー大会
25.	9.	26	三大学合同研修会（～9月27日）
25.	9.	28	ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」
25.	9.	28	山大農場フェスティバル
25.	10.	3	農学紹介講座「農学の夕べ」（～1月9日）
25.	10.	4	平成25年度山形大学農学部研究シーズ説明会
25.	10.	17	農学部留学生コミュニティ日本文化研修
25.	10.	19	森の学校②
25.	10.	31	学部長杯ソフトボール大会
25.	11.	1	山形大学農学部地域産学官連携プロジェクトシンポジウム（～11月2日）
25.	11.	3	鶴寿祭（～11月4日）
25.	11.	12	農学部・農業大学校・農業高校連携シンポジウム
25.	11.	21	推薦入学試験
25.	11.	22	日本酒シンポジウム「Oh!洒落に日本酒de Night」
25.	11.	26	日タイ食文化セミナー
25.	11.	27	山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会スキルアップ研修会
25.	11.	29	推薦入学試験合格発表

25.	12.	2	メンタルヘルス講習会
25.	12.	8	知の拠点庄内シンポジウム
25.	12.	26	キャンパスハラスメント防止研修会
26.	1.	15	大学院入学試験（2次募集）
26.	1.	29	山形大学農学部ビジネスマッチ
26.	1.	31	大学院入学試験（2次募集）合格発表
26.	2.	1	森の学校③
26.	2.	7	平成25年度在来作物実践講座「おしゃべりな畑」認定 交付式
26.	2.	10	駐日ルワンダ共和国大使公開講演会
26.	2.	20	庄内水田フォーラム2014
26.	2.	20	庄内銀行若手行員との合同研修会
26.	2.	25	個別学力試験（前期日程）
26.	2.	27	平成25年度卒論発表会及び修士論文発表会（～3月2 日）
26.	3.	6	大学院入学試験（3次募集）
26.	3.	7	個別学力試験（前期日程）合格発表
26.	3.	11	3年目のキャンドルナイト
26.	3.	12	農学部・東北森林管理局連携シンポジウム
26.	3.	14	農学部・工学部・鶴岡高専連携プロジェクト情報交換会
26.	3.	17	学位記授与式
26.	3.	18	平成25年度農学部地域連携推進協議会

(2) 農学部機構図



(3) 農学部現員表

(平成26年3月31日現在)

	教 員				その他の職員	合 計
	教 授	准教授	助 教	計		
現 員	31	27	9	67	57	124

(4) 職員組織

(平成26年3月31日現在)

学 部 長 西 澤 隆  
副 学 部 長 夏 賀 元 康  
副 学 部 長 林 田 光 祐

食料生命環境学科

学 科 長	小 沢 亙
安全農産物生産学コース主任	藤 井 弘 志
食農環境マネジメント学コース主任	岩 鼻 通 明
食品・応用生命科学コース主任	塩 野 義 人
植物機能開発学コース主任	俵 谷 圭 太郎
森 林 科 学 コー ス 主 任	芦 谷 竜 矢
水 土 環 境 科 学 コー ス 主 任	奥 山 武 彦

安全農産物生産学コース

教 授	安 藤 豊
教 授	夏 賀 元 康
教 授	西 澤 隆
教 授	藤 井 弘 志
教 授	平 智
教 授	堀 口 健 一
准教授	小笠原 宣 好
准教授	角 田 憲 一
准教授	長 谷 修
准教授	小 林 隆
准教授	片 平 光 彦
准教授	森 静 香
准教授	佐 藤 智 生
助 教	松 本 大 生

食農環境マネジメント学コース

教 授	岩 鼻 通 明
教 授	小 沢 亙
准教授	角 田 毅
准教授	家 串 哲 生
准教授	藤 科 智 海
准教授	渡 辺 理 絵 行
助 教	保 木 本 利 行

食品・応用生命科学コース

教 授	三 橋 涉
教 授	小 関 卓 也
教 授	佐 藤 英 世
教 授	豊 増 知 伸
教 授	永 井 毅 子
教 授	木 村 直 子
教 授	塩 野 義 人
准教授	加 来 伸 夫
准教授	渡 辺 昌 規

植物機能開発学コース

教 授	貫 名 学
教 授	村 山 哲 也
教 授	俵 谷 圭 太郎
教 授	村 山 秀 樹
准教授	江 頭 宏 昌
准教授	程 為 国
准教授	笹 沼 恒 男
准教授	及 川 彰 紀
准教授	星 野 友 紀 聡
助 教	服 部

森林科学コース

教授 菊 間 満  
 教授 野 堀 嘉 裕  
 教授 高 橋 孝 悦  
 教授 森 茂 太  
 教授 林 田 光 祐  
 教授 小 山 浩 正  
 教授 芦 谷 竜 矢  
 准教授 柳 原 敦  
 准教授 菊 池 俊 一  
 准教授 小 川 三四郎  
 准教授 早 尻 正 宏  
 准教授 江 成 広 斗

水土環境科学コース

教授 大久保 博  
 教授 奥 山 武 彦  
 教授 安 中 武 幸  
 准教授 石 川 雅 也  
 准教授 渡 邊 一 哉  
 准教授 渡 部 徹  
 助 教 梶 原 晶 彦  
 助 教 花 山 奨

テニユア・トラック

助 教 恩 田 弥 生

プロジェクト教員

助 教 伊 藤 紘 晃

附属やまがたフィールド科学センター  
センター長 吉 田 宣 夫

エコ農業部門

教授 吉 田 宣 夫  
 助 教 佐々木 由 佳  
 助 教 池 田 和 生

社会教育部門

教授 小 沢 互  
 (兼任：食料生命環境学科)  
 教授 金 成 學  
 准教授 家 串 哲 生  
 (兼任：食料生命環境学科)

流域保全部門

准教授 ロペス ラリー  
 助 教 梶 原 晶 彦  
 (兼任：食料生命環境学科)

事 務 職 員

事 務 長 大 谷 和 彦  
 副 事 務 長 梶 沼 清 志  
 総 務 担 当 係 長 海 野 博 之  
 研究支援担当上席係長 菅 原 一 彰  
 財務会計担当係長 柏 倉 弘 喜  
 施設管理担当上席係長 阿 部 茂  
 学務担当上席係長 片 桐 茂 則  
 附属施設担当係長 阿 部 正 志  
 図 書 担 当 係 長 青 木 幸 子

(5) 農学部各種委員会一覧

- ・ 農学部運営会議 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部教員人事委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部コース主任会議 (H23. 4. 1 設置)
- ・ 農学部選挙管理委員会 (S28. 2. 16 設置)
- ・ 農学部利益相反マネジメント委員会 (H24. 5. 24 設置)
- ・ 農学部国際交流委員会 (H 5. 11. 18 設置)
- ・ 鶴岡地区事業場安全衛生委員会 (H16. 4. 1 設置)
- ・ 農学部遺伝子実験室運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部放射性同位元素実験室運営委員会 (H 8. 7. 1 設置)
- ・ 農学部キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 (H17. 7. 1 設置)
- ・ 農学部・農学研究科運営協議会 (S49. 10. 25 設置)
- ・ 農学部目標計画・評価分析委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部EM・広報委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部予算委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部学術情報基盤センター運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部学務委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部入学試験実施委員会 (S53. 5. 1 設置)
- ・ 附属やまがたフィールド科学センター運営委員会 (H18. 7. 1 設置)
- ・ 農学部図書館運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部教育支援室運営委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 連合農学研究科代議員 (H 2. 6. 8 設置)
- ・ 農学部FD委員会 (H25. 4. 1 設置)



## (6) 平成25年度農学部における発行印刷物一覧

### I 広報誌

- 1 山形大学農学部案内（2013年版）  
受験生や関係高等学校、企業への広報関係誌
- 2 山形大学農学部授業紹介集  
山形大学農学部で開講している授業科目をピックアップして紹介
- 3 農学部だより  
農学部在籍学生の保護者等を対象とした広報誌
- 4 農学部研究シーズ集  
農学部全教員の主要な研究テーマを紹介した民間企業等を対象とした冊子体

### II 自己点検・評価報告書等

- 1 山形大学農学部2012年報

### III 教育関係広報活動・報告書等

（学生向け冊子）

- 1 山形大学農学部・山形大学大学院農学研究科学生便覧  
学部・大学院学生向けの教育研究の案内
- 2 Syllabus 2013

（報告書等）

- 1 平成25年度学外実習（インターンシップ）実習記録・終了報告書
- 2 学位論文抄録集

## 2. 教育・研究活動

(1) 平成26年度入学試験実施状況(外国人留学生を除く。)

### ○ 農学部入学試験

区分・学科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
推薦入試									
食料生命環境学科	30	23	18	23	18	16	15	16	15
小計	30	23	18	23	18	16	15	16	15
一般入試(前期)									
食料生命環境学科	95	88	86	85	83	52	59	50	57
小計	95	88	86	85	83	52	59	50	57
一般入試(後期)									
食料生命環境学科	30	74	47	74	47	21	16	14	11
小計	30	74	47	74	47	21	16	14	11
合計	155	185	151	182	148	89	90	80	83

### ○ 農学部3年次編入学試験

学 科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
食料生命環境学科	若干人	3	6	3	6	2	2	1	1
合計		3	6	3	6	2	2	1	1

### ○ 大学院農学研究科入学試験

専 攻	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
生物生産学専攻	16	18	2	17	2	15	2	14	2
生物資源学専攻	18	8	8	8	7	8	6	8	6
生物環境学専攻	14	5	5	5	5	4	5	4	5
合計	48	31	15	30	14	27	13	26	13

(2) 平成25年度 在学者数(外国人留学生を除く。平成25年5月1日現在)

### ○ 学 部

学 科	入学定員	現 員								合 計
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
食料生命環境学科	155	88	75	89	72	92	71	82	86	655
生物生産学専攻	55							5	1	6
生物資源学専攻	50							5	5	10
生物環境学専攻	50							9	1	10
合計		88	75	89	72	92	71	101	93	681

### ○ 大学院農学研究科

専 攻	入学定員	現 員						合 計
		1年次		2年次		合計		
		男	女	男	女	男	女	
生物生産学専攻	16	8	4	7	5	15	9	24
生物資源学専攻	18	6	5	14	4	20	9	29
生物環境学専攻	14	8	5	5	3	13	8	21
合計	48	22	14	26	12	48	26	74

(3) 卒業・修了後の進路

卒業後の進路(学部)

学 科	卒業者数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
食料生命環境学科	148 (77)	36 (15)	8 (6)	79 (40)	23 (14)	102 (54)	2 (2)	98.1
生物生産学科	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0
生物資源学科	8 (3)	2 (0)	2 (0)	4 (3)	0 (0)	4 (3)	0 (0)	100.0
生物環境学科	3 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	100.0
計	160 (80)	40 (15)	10 (6)	85 (43)	23 (14)	108 (57)	2 (2)	98.2

( )内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

食料生命環境学科	東北アヲハタ(株)(3名)、JA仙台、横浜丸中青果(株)、山形食品(株)、(株)キセキ東北、自営業(農業)、JA全農山形、JA全農青果センター、(株)リオン・ドールコーポレーション(2名)、東日本旅客鉄道(株)、東北鐵屋工業(株)、(株)清川屋、財団法人栃木県環境技術協会、宇都宮ヤクルト販売(株)、(株)コメリ、JAさがえ西村山、(株)昭和食品、山形丸紅(株)、ワタミ(株)、(株)野口食品、米沢信用金庫、独立行政法人種苗管理センター、山形大学、山形県民共済生活協同組合、(株)ベルク、(株)たかの、社会福祉法人愛泉会向陽園、群馬ミツウロコ(株)、丸山果樹園、(株)バイタルネット、ニッポー(株)、ゼリア新薬工業(株)、(株)東邦銀行、すこやかレディースクリニック、国土緑化(株)、たんぼぼレディースクリニック、(株)あおき、日東アリマン(株)、(株)ヤマザワ、(株)中村屋、丸善食品工業(株)、(株)セゾンファクトリー、長野興農(株)、伏見蒲鉾(株)、JAさがえ西村山、(株)土木管理総合試験所、独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所、城北麵工(株)(2名)、福島キャノン(株)、テンワス(株)、(有)みやげ食品、(株)トヨタレンタリース山形、JA全農、(株)薬王堂、(株)みすずコーポレーション、NOSAI秋田、千葉国際高等学校、天鷹酒造(株)、宮城県森林組合連合会、(有)羊工房、ネットヨタ盛岡、(株)復建技術コンサルタント、東北環境開発(株)、(株)コミュニティ新聞、JAみやぎ登米、丸和バイオケミカル(株)、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会、(有)月山パイロットファーム、やまがた公益の森づくり支援センター、(株)イノアックコーポレーション、庄内赤川土地改良区、白根郷土地改良区、(株)カワチ薬品、(株)ウヌマ地域総研、財団法人山形県林業公社  農林水産省、国土交通省、林野庁、国税庁、北海道庁、茨城県庁、静岡県庁、青森県庁、栃木県庁、群馬県庁、福島県庁(2名)、秋田県庁、宮城県庁(2名)、山形県庁、室蘭市役所、新潟市役所、長野市役所、袖ヶ浦市役所、会津美里町役場、滋賀県講師、宮城県講師、
生物資源学科	庄内交通観光バス(株)、(有)境野養鶏、あらかきウィメンズクリニック、日本赤十字社
生物環境学科	(株)理研分析センター、日本住宅(株)

修了後の進路(大学院農学研究科《修士課程》)

学 科	卒業者数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
生物生産学専攻	11 (5)	1 (0)	7 (4)	2 (0)	1 (1)	3 (1)	0 (0)	100.0
生物資源学専攻	15 (4)	0 (0)	1 (0)	14 (4)	0 (0)	14 (4)	0 (0)	100.0
生物環境学専攻	5 (2)	1 (1)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	3 (1)	0 (0)	100.0
計	31 (11)	2 (1)	9 (4)	18 (5)	2 (1)	20 (6)	0 (0)	100.0

( )内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

生物生産学専攻	揖斐川工業(株)、全農グリーンリソース 新潟県庁
生物資源学専攻	一正蒲鉾(株)、JA全農北日本くみあい飼料(株)、イオンリテール(株)、田園都市レディースクリニック、JA全農、(株)藤沢紙工、伊藤ハムデイリー(株)、マリンフード(株)、ニプロ(株)、(株)窪畑ファーム、太子食品工業(株)、金滴酒造(株)、(株)エンテックス(2名)
生物環境学専攻	(株)カトーコーポレーション、栗駒高原森林組合 最上総合支庁

## (4) 平成25年度大学院農学研究科修了者について

## ○生物生産学専攻

講座	氏名	論文題目	指導教員名
農業生産学	内田 豪	発酵TMRの好気的変敗抑制要因に関する研究	堀口 健一
生産生態制御学	鈴木 ミチル	近赤外分光法による生育中のエダマメの成分測定に関する研究	夏賀 元康
生産生態制御学	高柳 春希	水田湛水のドジョウ及びドブシジミを中心とした種間相互作用	安田 弘法
生産生態制御学	村松 亜由美	用途に応じた下水処理水の循環灌漑による水稻栽培システムの提案	渡部 徹
生産生態制御学	馬 可	水田雑草と水草がメダカの生態と水稻への生育促進効果に及ぼす影響	佐藤 智
農業生産学	呂 仁龍	反芻家畜におけるジャトロファ油粕の飼料特性に関する研究	堀口 健一
生産生態制御学	Innocent BISANGWA	Agronomic Characters of Rice Cultivation with Reference to Top-dressed N Efficiency	安藤 豊
生産生態制御学	Octave NSHIMIYIMANA	Effect of rice plant spacing and weed management on occurrence of athropods in rice paddy field.	佐藤 智
生産生態制御学	Teddy MUTONI	The Effect of Weed Abundance on Performance of A fresh Water Snail; Cipangopaludina chinensis, as A beneficial Organism for Rice Cultivation	佐藤 智
農業生産学	Verena RUZIBUKA	Analysing the Side Selling Behaviour in Rwanda' s Rice Cooperative Marketing Channel	金 成学
農業生産学	Edith Achieng' KOUKO	Diffusion of NERICA in Western Kenya and its improvement	角田 毅

## ○生物資源学専攻

講 座	氏 名	論文題目	指導教員名
生物機能調節学	上石 和樹	モクレン ( <i>Magnolia liliflora</i> Desr.) 花被片に含まれる成分に関する研究	村山 哲也
生物機能調節学	工藤 瑛司	チモフェービ系コムギの栽培化に関する遺伝学的研究	笹沼 恒男
生物資源利用化学	小松 由貴	アブシジン酸信号伝達bZIP転写因子の機能制御における14-3-3タンパク質の役割	豊増 知伸
生物資源利用化学	佐藤 智美	イネといもち病菌のジテルペン合成酵素遺伝子に関する研究	豊増 知伸
生物機能調節学	鈴木 正俊	エダマメの抗酸化能に関する品種系統間差異	江頭 宏昌
生物資源利用化学	高野 智也	ナラ枯れ倒木より分離した糸状菌類の生産する二次代謝産物について	塩野 義人
生物機能調節学	武山 佳代	<i>Bergenia ligulata</i> に含まれる成分に関する研究	貫名 学
生物資源利用化学	筒井 拓己	xc-系に対するErastinの阻害特性と癌細胞に及ぼす影響	佐藤 英世
生物機能調節学	鶴巻 啓一	トウガラシ辛味関連遺伝子の遺伝学的研究	笹沼 恒男
生物機能調節学	名古 満	マウス卵成熟過程でみられるSOD1遺伝子欠損による異数性増加の解析	木村 直子
生物資源利用化学	芳賀 真倫	分離菌類やきのご培養菌糸体に含まれるナラ枯れ病原菌に対する生育阻害活性物質について	塩野 義人
生物資源利用化学	松田 詩織	アブシジン酸信号伝達bZIP転写因子と14-3-3タンパク質の相互作用に関する生化学的研究	豊増 知伸
生物資源利用化学	水野 聖之	<i>Aspergillus oryzae</i> 由来タンナーゼファミリー酵素の生化学的性質の解析	小関 卓也
生物資源利用化学	室岡 和宏	<i>Aspergillus oryzae</i> 由来 $\alpha$ -L-ラムノシダーゼの特性解析	小関 卓也
生物機能調節学	矢口 智也	ホオノキ ( <i>Magnolia obovata</i> Thunb.) 花被片に含まれる成分に関する研究	村山 哲也

○生物環境学専攻

講座	氏名	論文題目	指導教員名
森林環境資源学	遠藤 寛士	里山ブナ林でヤマコウモリが季節的に利用する樹洞の形態的特徴	林田 光祐
地域環境科学	沼澤 篤	祭りへの参加によるソーシャル・キャピタルの蓄積 －山形県新庄市の新庄祭りを事例に－	小沢 亙
森林環境資源学	脇坂 茜	混生地におけるギフチョウ属 2種の食草の違いが産卵数の年変動に及ぼす影響	林田 光祐
地域環境科学	PRAISE SUSAN	Influence of Sabo Dams along the River in Relation to Manganese Discharge and Transportation Downstream	大久保 博
地域環境科学	及川 達也	山形県真室川町における秋山牧場を核とした耕畜連携による地域支援の効果	小沢 亙

## (5) 教員の活動実績

### ① 研究活動

#### 安全農産物生産学コース

#### 安藤豊

##### 1-① 論文

- (1) Rahman Shah Moinur, Ken-ichi KAKUDA, Yuka SASAKI and Ho ANDO (2013); . Effect of Mid-Drainage on Root Physiological Activities, N Uptake and Yield of Rice in North East Japan, Bull. Yamagata Univ., Agr. Sci. 16-4, 197-206
- (2) E. Miyamoto, H. Ando, K. Kakuda and A. Watanabe (2013); Fate of Microelements Applied to a Tropical Peat Soil: Column Experiment, Communications in Soil Science and Plant Analysis 44:2524-2534
- (3) Rahman Shah Moinur, Ken-ichi KAKUDA, Yuka SASAKI, Shyuhei Makabe-Sasaki and Ho ANDO (2013); Early growth stage water management effects on the fate of inorganic N, growth and yield in rice, Soil Science and Plant Nutrition 59-6, 921-932

##### 1-② その他の研究活動

- (1) 日本土壌肥料学会、評議員、国際土壌科学会議水田土壌ワーキンググループチェア
- (2) 日本作物学会、東北支部評議員
- (3) 熱帯農業学会
- (4) サゴ学会
- (5) アメリカ農学会

#### 夏賀元康

##### 1-① 著書

- (1) Physical and Biological Properties of Agricultural Products, Kyoto University Press, 2014年01月

##### 1-② 論文

- (1) 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断（第4報），農業食料工学会東北支部報，60 57-60，2013年12月，共著
- (2) 近赤外分光法による生育中のエダマメの品質測定，農業食料工学会東北支部報，60 89-92，2013年12月，共著
- (3) 近赤外分光法によるヤギ生乳成分の測定（第3報），農業食料工学会東北支部報，60 85-88，2013年12月，共著

- (4) 携帯型分析計による米の品質測定のための基礎研究—近赤外分光法による米のタンパク質と水分の測定—, 農業機械学会誌, 75(6) 393-402, 2013年11月, 共著

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 農業食料工学会第72回年次大会, 国内会議, 2013年09月, 帯広, フキ用皮むき機の開発 (第1報), 口頭 (一般)
- (2) 農業食料工学会第72回年次大会, 国内会議, 2013年09月, 帯広, 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定—第3報 測定精度の改良—, 口頭 (一般)
- (3) 農業機械学会東北支部2013年度大会, 国内会議, 2013年08月, 郡山市, 近赤外分光法による生育中のエダマメの品質測定, 口頭 (一般)
- (4) 農業機械学会東北支部2013年度大会, 国内会議, 2013年08月, 郡山市, 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定—第3報 測定精度の改良—向上の検討, 口頭 (一般)
- (5) 農業機械学会東北支部2013年度大会, 国内会議, 2013年08月, 郡山市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 第4報 塩化物イオンの推定精度向上の検討, 口頭 (一般)
- (6) 平成25年度日本食品工学会・年次大会シンポジウム, 国内会議, 2013年08月, 京都, お米の品質測定—近赤外分光法による品質測定の軌跡—, 口頭 (招待・特別)

### 1-④ 学会発表 (国際学会)

- (1) 第16回国際近赤外会議 (NIR2013), 国際会議, 2013年06月, Montpellier, France, Diagnosis of Concrete Deterioration in Infrastructures using Near Infrared Spectroscopy, ポスター (一般)
- (2) 第16回国際近赤外会議 (NIR2013), 国際会議, 2013年06月, Montpellier, France, In Situ Estimation of the Constituents of Green Soybean (Edamame) Pod using Near-Infrared Transmission Spectroscopy, ポスター (一般)
- (3) 第16回国際近赤外会議 (NIR2013), 国際会議, 2013年06月, Montpellier, France, Constituent Content Determination of Goat Raw Milk using Near-Infrared Spectroscopy, ポスター (一般)

## 西澤 隆

### 1-① 著書

- (1) Nishizawa T. and Y. Shishido (2013) Chapter 2. Translocation and distribution of photosynthates in tomato plants. In: T. Higashide ed. Tomatoes: Cultivation, Varieties and Nutrition. Nova Science Publishers 19-49.
- (2) 西澤 隆 (2013) 早田瓜のはなし. 山形大学農学部野菜生産学分野編. p. 1-41. 杉葉堂印刷. 鶴岡.

### 1-② 論文

- (1) 西澤 隆・島村景子・江頭宏昌・保木本利行 (2013) 山形県内に残る在来ダイコンの調査およびそれらの生理・生態的特徴. 人間植物関係学会. 12 (2): 13-19.
- (2) Y. Motomura, T. Nishizawa, A. Katsuta, A. Ishida, W. Kumpoun and T. Puthmee (2013) Effects of 1-MCP and DPA on the Changes in Sesquiterpene and Total Phenol Contents Associated with Superficial Browning in Ripe Mango Skins. Acta Horticulturae 989:61-68.
- (3) Ueda K., K. Tawaraya, H. Murayama, S. Sato, T. Nishizawa, T. Toyomasu, T. Murayama, S. Shiozawa and H. Yasuda. (2013) Effect of arbuscular mycorrhizal fungi on the abundance of foliar-feeding insects and their natural enemy. Applied Entomology and Zoology 48: 79-85.



- (4) Motomura Y., T. Nishizawa and W. Kumpoun (2013) Changes in peel color and cuticle components of mango skin affected by temperature treatment after harvest. *Acta Horticulturae* 1012:155-160.
- (5) Puthmee T., K. Takahashi, M. Sugawara, R. Kawamata, Y. Motomura, T. Nishizawa\*, T. Aikawa and W. Kumpoun (2013) The role of net development as a barrier to moisture loss in netted melon fruit (*Cucumis melo* L.). *HortScience* 48 (12): 1463-1469.

### 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Puthmee, T., T. Nishizawa, Y. Motomura, K. Rieko, S. Midori, T. Kenji, T. Aikawa and W. Kumpoun (2013) The role of net development in moisture loss from netted melon fruits. *International Symposium on Quality Management of Fruits and Vegetables for Human Health (FVHH) 2013*. p.22. Bangkok, Thai
- (2) Kumpoun W., Y. Motomura and T. Nishizawa (2013) Free and bound polyphenols in mango fruit peel as functional food ingredients with high antioxidant activity. *The 2nd Southeast Asia Symposium on Quality Management in Postharvest Systems (SEAsia 2013)*. 0-16. Vientian, Laos
- (3) Motomura Y., T. Aikawa, J. Sugawara, T. Nishizawa, K. Takahashi and M. Sugawara (2013) Fatty acid composition in the peel of netted melon fruit in relation to moisture loss. *The 2nd Southeast Asia Symposium on Quality Management in Postharvest Systems (SEAsia 2013)*. P-006. Vientian, Laos

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 野菜工場に希望の芽。手軽・確実雇用拡大に期待。朝日新聞。平成25年5月23日
- (2) 栽培プラントの現状と将来像は。酒田でセミナー。山形新聞。平成25年7月4日

## 藤井弘志

### 1-① 論文

- (1) 水野貴文・森静香・藤井弘志 (2013) 低地力条件下における水稻の植付け深が窒素およびケイ酸吸収量に及ぼす影響。日本土壤肥料学雑誌, 84(4): 267-274.
- (2) 松田裕之・森静香・藤井弘志 (2013) 1971年以降に日本海を通過した台風の特徴からみた山形県庄内地域でのイネ潮風害発生要因の評価。生物と気象, 13: 18-24.

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 蕪木俊・森静香・檜原勇太・及川彰・藤井弘志 (2013) : ケイ酸を施用した水稻における塩分付着害への代謝応答反応、日本土壤肥料学会講演要旨集、59、109
- (2) 水野貴文・森静香・松山信彦・藤井弘志 (2013) : 水稻の植付け深および栽植密度が根量と窒素およびケイ酸吸収量に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、59、109
- (3) 藤井弘志・森静香 (2014) : 塩害水田における水稻の収量、ケイ酸吸収量に及ぼす製鋼スラグ肥料の施用効果、日本鉄鋼協会第167回春季講演大会、323

### 1-③ その他の研究活動

- (1) 有機農業技術研究会
- (2) 日本鉄鋼協会産発プロジェクト「鉄鋼スラグによる東日本大震災で被災した沿岸田園地域の再生
- (3) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携研究「庄内米元気再生のための栽培技術研究」

- (4) ケイカル研究会（東京）：3月18日25人

## 平 智

### 1-① 著書

- (1) 山形大学農学部果樹園芸学研究室編、2014、やまがたの在来梅のはなし、杉葉堂印刷、山形、（共著）

### 1-② 学会発表（国内学会）

- (1) 木村直道・松本大生・平 智（2014）：山形県における最近20年間の気象変動とリンゴ、オウトウおよびセイヨウナシの生態ならびに果実品質の動向、園芸研究、14（別冊）：

## 堀口健一

### 1-① 論文

- (1) 森田昌孝・吉田宣夫・小山浩正・堀口健一・高橋敏能（2013）：ヤギにおける林地内低木樹葉の嗜好性. 山形大学紀要（農学），16，221-228.
- (2) 松田朗海・堀口健一・高橋敏能・吉田宣夫（2013）：枝豆茎葉残渣サイレージへの廃シロップの添加が発酵品質およびヒツジにおける栄養価と第一胃液性状に及ぼす影響. 日本草地学会誌，59，114-119.
- (3) 田川伸一・呂 仁龍・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能・市原昭一・菱沼真一（2013）：ジャトロファ（*Jatropha curcas* L.）油粕の化学組成，in vitro乾物消化率，発生ガス総量およびメタン発生量. 日本草地学会誌，59，120-123.
- (4) 森田昌孝・吉田宣夫・阿部佳之・堀口健一・高橋敏能（2013）：吸引通気式堆肥化システムより得られた回収硫安の基肥施用がイネ（*Oryza sativa* L.）の生育と収量に与える効果. 日本草地学会誌，59，192-200.
- (5) Shin-ichi Tagawa, Masayuki Morita, Ken-ichi Horiguchi, Norio Yoshida and Toshiyoshi Takahashi（2014）：The effect of use of tofu cake, corn distiller's dried grains with solubles and enzyme on fermentation quality of fermented total mixed ration with second cutting reed canarygrass (*Phalaris arundinacea* L.). 山形大学紀要（農学），17，1-7.

### 1-② 学会発表（国内学会）

- (1) 横田牧恵・森田昌孝・山口彩梨紗・村元隆行・堀口健一・吉田宣夫・貫名 学・高橋敏能（2013）：ヒツジへのタモギタケ廃菌床給与が飼料の利用性と赤肉の鮮度保持効果に及ぼす影響. 東北畜産学会報，63(2)，24.
- (2) 森田昌孝・吉田宣夫・小山浩正・堀口健一・高橋敏能（2013）：ヤギにおける林地内低木樹葉の嗜好性. 東北畜産学会報，63(2)，25.
- (3) 山下浩一郎・寒河江 豊・山本美沙子・森田昌孝・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能（2013）：第一胃液培養法によるコーヒ粕の乾物分解率とメタン生成量の検討. 東北畜産学会報，63(2)，25.
- (4) 田川伸一・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能・三上豊治・竹村 恵・伊藤修平・飯野幸弘・渡部真理安・杉山 晟・杉山房雄（2013）：飼料用米を主原料にした乳牛用ペレット飼料の開発と乳牛の飼養成績. 東北畜産学会報，63(2)，29.

- (5) 堀口健一・永田健太・星 光雄・田川伸一・高橋敏能・吉田宣夫 (2013): エクストルーダ処理粳米の給与が肥育豚の発育と肉質に及ぼす影響. 日本畜産学会第117回大会講演要旨, 72.
- (6) 呂 仁龍・堀口健一・田川伸一・市原昭一・吉田宣夫・高橋敏能 (2013): ジャトロファ油粕のin vitro培養による飼料特性の検討. 日本畜産学会第117回大会講演要旨, 88.
- (7) 森田昌孝・吉田宣夫・堀口健一 (2013): 吸引通気式堆肥化システムに天然由来酸液の利用を想定した際の臭気低減および回収効果に与える影響. 日本畜産学会第117回大会講演要旨, 101.

### 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Ken-ichi Horiguchi, Keiyu Mikami, Norio Yoshida, Toshiyoshi Takahashi (2013): Fermentation quality and digestion characteristics of boiled green soybean hull silage. 11th World Conference on Animal Production Proceedings, 199.
- (2) Renlong Lv, Ken-ichi Horiguchi, Norio Yoshida, Toshiyoshi Takahashi, Shin-ichi Tagawa, Shoichi Ichihara (2013): Effect of liver function on sheep fed Jatropha meal. 11th World Conference on Animal Production Proceedings, 199-200.
- (3) Xijiu Jin, Norio Yoshida, Ken-ichi Horiguchi, Toshiyoshi Takahashi, Masahiro Amari (2013): Effects of fertilization and preparation after harvesting rice on dietary cation anion differences and feed composition of rice straw. 11th World Conference on Animal Production Proceedings, 240.

## 吉田宣夫

### 1-① 著書

- (1) 吉田宣夫 (2013): 飼料用米の生産・給与技術マニュアル 2013年度版, 独立行政法人 農研機構, 平成26年3月, 1-212

### 1-② 論文

- (1) Shin-ichi Tagawa, Masayuki Morita, Ken-ich Horiguchi, Norio Yoshida, Toshiyoshi Takahashi (2012): The Effect of Use of Tofu Cake, Corn Distiller's Dried Grains with Solubles and Enzyme on Fermentation Quality of Fermented Total Mixed Ration with Second Cutting Reed Canarygrass (*Phalaris arundinacea* L.). Bull. Yamagata Univ., Agr. Sci., 17(1): 1-7.
- (2) 松田朗海・堀口健一・高橋敏能・吉田宣夫・(2013): 枝豆茎葉残渣サイレージへの廃シロップの添加が発酵品質およびヒツジにおける栄養価と第一胃液性状に及ぼす影響. 日本草地学会誌, 59(2): 114-119.
- (3) 田川伸一・呂仁龍・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能・市原昭一・菱沼真一(2013): ジャトロファ (*Jatropha curcus* L.) 油粕の化学組成, in vitro乾物消化率, 発生ガス総量およびメタン発生量. 日本草地学会誌, 59(2): 120-123.

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 田川伸一・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能・三上豊治・竹村 恵・伊藤修平・飯野幸弘・渡部真理安・杉山房雄(2013): 飼料用米を主原料にした乳牛用ペレット飼料の開発と乳牛の飼養成績 第 63回東北畜産学会大会要旨集

### 1-④ 学会発表 (国外学会)

- (1) Xijiu Jin, Norio Yoshida, Ken-ichi Horiguchi, Toshiyoshi Takahashi, Masahiro Amari (2013): Effects of fertilization and preparation after harvesting rice on dietary cation anion differences and feed composition of rice straw. Proceedings of The 11th WCAP World Conference on Animal Production. 240.

- (2) Y. Cao, Y. Q. Zaig, H. M. Yang, N. Yoshida, Y. M. Cai (2013): Effect of liquid ammonium sulfate fertilizer and lactic acid bacteria inoculant on chemical composition, fermentation characteristics and in vitro ruminal digestion of rice straw silage. Proceedings of The 11th WCAP World Conference on Animal Production. 198.

#### 1-⑤ その他の研究活動

- (1) 吉田宣夫 (2012) : 飼料用米—緒言、畜産技術2013(7), 2-3

## 長谷修

#### 1-① 論文

- (1) 栗田幸秀・野田博行・飯塚 博・生井恒雄・長谷 修 2013 (平成25年), 酸化マグネシウム共存下における植物由来成分の抗菌性とイネいもち病防除効果, 科学・技術研究, 2(1), 49-52
- (2) 鈴木智貴・大竹裕規・長谷 修・生井恒雄 (2013) (平成25年), 宮城県で採集したオニウシノケグサのいもち病菌の特徴. 日本植物病理学会報, 9(4), 275-278

#### 1-② 学会発表 (国際学会)

- (1) S. Hase, S. Takenaka, M. Maeda, T. Hori, S. Tsushima and T. Namai (2013) : Biocontrol agent *Pythium oligandrum* induces resistance against a bacterial pathogen in rice seedlings, *Acta Phytopathologica sinica* 43. p258, Supplement, Beijing, China (10th International Congress of Plant Pathology, Aug., 25-30, 2013)

#### 1-③ その他の研究活動

- (1) 長谷 修 (2013) : 有機栽培イネの病害抵抗性誘導 (研究報告) 山形県有機農業技術研究会-有機農業を科学する-2014, 3, 14場所 山形大学農学部、

## 小林 隆

#### 1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 小林 隆 (2013) : My 田んぼ情報でイネの冷害、高温障害、病害発生を防ぐ—Googleマップによる水稲栽培管理情報システム—、平成25年度 (第49回) 日本植物病理学会東北部会公開シンポジウム (招待講演)
- (2) 山田真孝、宍戸邦明、常磐秀夫、小林 隆 (2013) : イネ小穂のいもち病発病に及ぼす感染時の気温と濡れ時間の影響、日本植物病理学会報、79、193.
- (3) 菅原幸哉、小林隆、関矢博幸、兼松誠司、中山壮一 (2013) : 粃殻灰の施用によるイネいもち病の発生軽減効果、日本植物病理学会報、79、230.
- (4) 小林 隆 (2014) : 農作物警戒情報における病害発生予察、平成25年度東北地域稲栽培研究会 (招待講演)
- (5) 小林 隆 (2014) : Googleマップによる気象予測データを用いた作物生育等予測技術、平成25年度東北農業試験研究推進会議野菜花き推進部会 (招待講演)

## 森静香

### 1-① 著書

- (1) 森静香 (2013) 水稻苗におけるケイ酸含有率向上技術とその効果、土づくりとエコ農業 8・9月号、日本土壌協会

### 1-② 論文

- (1) 水野貴文・森静香\*・藤井弘志 (2013) 低地力条件下における水稻の植付け深が窒素およびケイ酸吸収量に及ぼす影響. 日本土壌肥料学雑誌, 84(4): 267-274.
- (2) 松田裕之・森静香・藤井弘志 (2013) 1971年以降に日本海を通過した台風の特徴からみた山形県庄内地域でのイネ潮風害発生要因の評価. 生物と気象, 13: 18-24.

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 蕪木俊・森静香・檜原勇太・及川彰・藤井弘志 (2013) : ケイ酸を施用した水稻における塩分付着害への代謝応答反応、日本土壌肥料学会講演要旨集、59、109
- (2) 水野貴文・森静香・松山信彦・藤井弘志 (2013) : 水稻の植付け深および栽植密度が根量と窒素およびケイ酸吸収量に及ぼす影響、日本土壌肥料学会講演要旨集、59、109
- (3) 藤井弘志・森静香 (2014) : 塩害水田における水稻の収量、ケイ酸吸収量に及ぼす製鋼スラグ肥料の施用効果、日本鉄鋼協会第167回春季講演大会、323

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 有機農業技術研究会
- (2) 東北創生研究所

## 佐々木由佳

### 1-① 論文

- (1) Shuhei Makabe-Sasaki, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, and Ho Ando (2013) Effect of slag silicate fertilizer on dissolved silicon in soil solution based on the chemical properties of Gleysols. Soil Science and Plant Nutrition 59, 271-277
- (2) Shah Moinur Rahman, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Shuhei Makabe-Sasaki, and Ho Ando (2013) Early growth stage water management effects on the fate of inorganic N, growth and yield in rice. Soil Science and Plant Nutrition 59, 921-932
- (3) 佐々木由佳 (2014) 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場の水田の土壌断面形態. 山形大学紀要 (農学) 17(1). 41-49

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 角田憲一・佐々木由佳・Bachri Samusl・森牧人・山本由徳・安藤豊 (2013) ニューギニア島のサゴヤシ自然林における土壌と地下水位. 第22回サゴヤシ学会講演会要旨, 39-40
- (2) 佐々木由佳・新川寛・菅谷耕紀・角田憲一・安藤豊 (2013) 熱帯泥炭土壌での窒素施肥がサゴヤシ初期生育に与える影響. 第22回サゴヤシ学会講演会要旨, 43-44
- (3) Innocent Bisangwa, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Ho Ando (2013) Comparative performance of plants spacing on rice yield. 日本作物学会東北支部会報

- (4) Shuhei Makabe, Madoka Sato, Zou Ping, Ye Jing, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Fu Jianrong, Ho Ando (2013) Vertical distribution patterns of chemical properties of paddy soils located at South Bank of Hangzhou Bay with reference to different reclamation years. 日本土壤肥料学会講演要旨集59, 102
- (5) Shah Moinur Rahman, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Shuhei Makabe, Ho Ando (2013) Water saving irrigation management of rice. 日本土壤肥料学会講演要旨集59, 103
- (6) 佐々木由佳・鈴木真衣子・角田憲一・真壁周平・安藤豊 (2013) 水稻茎数に対する活着肥の施用効果—慣行基肥量に上乗せ施用した場合—. 日本土壤肥料学会講演要旨集59, 103
- (7) 角田憲一・菊地遼・佐々木由佳・安藤豊 (2013) 混植条件下のイネーコナギの窒素吸収競合. 日本土壤肥料学会講演要旨集59, 106

#### 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Shah Moinur Rahman, Ken-Ichi Kakuda, Yuka Sasaki, and Ho Ando (2013) Effect of water management during early growth stage on nitrogen dynamics of paddy field. Proceedings of 11th International Conference, The East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies, 127-12

#### 1-④ その他の研究活動

- (1) 山形県有機農業研究会 (2014年3月14日) Shah Moinur Rahman、佐々木由佳、角田憲一、安藤豊：SRI農法の水管理技術が施肥窒素の挙動、水稻の生育、収量に与える影響

## 池田和生

#### 1-① 論文

- (1) Characterization of 10 MADS-box genes from *Pyrus pyrifolia* and their differential expression during fruit development and ripening, *Gene*, 528 183-194, 2013年10月, 共著

## 松本大生

#### 1-① 著書

- (1) 平 智, 松本大生. 2014 (平成26年); やまがたの在来梅のはなし. 杉葉堂印刷, ISBN: 978-4-9902586-7-2

#### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 松本大生, 田尾龍太郎 (2014年3月29, 30日): サクラ属のS遺伝子座に連鎖する遺伝子にコードされたF-boxタンパク質のSCF複合体形成能の調査、園芸学研究別冊、13巻 1、284.

# 食農環境マネジメント学コース

## 岩鼻通明

### 1-① 論文

- (1) 岩鼻通明 (2013) : 「被災地をめぐる現代民俗—映画館の観客アンケートを通じた試論」村山民俗27, . 57-64.
- (2) 岩鼻通明 (2013) : 「出羽三山信仰と21世紀の広域交流圏」『平成24年度 文化財保存修復研究センター研究成果報告書』東北芸術工科大学、19-20.
- (3) 岩鼻通明 (2013) : 「五十嵐文蔵先生の人と学問」庄内民俗36, 12-13.
- (4) 野口一雄・岩鼻通明 (2013) : 「山形県民俗(学)研究の歩み—各地域民俗研究団体の発足と諸先学」『第30回東北地方民俗学合同研究会 予稿集 各県民俗学の始まりと今』、12-18.

### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 岩鼻通明 (2013) : 2013年9月29日「観客アンケートにみる震災特集上映」日本地理学会秋季大会口頭発表
- (2) 岩鼻通明 (2014) : 「山形県におけるコンテンツの発信—映画祭における震災特集上映を中心として」日本地理学会情報地理研究グループ研究集会話題提供

### 1-③ その他の研究活動

- (1) 岩鼻通明 (2013) : 書評: 岩本由輝編『歴史としての東日本大震災』図書新聞3111号, 3
- (2) 岩鼻通明 (2013) : 紹介: 岡田照子著『瀬川清子 女性民俗学者の軌跡』庄内民俗36, 72-73.
- (3) 岩鼻通明 (2013) : 書評と紹介: 大高康正著『参詣曼荼羅の研究』日本歴史783, 103-105.
- (4) 岩鼻通明 (2013) : レポート「全州国際映画祭で観たドキュメンタリー作品」WEBネオネオ、<http://webneo.org/archives/10014>

## 小沢互

### 1-① 著書

- (1) 家串哲生・小沢互 (2013) 「施設型農業生産での土木建設業の農業参入—(株)山本組(山形県)による事例: 窪畑ファーム」八木宏典編集代表、高橋正郎・盛田清秀『農業経営への異業種参入とその意義』農林統計協会、122-133

### 1-② 論文

- (1) 金紅蘭・藤科智海・小沢互 (2013) 「中国延辺地域における農地流動化の実態と課題—図們市Y鎮のM村とQ村を事例として—」農業経営研究、第51巻第1号、119-124
- (2) 鶴巻なつ美・小沢互・藤科智海 (2013) 「地域との関わりが地産地消という購買行動に与える影響」農村経済研究、第31巻第1号、96-101
- (3) 金紅蘭・藤科智海・小沢互 (2013) 「中国延辺地域における「専業農場」の現状と課題—図們市Y鎮の「専業農場」経営者意識調査より—」農村経済研究、第31巻第2号、65-71

### 1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 吉仲怜・小沢互・藤科智海(2013)「飼料用米供給側における生産者組織化の特徴と意義―青森県大規模水田作地帯を対象に―」第49回東北農業経済学会福島大会報告要旨、77
- (2) 金紅蘭・藤科智海・小沢互(2013)「延辺地域における「専業農場」の発展過程と展開方向―函門市Y鎮のYR農場・CX農場を事例として―」第49回東北農業経済学会福島大会報告要旨、81
- (3) 奥山仁志・小沢互(2014)「田・畑作経営所得安定対策参画者の制度評価とソーシャル・キャピタルの影響に関する考察―枝番管理型集落営農組織を対象として―」2014年度日本農業経済学会大会報告要旨、K24

#### 1-④ その他の研究活動

- (1) 小沢互(2013)「地域資源を生かした農村振興への取り組み状況―平成24年度白書を踏まえて」月刊NOSA I、第65巻第11号、4-13
- (2) 小沢互・藤科智海・吉仲怜(2014)「飼料用米の耕畜連携によるコスト低減、付加価値化および飼料用米利用畜産物の消費者評価～飼料用米生産主要県の山形県(養豚業)と青森県(養鶏業)を対象に～」畜産の情報2014年1月号、62-69

## 金成学

#### 1-① 論文

- (1) 韓国の青果物流通における連合事業の意義と課題, 農村経済研究, 32(1) 64-73, 2014年03月, 単著
- (2) 次期(2013年)米国農業法の性格についての一考察―固定型直接支払い廃止とセーフティネット強化の思惑と影響―, 山形大学紀要(農学), 17(1) 31-40, 2014年02月, 単著
- (3) 自由貿易時代における韓国農政の混迷―米所得等補填直接支払い制度とその変遷を中心に―, 農村経済研究, 31(2) 43-52, 2013年09月, 単著
- (4) 韓国の青果物産地流通組織化の現状と課題―農協中央会の経済・信用分離論の農協共販体制への影響―, 農村経済研究, 31(1) 1-10, 2013年06月, 単著

## 角田毅

#### 1-① 論文

- (1) 佐藤千尋, 角田毅, 中村勝則, 上田賢悦(2013)、東北水田作経営における雇用導入の特質と課題、農村経済研究、第31巻第1号: 129~134
- (2) 角田毅(2013)、東北水田経営における大規模法人経営の継承と課題、農業と経済、第79巻第6号: 62-66
- (3) 中村勝則, 後藤哲史, 渡部岳陽, 角田毅, 佐藤了(2013)、長期不況下における農業経営継承の東北的特質-秋田県平場水田地帯における作業受託型農業法人の事例から-, 農村経済研究、第31巻第2号

#### 1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木洋、角田毅(2013)、集落営農組織における水田輪作栽培の取り組みと課題、第49回東北農業経済学会

#### 1-③ その他の研究活動

- (1) 角田毅(2013): 「ステップアップ6次産業化―鮭川村木の根坂集落」, 農業共済新聞 2013年8月28日



- (2) 角田毅 (2013) : 「ステップアップ6次産業化一村木沢あじさい営農組合」, 農業共済新聞2013年10月23日

## 家串哲生

### 1-① 著書

- (1) 家串哲生・小沢互 (2013) 「施設型農業生産での土木建設業の農業参入—(株)山本組(山形県)による事例: 窪畑ファーム—」、八木宏典編『農業経営への異業種参入とその意義』、農林統計協会、pp. 122-133

## 藤科智海

### 1-① 著書

- (1) 飼料用米の耕畜連携によるコスト低減、付加価値化および飼料用米利用畜産物の消費者評価—飼料用米生産主要県の山形県(養豚業)と青森県(養鶏業)を対象に—, 畜産の情報, 62-69, 2014年01月

### 1-② 論文

- (1) 延辺地域における「専業農場」の発展過程と展開方向—図們市Y鎮のYR農場・CX農場を事例として—, 農村経済研究, 32(1) 95-104, 2014年03月, 共著
- (2) 中国延辺地域における「専業農場」の現状と課題—図們市Y鎮の「専業農場」経営者意識調査より—, 農村経済研究, 31(2) 65-71, 2013年09月, 共著
- (3) 中国延辺地域における農地流動化の実態と課題—図們市Y鎮のM村とQ村を事例として—, 農業経営研究, 51(1) 119-124, 2013年06月, 共著
- (4) 地域との関わりが地産地消という購買行動に与える影響, 農村経済研究, 31(1) 96-101, 2013年06月, 共著

# 食品・応用生命科学コース

## 三橋渉

### 1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 坂井亜莉里ら (2013): 植物科学調節学会第48回大会研究発表記録集、28.
- (2) 佐藤智美ら (2013): 植物科学調節学会第48回大会研究発表記録集、90.
- (3) 千葉光浩ら (2013): 植物科学調節学会第48回大会研究発表記録集、98
- (4) 豊増知伸ら (2013): 日本農芸化学会大会講演要旨集 (2013年度大会)
- (5) 小松由貴ら (2013): 日本農芸化学会大会講演要旨集 (2013年度大会)

## 小関卓也

### 1-① 論文

- (1) T. Koseki, S. Asai, N. Saito, M. Mori, Y. Sakaguchi, K. Ikeda, Y. Shiono (2013): Characterization of a novel lipolytic enzyme from *Aspergillus oryzae*, Applied Microbiology and Biotechnology, 97, 5351-5357
- (2) Y. Shiono, N. Matsui, T. Imaizumi, T. Koseki, T. Murayama, E. Kwon, T. Abe, K. Kimura (2013): An unusual spirocyclic isopimarane diterpenoid and other isopimarane diterpenoids from fruiting bodies of *Xylaria polymorpha*, Phytochemistry Letters, 6, 439-443
- (3) 小関卓也, 伏信進矢 (2013): 麹菌由来のフェルラ酸エステラーゼの多様性とその応用, 日本醸造協会誌, 108(4), 204-210
- (4) Y. Shiono, T. Sasaki, F. Shibuya, Y. Yasuda, T. Koseki, U. Supratman (2013): Isolation of a Phomoxanthone A derivative, a new metabolite of tetrahydroxanthone, from a Phomopsis sp. isolated from the mangrove, *Rhizophora mucronata*. Natural Product Communication, 8, 1735-1737.
- (5) Y. Shiono, M. Haga, H. Koyama, T. Murayama, T. Koseki (2013): Antifungal activity of a polyacetylene against the fungal pathogen of Japanese oak from the liquid culture of the edible mushroom, *Hypsizygus marmoreus*. Z. Naturforsch., 68b, 293-295.
- (6) Y. Shiono, F. Shibuya, T. Murayama, T. Koseki, H. M. P. Poumale, and B. T. Ngadjui (2013): A polyketide metabolite from an endophytic *Fusarium equiseti* in a medicinal plant. Z. Naturforsch., 68b, 289-292.

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 小関卓也, 浅井駿吾, 塩野義人 (2013): *Aspergillus oryzae*由来の新規脂質分解酵素の特徴付け, 第65回日本生物工学会大会, 広島 (9月)
- (2) 室岡和宏, 塩野義人, 小関卓也 (2013): *Aspergillus oryzae*由来GH78ファミリーの $\alpha$ -L-ラムノシダーゼについて, 日本農芸化学会東北支部第148回大会, 盛岡(10月)
- (3) 水野聖之, 塩野義人, 小関卓也 (2013): *Aspergillus oryzae*由来タンナーゼの基質特異性の解析, 日本農芸化学会東北支部第148回大会, 盛岡 (10月)
- (4) 高野智也, 小関卓也, 小山正浩, 塩野義人 (2013): ナラ枯れの倒木より単離した糸状菌TT-10株が生産するナラ菌生育阻害物質について, 日本農芸化学会東北支部第148回大会, 盛岡 (10月)

- (5) 大塚基広、渡辺裕也、塩野義人、小関卓也 (2014): *Aspergillus oryzae*由来タイプDに属するフェルラ酸エステルゼ様遺伝子の機能解析, 日本農芸化学会2014年度大会, 東京 (3月)
- (6) 鬼島直子、勝見直行、遠藤修二郎、川瀬漣、小関卓也 (2014): 半脱脂米糠麴による酵素生産と糖化液の特徴, 日本農芸化学会2014年度大会, 東京 (3月)
- (7) 塩野義人、松井紀嘉、小関卓也、村山哲也、阿部友美、木村賢一 (2014): マメザヤタケ (*Xylaria polymorpha*)より単離したイソピマラン型ジテルペン類について, 日本農芸化学会2014年度大会, 東京 (3月)

### 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Y. Shiono, N. Matsui, S. Motoki, T. Koseki, T. Murayama, E. Kwon, T. Abe, M. Tojima, K. Kimura (2013): New Isopimarane Diterpenoids from Fruiting Bodies of *Xylaria polymorpha*, 15th Asian Chemical Congress 2013, Singapore.

### 1-④ 特許関係 (特許出願、種苗登録等)

- (1) 米糠麴の製造方法およびこれを用いた米糠麴糖化物、米糠麴米粉糖化物の製造方法, 特願2013-0423, 出願日 2013.12.6
- (2) 米糠麴穀物粉糖化物ないし米糠麴糖化物の乳酸菌発酵物およびその製造方法, 特願2014-066326, 出願日 2014.3.27

### 1-⑤ その他の研究活動

- (1) 麴菌由来のフェルラ酸エステルゼと酒類中のフェノール化合物, 第99回清酒製造技術セミナー(13.4.24), 東京

## 豊増知伸

### 1-① 論文

- (1) Toyomasu, T., Usui, M., Sugawara, C., Otomo, K., Hirose, Y., Miyao, A., Hirochika, H., Okada, K., Shimizu, T., Koga, J., Hasegawa, M., Chuba, M., Kawana, Y., Kuroda, M., Minami, E., Mitsuhashi, W., and Yamane, H. (2014): Reverse-genetic approach to verify physiological roles of rice phytoalexins: characterization of a knockdown mutant of OsCPS4 phytoalexin biosynthetic gene in rice. *Physiol. Plant.*, 150, 55-61.

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 千葉光浩、藤岡興、深澤壽太郎、三橋渉、加藤修雄、豊増知伸 (2013): bZIP 型転写因子と14-3-3 相互作用に対するフシコクシンの影響 - 第2報 -, 植物化学調節学会第48回大会, 83.
- (2) 佐藤智美、後藤麻子、南栄一、長谷川守文、岡田憲典、山根久和、三橋渉、豊増知伸 (2013): イモチ病菌におけるキメラ型ジテルペン合成酵素遺伝子 -第2報-, 植物化学調節学会第48回大会, 75.
- (3) 坂井亜莉里、菅原千都、臼井雅美、高橋宏和、中園幹生、宮本皓司、岡田憲典、黒田昌治、森本優、山口信次郎、山根久和、三橋渉、豊増知伸 (2013): イネにおける2種のent-コパリル2リン酸合成酵素遺伝子 -第2報-, 植物化学調節学会第48回大会, 13.
- (4) 千葉光浩、菅野裕理、岡田憲典、長谷川守文、三橋渉、瀬尾光範、豊増知伸 (2014): イネにおけるモミラクトン輸送体遺伝子の探索, 日本農芸化学会2014年度大会, 2C04p01.
- (5) 藤岡興、千葉光浩、深澤壽太郎、三橋渉、加藤修雄、豊増知伸 (2014): bZIP 型転写因子の14-3-3 結合に関する生化学的研究, 日本農芸化学会2014年度大会, 3A05a15.

- (6) 二村 美恵、阿部 央樹、高橋 伸明、豊増 知伸、三橋 渉 (2014): 高等植物におけるABA 信号伝達因子の細胞周期制御系への関与について、日本農芸化学会2014年度大会、2C04p10.
- (7) 関 史恵、大熊 康仁、高橋 伸明、豊増 知伸、三橋 渉 (2014): 高等植物細胞周期停止因子の分解にオートファジーは関与するのか?、日本農芸化学会2014年度大会、4C05a03.

## 木村直子

### 1-① 著書

- (1) Junichi Fujii, Satoshi Tsunoda, and Naoko Kimura. Antithetical Roles of Reactive Oxygen Species in Mammalian Reproduction r In Handbook of System Biology of Free Radicals and Anti-oxidants. (I. Larher ed), Springer-Verlag, Germany, 2014. ISBN-10: 3642300170

### 1-② 論文

- (1) Satoshi Tsunoda, Naoko Kimura and Junichi Fujii. Oxidative stress and redox regulation of gametogenesis, fertilization, and embryonic development. Reproductive Medicine and Biology 13:71-79 (2014) .

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 名古 満, 藤井 順逸, 木村 直子. 体外成熟させたSOD1遺伝子欠損マウス卵でみられる異数性増加の解析. 第54回日本卵子学会大会抄録集, vii. 2013年5月25日. 学術総合センター (東京都千代田区) .
- (2) 星野 由貴, 梅田 彩, 高橋 素子, 宮田 哲, 吉田 康一, 藤井 順逸, 木村 直子. 培養系卵の初期発生におけるビタミンCの役割~アルデヒド還元酵素遺伝子欠損卵を用いた検証~. 第31回日本受精着床学会総会・学術講演会抄録集, p196. 2013年8月8日. 別府国際コンベンションセンター(別府市).
- (3) 鈴木 あやめ, 星野 由貴, 渡辺 連, 木村 直子. マウス卵成熟培養系への親電性試薬ジエチルマレイン酸添加の影響. 要旨第63回東北畜産学会大会要旨集, p22. 2013年8月30日. 山形テルサ (山形市).
- (4) 星野 由貴, 鈴木 あやめ, 吉田 康一, 藤井 順逸, 木村直子. マウス初期胚発生におけるビタミンCの役割-活性持続型ビタミンCの効果-. 日本畜産学会第117回大会要旨集, p58. 2013年9月9日. 新潟大学五十嵐キャンパス (新潟市). **日本畜産学会第117回大会優秀発表賞受賞.**
- (5) 窪田 有里子, 藤井 順逸, 木村 直子. 老齢SOD1欠損マウスにおける排卵数減少の原因解明. 日本畜産学会第117回大会要旨集, p98. 2013年9月9日. 新潟大学五十嵐キャンパス (新潟市).
- (6) 渡辺 連, 角田 智志, 藤井 順逸, 佐藤 英世, 木村 直子. 老齢シスチン・グルタミン酸トランスポーター遺伝子欠損マウスにおける卵巣機能の解析. 日本畜産学会第117回大会要旨集, p98. 2013年9月9日. 新潟大学五十嵐キャンパス (新潟市).
- (7) 名古 満, 藤井 順逸, 木村 直子. 酸化ストレスによる染色体異数性誘発卵における紡錘体形成チェックポイントタンパク質BubR1の発現動態. 第106回日本繁殖生物学会大会要旨集, j64. 2013年9月12日. 東京農工大学農学部府中キャンパス (府中市) .
- (8) 羽賀 萌実, 名取 友来, 名古 満, 木村 直子. マウス卵成熟過程におけるPTENの発現動態と阻害剤の影響. 第106回日本繁殖生物学会大会要旨集, j65. 2013年9月12日. 東京農工大学農学部府中キャンパス (府中市) .
- (9) 鈴木 あやめ, 渡辺 連, 星野 由貴, 木村 直子. マウス卵成熟培養系への親電性試薬スルフォラファン添加の効果. 日本畜産学会第118回大会要旨集, p21. 2014年3月28日. つくば国際会議場 (つくば市) .

## 塩野義人

### 1-① 著書

- (1) Coumarins and Related Compounds from the Medicinal Plants of Africa (2013), Medicinal Plant Research in Africa, Pharmacology and Chemistry, 261-300. Herve Martial Poumale Poumale, Rebecca Hamm, Yanqing Zang, Yoshihito Shiono and Victor Kuete.

### 1-② 論文

- (1) Yoshihito Shiono, Norika Matsui, Takayuki Imaizumi, Takuya Koseki, Tetsuya Murayama, Eunsang Kwon, Tomomi Abec, Ken-ichi Kimura (2013): An unusual spirocyclic isopimarane diterpenoid and other isopimarane diterpenoids from fruiting bodies of *ylaria polymorpha*. *Phytochemistry Letters*. 6, 439-443.
- (2) Yoshihito Shiono, Takehiro Sasakia, Fumiaki Shibuya, Yukito Yasuda, Takuya Koseki and Unang Supratman (2013): Isolation of a Phomoxanthone A Derivative, a New Metabolite of Tetrahydroxanthone, from a *Phomopsis* sp. Isolated from the Mangrove, *Rhizophora mucronata*. *Natural Product Communication*, 8, 1735-1737.
- (3) Yoshihito Shiono, Masatomo Haga, Hiromasa Koyama, Tetsuya Murayama, and Takuya Koseki (2013): Antifungal Activity of a Polyacetylene against the Fungal Pathogen of Japanese Oak from the Liquid Culture of the Edible Mushroom, *Hypsizygus marmoreus*. *Z. Naturforsch.*, 68b, 293 - 295
- (4) Yoshihito Shiono, Fumiaki Shibuya, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Herve Martial Poumale Poumale, and Bonaventure Tchaleu Ngadjui (2013): A Polyketide Metabolite from an Endophytic *Fusarium equiseti* in a Medicinal Plant. *Z. Naturforsch.*, 68b, 289 - 292
- (5) Herve Martial Poumale Poumale, Alphonsine Nkapwa Guedem, Louis Pergaud Sandjo, Bonaventure Tchaleu Ngadjui, and Yoshihito Shiono (2013): Lupane Type Triterpene Isolated from the Leaves of *Thecacoris Annobonea* (Euphorbiaceae). *Journal of Advances in Chemistry*, 25, 695-701
- (6) T. Koseki, S. Asai, N. Saito, M. Mori, Y. Sakaguchi, K. Ikeda, Y. Shiono (2013): Characterization of a novel lipolytic enzyme from *Aspergillus oryzae*, *Applied Microbiology and Biotechnology*, 97, 5351-5357

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 高野智也、小関卓也、小山浩正、塩野義人 (2013) : ナラ枯れの倒木より単離した糸状菌TT-10株が生産するナラ菌生育阻害活性物質について, 日本農芸化学会東北支部会第148回大会 (10月)
- (2) 上杉祥太、山下哲郎、塩野義人、近藤恭光、長田裕之、木村賢一 (2013): 植物内生糸状菌由来の抗がん物質 allantopyrone A の生体分子との相互作用 日本農芸化学会東北支部会第148回大会 (10月)
- (3) 小関卓也、浅井駿吾、塩野義人 (2013): *Aspergillus oryzae* 由来の新規脂質分解酵素の特徴付け, 第65回日本生物工学会大会, 広島 (9月)
- (4) 室岡和宏、塩野義人、小関卓也 (2013): *Aspergillus oryzae* 由来 GH78 ファミリーの  $\alpha$ -L-ラムノシダーゼについて, 日本農芸化学会東北支部第148回大会, 盛岡 (10月)
- (5) 水野聖之、塩野義人、小関卓也 (2013): *Aspergillus oryzae* 由来 タンナーゼの基質特異性の解析, 日本農芸化学会東北支部第148回大会, 盛岡 (10月)
- (6) 大塚基広、渡辺裕也、小関卓也、塩野義人 (2014): *Aspergillus oryzae* 由来タイプDに属するフェルラ酸エステラーゼ様遺伝子の機能解析, 日本農芸化学会2014年度大会, 東京 (3月)

- (7) 上石 和樹、佐久間 裕貴、板垣 和幸、武山 佳代、塩野 義人、貫名 学、木村 賢一、村山 哲也(2014): シモクレン (*Magnolia liliiflora*) 花被に含まれる生理活性物質, 日本農芸化学会2014年度大会, 東京 (3月)
- (8) 横井川 純平、森元 今日子、塩野 義人、上杉 祥太、木村 賢一、片岡 孝夫 (2014): 転写因子NF- $\kappa$ B の情報伝達経路に対するallantopyrone A の作用機序の解析, 日本農芸化学会2014年度大会, 東京 (3月)
- (9) 塩野義人、松井紀嘉、小関卓也、村山哲也、阿部友美、木村賢一 (2014) : マメザヤタケ (*Xylaria polymorpha*) より単離したイソピマラン型ジテルペン類について, 日本農芸化学会2014年度大会, 東京 (3月)

#### 1-④ 学会発表 (国際学会)

- (1) Yoshihito Shiono, Ken-ichi Kimura (2013): Isolation and Characterization of Bioactive Matabolites from Fruiting Bodies of *Xylaria*. sp. SimNasKBA-2013, Indonesia (招待講演)
- (2) Yoshihito Shiono, Norika Matsui, Sadayoshi Motoki, Takuya Koseki, Tetsuya Murayama, Eunsang Kwon, Tomomi Abe, Masato Tojima, Ken-ichi Kimura (2013): New Isopimarane Diterpenoids from Fruiting Bodies of *Xylaria polymorpha*, 15th Asian Chemical Congress 2013, Singapore.

## 加来伸夫

#### 1-① 著書

- (1) 加来伸夫 (2013) 第2章 微生物燃料電池技術を用いた環境モニタリング用電源 (水田発電), 第4編 微生物燃料電池による発電・環境浄化システム開発, 渡邊一哉 監修, 微生物燃料電池による発電・省エネ型廃棄物・廃水処理技術最前線, 株式会社エヌ・ティー・エス, p. 209-217.

#### 1-② 論文

- (1) S. Mowlick, T. Inoue, T. Takehara, N. Kaku, K. Ueki and A. Ueki (2013) Changes and recovery of soil bacterial communities influenced by biological soil disinfection as compared with chloropicrin-treatment. *AMB Express*, 3, article 46
- (2) S. Mowlick, H. Yasukawa, T. Inoue, T. Takehara, N. Kaku, K. Ueki, A. Ueki (2013) Suppression of spinach wilt disease by biological soil disinfection incorporated with *Brassica juncea* plants in association with changes in soil bacterial communities. *Crop Protection*, 54, 185-193.

#### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 築詰海彦、竹原利明、加来伸夫、上木厚子 (2013) 植物バイオマス鋤き込み還元処理法により消毒した土壌から分離した嫌気性細菌の植物病原菌に対する殺菌効果. 日本微生物生態学会29回大会 (鹿児島) 講演要旨集、136.

## 渡辺昌規

#### 1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 渡辺 昌規 (2013.9.18) : 米糠からのタンパク質・リンの連続回収・精製技術の開発、第56回日本生物工学会大会要旨集、pp. 71.

#### 1-② 学会発表 (国際学会)

- (1) M. Watanabe (Feb. 6, 2014) : Fermentative actic acid production from non-sterilized rice washing drainage containing rice bran without any additions of nutrient. : The 2nd International Conference of Food and Applied Bioscience. Thailand. (招待講演)

### 1-③ その他の研究活動

- (1) 渡辺 昌規 (2013) : 表面電位測定装置ZC-3000アプリケーションノート「洗米排水の凝集・沈降性のゼータ電位による評価」, (株) マイクロテック・ニチオン
- (2) 渡辺昌規 : 「一山形大学一チェンマイ大学 (タイ王国) からの研究者が来訪」文教ニュース (平成25年12月16日号)

# 植物機能開発学コース

## 村山哲也

### 1-① 論文

- (1) Yoshihito Shiono, Norika Matsui, Takayuki Imaizumi, Takuya Koseki, Tetsuya Murayama, Eunsang Kwon, Tomomi Abec, Ken-ichi Kimura (2013): An unusual spirocyclic isopimarane diterpenoid and other isopimarane diterpenoids from fruiting bodies of *Xylaria polymorpha*. *Phytochemistry Letters*. 6, 439-443.
- (2) Yoshihito Shiono, Masatomo Haga, Hiromasa Koyama, Tetsuya Murayama, and Takuya Koseki (2013): Antifungal Activity of a Polyacetylene against the Fungal Pathogen of Japanese Oak from the Liquid Culture of the Edible Mushroom, *Hypsizygus marmoreus*. *Z. Naturforsch.*, 68b, 293 - 295
- (3) Yoshihito Shiono, Fumiaki Shibuya1, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Herve Martial Poumale Poumale, and Bonaventure Tchaleu Ngadjui (2013): A Polyketide Metabolite from an Endophytic *Fusarium equiseti* in a Medicinal Plant. *Z. Naturforsch.*, 68b, 289 - 292

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 上石和樹、佐久間裕貴、板垣和幸、武山佳代、塩野義人、貫名学、木村賢一、村山哲也 (2014) : シモクレン (*Magnolia liliflora*) 花被に含まれる生理活性物質、日本農芸化学会2014年度大会、東京 (3月)
- (2) 塩野義人、松井紀嘉、小関卓也、村山哲也、阿部友美、木村賢一 (2014) : マメザヤタケ (*Xylaria polymorpha*) より単離したイソピマラン型ジテルペン類について、日本農芸化学会2014年度大会、東京 (3月)

### 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Yoshihito Shiono, Norika Matsui, Sadayoshi Motoki, Takuya Koseki, Tetsuya Murayama, Eunsang Kwon, Tomomi Abe, Masato Tojima, Ken-ichi Kimura (2013): New Isopimarane Diterpenoids from Fruiting Bodies of *Xylaria polymorpha*, 15th Asian Chemical Congress 2013, Singapore.

## 俵谷圭太郎

### 1-① 著書

- (1) 俵谷圭太郎 (2013)アーバスキュラー菌根、菌類の事典、朝倉書店、308-307

### 1-② 論文

- (1) Tawaraya K, Horie R, Saito A, Shinano T, Wagatsuma T, Saito K, Oikawa A (2013): Metabolite Profiling of Shoot Extracts, Root Extracts, and Root Exudates of Rice Plant under Phosphorus Deficiency. *J Plant Nutr* 36, 1138-1159.
- (2) Wulandari D, Saridi S, Cheng W, Tawaraya K (2014): Arbuscular Mycorrhizal Colonization Enhanced Early Growth of *Mallotus paniculatus* and *Albizia saman* under Nursery Conditions in East Kalimantan, Indonesia. *International Journal of Forestry Research* 2014, 1-8.



### 1-③ 学会発表（国内学会）

- (1) Wulandari, D Cheng W., Tawaraya K. (2013) Arbuscular mycorrhizal colonization enhanced early growth of *Samanea saman* and *Mallotus paniculatus* under nursery condition in East Kalimantan, Indonesia. 日本土壌肥料学会 2013年度名古屋大会
- (2) 佐藤 匠、程 為国、江澤辰広、俵谷圭太郎 (2013) アーバスキュラー菌根菌の外生菌糸が浸出する酸性ホスファターゼ活性の低リン条件下における応答 日本土壌肥料学会 2013年度名古屋大会
- (3) 俵谷圭太郎、山崎優美子、程為国、中場勝、岡咲洋三、斉藤和季、及川彰、我妻忠雄(2013) リン欠乏条件下におけるイネの脂質メタボローム解析 日本土壌肥料学会 2013年度名古屋大会

### 1-④ 学会発表（国際学会）

- (1) Tawaraya, K Yamazaki, Y Cheng, W. Chuba, M. Okazaki, Y. Saito, K. Oikawa, A. Wagatsuma, W. (2013): Lipidome profiling of phosphorus-deficient rice cultivars reveals remodeling of membrane lipids as a mechanism of low P tolerance, XVII International Plant Nutrition Colloquium, Turkey
- (2) Tawaraya, K. Dewi, W. and Cheng, W. Wagatsuma, T. (2013): Utilization of mycorrhizal fungi for remediation of post coal mining land in Indonesia, 11th International Conference East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies, Indonesia

## 村山秀樹

### 1-① 著書

- (1) 村山秀樹 (2013) 第1章 抗菌・抗ウイルス性能の試験方法と評価技術. 第29節 銀ナノ粒子の抗菌効果とその応用の可能性. p. 175-179. 抗菌・抗ウイルス材料の開発・評価と加工技術. 技術情報協会. 東京

### 1-② 論文

- (1) K. Ueda, K. Tawaraya, H. Murayama, S. Sato, T. Nishizawa, T. Toyomasu, T. Murayama, S. Shiozawa, H. Yasuda. 2013. Effects of arbuscular mycorrhizal fungi on the abundance of foliar-feeding insects and their natural enemy. *Applied Entomology and Zoology*, 48: 79-85.
- (2) K. Isuzugawa, H. Murayama, T. Nishio. 2014. Characterization of a giant-fruit mutant exhibiting fruit-limited polyploidization in pear (*Pyrus communis* L.). *Scientia Horticulturae*, 170: 196-202.

### 1-③ 学会発表（国内学会）

- (1) 村山秀樹・吉岡彩子・松田成美・米野智弥・及川 彰(2013)：フィルム包装を用いたブドウ‘シャインマスカット’果実の品質保持に関する研究. 日本食品保蔵科学会第62回大会講演要旨集、
- (2) 村山秀樹・小飯塚紗季・板井章浩・斉藤和季・及川 彰 (2013)：セイヨウナシ果実における樹上成熟ならびに追熟中の代謝産物の変動, 園芸学研究、12別2,
- (3) 及川彰・大塚貴生・中林亮・軸丸裕介・五十鈴川寛司・村山秀樹・斉藤和季・白武勝裕 (2013)：オウトウのメタボローム・ホルモノーム解析, 園芸学研究、12別2,
- (4) 大塚貴生・中林亮・軸丸裕介・五十鈴川寛司・村山秀樹・斉藤和季・白武勝裕・及川彰 (2013)：バラ科果樹統合オミクスデータベース“Fruits Omics Database”, 園芸学研究、12別2,

- (5) 板井章浩・児玉克也・虎尾亮・金高伸悟・森下恭行・西谷千佳子・山本俊哉・清水徳朗・及川彰・斉藤和季・羽生剛・村山秀樹 (2013) : ナシにおけるメタキセニア現象の分子機構の解析, 園芸学研究、12別2,
- (6) 森下恭行・三島理絵・金高伸悟・羽生剛・村山秀樹・板井章浩 (2014) : 次世代シーケンサーを用いたトランスクリプトーム解析によるナシ着果制御機構の解明, 園芸学研究、13別1

#### 1-④ 学会発表 (国際学会)

- (1) H. Murayama, M. Shimomura, A. Kodama (2013) Quality of modified atmosphere packaged 'Benisyuho' sweet cherries. 7th International Cherry Symposium. Spain

#### 1-⑤ その他の研究活動

- (1) 村山秀樹 (2013) : オウトウとセイヨウナシの収穫後管理. . 日本食品保蔵科学会第62回大会シンポジウム

## 江頭宏昌

#### 1-① 著書

- (1) 江頭宏昌 (2013) 「在来作物」の再評価と利用～山形在来作物研究会と周辺の取り組みから～、「種から種へつなぐ」、創森社
- (2) 江頭宏昌 (2013) 宝谷カブを守ってきた農家を支援する取り組みと食の甲子園®、和食と食育、アイ・ケイ コーポレーション

#### 1-② その他の研究活動

- (1) 江頭宏昌 (2013) : 特集「花を食べる」責任編集および解説記事3つ「食用菊の漬物」、「日本で食べられてきた花茎」および「人はなぜ花を食べるのか」、食文化雑誌Vesta2013 SPRING No. 90 (5月1日発行)
- (2) 江頭宏昌 (2013) : 「庄内の在来野菜 孟宗」、松柏2013年6月15日号に掲載
- (3) 江頭宏昌 (2013) : 「庄内で水稻民間育種がなぜ始まったのか」、松柏2013年9月15日号に掲載

## 程為国

#### 1-① 論文

- (1) Wulandari, D., Saridi, Weiguo Cheng, W., Tawaraya, K. (2014) Arbuscular mycorrhizal colonization enhanced early growth of *Mallotus paniculatus* and *Albizia saman* under nursery conditions in East Kalimantan, Indonesiain. *International Journal of Forestry Research*, <http://dx.doi.org/10.1155/2014/898494>.
- (2) Zhu, C., Cheng, W., Sakai, H., Oikawa, S., Laza, R.C., Usui, Y., Hasegawa, T. (2013) Effects of elevated [CO<sub>2</sub>] on stem and root lodging among rice cultivars. *Chinese Sciences Bulletin*, 58: 1787-1794.
- (3) Fumoto, T., Hasegawa, T., Cheng, W., Hoque, M.M., Yamakawa, Y., Shimono, H., Kobayashi, K., Okada, M., Li, C., Yagi, K. (2013) Application of a process-based biogeochemistry model, DNDC-Rice, to a rice field under free-air CO<sub>2</sub> enrichment (FACE). *Journal of Agricultural Meteorology*, 69: 173-190.

## 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 程 為国・岡本有加・佐藤秀平・笠原勝也・俵谷圭太郎：イネからのメタン放出量と根由来の有機物量におけるイネ品種間差の検討、日本土壌肥料学会2013年度東北支部会、福島、講演要旨資料、p.5、(2013年7月)
- (2) 程 為国・劉 田・湯 水栄・服部 聡・林田光祐・俵谷圭太郎・黄 耀：水田と湿地土壌における炭素分解能と窒素無機化のモデル解析、日本土壌肥料学会2013年大会、名古屋、講演要旨集 第59集、p.178、(2013年9月)
- (3) 程 為国：近代日中土壌学交流の先駆者(1)板野新夫：板野新夫とSelman A. Waksmanの時代、日本土壌肥料学会2013年大会、名古屋、講演要旨集 第59集、p.195、(2013年9月)
- (4) 程 為国・湯 水栄・笠原勝也・俵谷圭太郎・長谷川利拡：水田圃場における土壌炭素・窒素量の年次変動に及ぼす温度上昇の影響、2013年度日本農業気象学会東北支部大会、盛岡、(2013年8月)
- (5) 程 為国 (2014) 気候変動が作物生産と温室効果ガスに与える影響：稲作生産とメタン放出のバランスについて、日本作物学会第237回講演会、千葉、講演要旨・資料集 日本作物学会記事 第83巻別号1、p.474-475、(2014年3月)

## 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Weiguo Cheng (2013) Combined use of Azolla and loach increased organically farmed rice yield by suppressing weed *Monochoria vaginalis* emergence. September 18-19, 2013, Hanoi, Vietnam
- (2) Weiguo Cheng, Yuka Okamoto, Shuhei Sato, Katsuya Kasahara, Keitaro Tawaraya, Hironori Yasuda (2013) Combined use of Azolla and loach suppressed weed *Monochoria vaginalis* and increased organically farmed rice yield. The 11th International Symposium on Integrated Field Science "Utilization of organic resources and Environmental protection" August 1-2, 2013, Matsushima, Japan.

## 笹沼恒男

### 1-① 論文

- (1) Y.Takahashi, T.Sasanuma, T.Abe (2013) : Accumulation of gamma-aminobutyrate (GABA) caused by heat-drying and expression of related genes in immature vegetable soybean (*edamame*). *Breeding Science*, 63, 205-213.
- (2) R.Otake, T.Sasanuma, T.Abe (2014) : Effect of endogenous hydrolytic enzymes on glucose liberation and ecotypical difference in hot-water-treated grains (*Oryza sativa* L.). *Food Science and Technology Research*, 20, 161-165.

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 笹沼恒男、稲葉有紀、阿部利徳 (2013年10月13日) : トウガラシの果実色を決定する遺伝機構に関する再考察、日本育種学会第124回講演会要旨集、190.
- (2) 笹沼恒男、稲葉有紀、阿部利徳 (2013年11月2日) : トウガラシ果実色決定機構における *Psy* 遺伝子の対立遺伝子変異の役割、第8回東北育種研究集会要旨集、27.
- (3) 工藤瑛司、大谷修平、阿部利徳、笹沼恒男 (2013年11月2日) : チモフェービ系コムギの野生種と栽培種のF2集団で見られた栽培化関連形質の分離、第8回東北育種研究集会要旨集、28.
- (4) 相澤由佳里、高橋優利佳、笹沼恒男 (2013年11月2日) : 最上紅花の花弁収穫用品種としての適性評価と主要農業形質の系統間比較、第8回東北育種研究集会要旨集、29.

- (5) 赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男 (2013年11月2日) : 北コーカサスで採集されたタルホコムギの穂の形態学的特徴付け、第8回東北育種研究集会要旨集、30.
- (6) 笹沼恒男、J. Sadybakasova、N. Zhumakadyrova、U. A. Kydykbekovich、O. N. Kovaleva、佐藤和広、辻本壽 (2014年3月21日) : キルギスにおけるムギ類遺伝資源の探索及び収集、日本育種学会第125回講演会要旨集、39.
- (7) 赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男 (2014年3月22日) : 北コーカサスで採集されたタルホコムギの現地と日本での形態比較、日本育種学会第125回講演会要旨集、153.
- (8) 工藤瑛司、阿部利徳、笹沼恒男 (2014年3月22日) : チモフェービ系コムギの栽培化関連形質に関する遺伝解析、日本育種学会第125回講演会要旨集、156.

### 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) E. Kudo, S. Otani, T. Abe, T. Sasanuma (2013年9月9日) : Reproductive diversification of Timopheevi wheat and reconsideration of its domestication, The 12th International Wheat Genetics Symposium, 日本.
- (2) T. Sasanuma, A. Kakizaki, T. Abe, T. Kawahara, T. N. Smekalova, K. Sato (2013年9月9日) : Profiling of *Aegilops tauschii* collected in the North Caucasia, The 12th International Wheat Genetics Symposium, 日本.

## 及川 彰

### 1-① 著書

- (1) 及川彰 (2013) メタボロミクスの応用, “ニュートリゲノミクスを基盤としたバイオマーカーの開発”, 大澤俊彦, 合田敏尚監修, pp. 63-68. シーエムシー出版

### 1-② 論文

- (1) Osanai, T., Numaka, K., Oikawa, A., Kuwahara, A., Iijima, H., Doi, Y., Tanaka, K., Saito, K., Hirai, M. Y., 2013, Increased Bioplastic Production with an RNA Polymerase Sigma Factor SigE during Nitrogen Starvation in *Synechocystis* sp. PCC 6803. *DNA Research*, 20, 525-535.
- (2) Osanai, T., Oikawa, A., Shirai, T., Kuwahara, A., Iijima, H., Tanaka, K., Ikeuchi, M., Kondo, A., Saito, K., Yokota-Hirai, M., 2014, Capillary Electrophoresis-Mass Spectrometry Reveals the Distribution of Carbon Metabolites during Nitrogen Starvation in *Synechocystis* sp. PCC 6803. *Environmental Microbiology*, 16, 512-524.
- (3) Tawaraya, K., Horie, R., Saito, A., Shinano, T., Wagatsuma, T., Saito, K., Oikawa, A., 2013, Metabolite profiling of shoot extracts, root extracts, and root exudates of rice plant under phosphorus deficiency. *Journal of Plant Nutrition*, 36, 1138-1159.
- (4) 及川彰, 2013, 食品のメタボローム解析動向, *食品と開発*, 48, 4-6.
- (5) 及川彰, 2013, メタボロミクスの農業・食品分野への応用, *化学と生物*, 51, 615-621.
- (6) 及川彰, 2013, セイヨウナシ果実のメタボローム解析, *果実日本*, 68, 80-82.

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 及川彰, 20130920-22, オウトウのメタボローム・ホルモノーム解析, 園芸学会秋季大会, 盛岡.
- (2) 及川彰, 20131003-04, オウトウのメタボローム解析, メタボロームシンポジウム, 福岡.
- (3) 及川彰, 20140327-30, バラ科果樹果実のメタボローム解析, 農芸化学会, 東京.

## 1-④ 学会発表 (国際学会)

- (1) A. Oikawa, 20130623-27, Metabolic Profiling during Cherry Fruit Development and Ripening. 7th International Cherry Symposium, Spain.

## 星野友紀

### 1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 星野友紀、杉本和彦(2013) : DNA修復欠損突然変異体を利用したイネ高変異率突然変異リソース開発への試み、第8回東北育種研究集会
- (2) 穴井豊昭、星野友紀、渡邊啓史、高木胖 (2013) 逆遺伝学的酒豪を用いた低リノレン酸ダイズ系統の開発、第31回日本植物細胞分子生物学会大会・シンポジウム要旨集、P-14
- (3) 横井彩子、星野友紀、杉本和彦、ボイタスタニエル、土岐精一 (2014) : NHEJ欠損が人工制限酵素TALENs誘導性の変異様式に及ぼす影響、第55回日本植物生理学会年会要旨集、PF302
- (4) 横井彩子、星野友紀、杉本和彦、ボイタスタニエル、土岐精一 (2014) : イネにおける人口制限酵素TALENsによる標的変異技術、日本育種学会第125回講演会要旨集、702

### 1-② 学会発表 (国際学会)

- (1) Tomoki Hoshino, Salem Marzougui, Yoshinobu Takeuchi, Utako Yamanouchi, Yosuke Mizuno, Masahiro Yano, Kazuhiko Sugimoto (2013) : Sdr7, a rice ortholog of Arabidopsis Delay of Germination 1, plays an important role in controlling preharvest sprouting resistance. Plant Dormancy Symposium 2013, Auckland, New Zealand

## 服部聡

### 1-① 論文

- (1) S. Hattori\*, Y. Hongoh, T. Itoh, P. Deevong, S. Trakulnaleamsai, N. Noparatnaraporn, T. Kudo, and M. Ohkuma (2013) : *Sporomusa intestinalis* sp. nov., a homoacetogenic bacterium isolated from the gut of a higher termite, *Termes comis* (Termitinae). The Journal of General and Applied Microbiology, 59: 321-324.

# 森林科学コース

## 菊間満

### 1-① 著書

- (1) 菊間 満 (2013) : 世界と日本における人間らしい林業労働 (信州大学森林政策学研究会編、小池正雄・三木敦朗監『日本・アジアの森林と林業労働』川辺書林、所収)

### 1-② 論文

- (1) 菊間 満 (2013) : 林業労働者の持続性がなければ、森林管理の持続性は実現しない、建設政策、No.149、1頁

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 菊間 満 (2013) : 森林組合政策と森林組合論に関する研究批判、2013年森林組合ミニシンポジウム (山大農学部林政学研究室 (招待講演))

### 1-④ その他の研究活動

- (1) 健康・循環・庄内の目線から家づくりを考える会・第一回で報告及び助言 (2013年9月3日、酒田市)
- (2) 森林組合全国職員連盟「全国研究集会」で基調講演 (2013年9月20日、秋田市)
- (3) 酒田市議及び市職員員への林業・住宅産業論の講義 (2013年10月15日、山形大学農学部)
- (4) さかた木づかい夢ネット「山大林政学研究室の卒論等発表会」で報告とコメント (2014年2月28日、酒田市)

## 野堀嘉裕

### 1-① 著書

- (1) Edited by Takeda K., Lopez C.M.L., Mizota C., Nobori Y., Ishida S., Battur B. and Byambasuren M. (2013) Multidisciplinary Research on Mongolian Ecosystems. Conference Proceedings from Second International Symposium by Japan and Mongolia, 103pp, Japan Society of Forest Planning Press. (ISBN : 978-4-915870-44-6)

### 1-② 論文

- (1) 瀧誠志郎・野堀嘉裕・Lopez Caseres Maximo Larry・武田一夫 (2013) 海岸クロマツ林における林齢別Y-N曲線を組み込んだ重量値による収量-密度図の構築. 日森林誌 95: 206-213.
- (2) Lopez C.M.L., Ishida S., Takeda K., Nobori Y., Mizota C., Byambasuren M. (2013) Larch forest growth and climate reconstruction based on tree-ring analysis during the last century in northern Mongolia. Multidisciplinary Research on Mongolian Ecosystems. Conference Proceedings from Second International Symposium by Japan and Mongolia, 2013, 3-8.
- (3) Ishida S., Lopez C.M.L., Takeda K., Nobori Y., Mizota C., Byambasuren M. (2013) Potential climate conditions of forest fire in northern Mongolia. Multidisciplinary Research on Mongolian Ecosystems. Conference Proceedings from Second International Symposium by Japan and Mongolia, 2013, 9-14.

- (4) Nobori Y., Taki S., Lopez C.M.L., Takeda K., Ishida S. and Mizota C. (2013) Types of forest fire and biomass decreasing patterns in northern Mongolian forests. Multidisciplinary Research on Mongolian Ecosystems. Conference Proceedings from Second International Symposium by Japan and Mongolia, 2013, 15-20.
- (5) Taki S., Nobori Y., Lopez C.M.L., Takeda K., Ishida S., Mizota C. (2013) A simulation of larch forest dynamics associated with fire in northern Mongolia. Multidisciplinary Research on Mongolian Ecosystems. Conference Proceedings from Second International Symposium by Japan and Mongolia, 2013, 21-26.
- (6) Takeda K., Torita H., Nobori Y., Lopez C.M.L., Itoh J. (2013) Regeneration in burned larch forests of Hovsgol region, northern Mongolia. Multidisciplinary Research on Mongolian Ecosystems. Conference Proceedings from Second International Symposium by Japan and Mongolia, 2013, 27-34.

### 1-③ 学会発表（国内学会）

- (1) 小松平清子・南 佳織・佐々木美貴・増田京佑・野堀嘉裕 (2013年8月30日) 羽黒山スギ並木の現状と課題. 東北森林科学会大会要旨集 18回: 13-13.
- (2) 南佳織・野堀嘉裕・瀧誠志郎 (2013年8月30日) 宮城県海岸クロマツ林の再生までの期間予測と構造シミュレーション. 東北森林科学会大会要旨集 18回: 18-18.
- (3) 佐々木美貴・南 佳織・小松平清子・増田京佑・野堀嘉裕 (2013年8月30日) GISを用いた野生動物の行動範囲と植生の関係. 東北森林科学会大会要旨集 18回: 50-50.
- (4) 南 佳織・野堀嘉裕・瀧誠志郎 (2014年3月29日) 宮城県海岸クロマツ林の収量-密度曲線. 日本森林学会 125回大会 (P2-013)
- (5) 武田一夫・有馬遼子・野堀嘉裕・Lopez Larry・石田祐宣・瀧誠志郎 (2014年3月29日) モンゴル北部におけるカラマツ林の発達と放牧活動との関係. 日本森林学会 125回大会 (P2-108)
- (6) 野堀嘉裕・瀧誠志郎・Lopez Larry・武田一夫・石田祐宣 (2014年3月29日) モンゴル北部に生育するカラマツとトウヒの重量成長. 日本森林学会 125回大会 (P2-111)

### 1-④ 学会発表（国際学会）

- (1) Lopez C.M.L., Ishida S., Takeda K., Nobori Y., Mizota C., Byambasuren M. (2013) Larch forest growth and climate reconstruction based on tree-ring analysis during the last century in northern Mongolia. Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia
- (2) Ishida S., Lopez C.M.L., Takeda K., Nobori Y., Mizota C., Byambasuren M. (2013) Potential climate conditions of forest fire in northern Mongolia. Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia
- (3) Nobori Y., Taki S., Lopez C.M.L., Takeda K., Ishida S. and Mizota C. (2013) Types of forest fire and biomass decreasing patterns in northern Mongolian forests. Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia
- (4) Taki S., Nobori Y., Lopez C.M.L., Takeda K., Ishida S., Mizota C. (2013) A simulation of larch forest dynamics associated with fire in northern Mongolia. Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia
- (5) Takeda K., Torita H., Nobori Y., Lopez C.M.L., Itoh J. (2013) Regeneration in burned larch forests of Hovsgol region, northern Mongolia. Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia

### 1-⑤ その他の研究活動

- (1) 野堀嘉裕 (2013) 何百年のブナの森. 庄内日報 8月15日

## 高橋孝悦

### 1-① 論文

- (1) Tatsuya Ashitani\*, Norihisa Kusumoto, Anna-Karin Borg-Karlson, Koki Fujita, and Koetsu Takahashi (2013): Antitermite Activity of  $\beta$ -Caryophyllene Epoxide and Episulfide, *Zeitschrift für Naturforschung C*, 68, 302-306
- (2) N. Kusumoto, T. Zhao, G. Swedjemark, T. Ashitani, K. Takahashi and A.-K. Borg-Karlson (2014): Antifungal properties of terpenoids in *Picea abies* against *Heterobasidion parviporum*, *Forest Pathology*, DOI: 10.1111/efp.12106
- (3) Norihisa Kusumoto, Nobuhiro Aburahi, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi, Ken-ichi Kimura (2014): Pharmacological Prospects of Oxygenated Abietane-Type Diterpenoids from *Taxodium distichum* Cones, *Advances in Biological Chemistry*, 4(2), 109-115

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 小林憲史, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013) : グリコール・バイサルファイト法によるスギ樹皮の低温蒸解, 東北森林科学会第18回大会講演要旨集, p. 26
- (2) 富田莉奈, 小林ひかる, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013) : スギ針葉の植物生長抑制効果, 東北森林科学会第18回大会講演要旨集, p. 27
- (3) 西條裕美, 小藤田久義, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013): Ferruginolの抗酸化活性及び抗酸化機構II, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-14
- (4) 富田莉奈, 小林ひかる, 西條裕美, 小山浩正, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013): スギ針葉の植物生長抑制効果, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-15
- (5) 佐藤京子, 西條裕美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2013): スギ個体内のFerruginolの分布について, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-16
- (6) 寺崎史也, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2013): ブナ (*Fagus crenata*) の抽出成分と抗菌活性について, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-17
- (7) 向井堯徳, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013): Longifoleneの自動酸化反応の解析と生成物の抗蟻活性, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-18
- (8) 小林憲史, 亀井一郎, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013): ポリエチレングリコール・バイサルファイト法によるスギ樹皮の液化と液化残渣の酵素糖化, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM Q13-P-16

### 1-③ 学会発表 (国外学会)

- (1) Morikawa Takuya, Ashitani Tatsuya, Takahashi Koetsu (2013): Antitermitic Activities of Branch Heartwood Extracts of *Chamaecyparis obtusa*, International Chemical Ecology Conference, Abstracts, p. 135. August 19 - 23, Melbourne, Australia
- (2) Yohei YAMASHITA, Tatsuya ASHITANI, Naoya HASHIMOTO, Koetsu TAKAHASHI (2013): Acaricidal Activity of *Cryptomeria japonica* Leaf Components against Spider Mites, International Chemical Ecology Conference, Abstracts, p. 157. August 19 - 23, Melbourne, Australia

## 森 茂太

### 1-① 論文

- (1) 森茂太 (2014) : 芽生えから巨木の個体呼吸スケーリング. 光合成研究, 24, 27-33.



- (2) Kenji ONO, Yukio YASUDA, Toru MATSUO, Daisuke Hoshino, Yukihiro CHIBA and Shigeta MORI (2013) : Estimating forest biomass using allometric model in a cool-temperate *Fagus crenata* forest in the Appi Highlands, Iwate, Japan. Bulletin of FFPRI 428, 125 - 141.

## 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 森茂太 (2013) :、植物学会シンポジウム講演要旨、33、 (招待講演)
- (2) 森茂太 (2014) : 不均一環境で根を含む個体呼吸はどんな可塑性を持つか? スギ、ブナの類似性、日本森林学会講演要旨集125、70.
- (3) 飯沼久仁佳・小山正浩・芦谷竜矢・森茂太 (2014) : 中規模開花年におけるブナの繁殖・防御・貯蔵、日本森林学会講演要旨集125、111.
- (4) 加藤翔子・小山浩正・森茂太・今博計 (2014) : 上層木の開葉フェノロジーが下層のブナ稚樹の生育に与える影響、日本森林学会講演要旨集125、242.
- (5) 山下吉国・小山浩正・森茂太 (2014) : クズがマンと群落を形成する要因と資源利用のための現存量把握、日本森林学会講演要旨集125、244.
- (6) 東澤春菜・小山浩正・森茂太 (2014) : 堅果サイズの変動を考慮したミズナラ堅果生産量の年次変動、日本森林学会講演要旨集125、244.
- (7) 飯沼久仁佳・小山正浩・芦谷竜矢・森茂太 (2014) : ブナ個体毎の繁・防御のトレードオフ関係、東北森林科学会講演要旨集18 : 53.
- (8) 小野賢二・安田幸生・星野大介・千葉幸弘・森茂太 (2014) : 安比森林微気象観測共同試験地ブナ二次林における地上部・地下部バイオマス現存量の推定、東北森林科学会講演要旨集. 18 : 25.
- (9) 加藤翔子・小山浩正・森茂太・今博計 (2014) 上層木の開葉フェノロジーが下層のブナ稚樹の成長に与える影響. 東北森林科学会講演要旨集. 18 : 52.
- (10) 山下吉国・小山浩正・森茂太 (2014) : クズがマント群落を形成する要因、東北森林学会講演要旨集18、51..

## 林田光祐

### 1-① 論文

- (1) 山中啓介・藤原道郎・林田光祐・後藤義明・鈴木覚・宮前崇・井上章二・小谷英司・坂本知己 (2013) : 平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震で発生した津波が仙台市井土地区の海岸林に及ぼした影響 (II) -アカマツ・クロマツ大径木で構成される海岸林の被害状況 - . 海岸林学会誌, 12, 1-7.
- (2) 林田光祐 (2013) : 津波による攪乱を受けなかった三陸南部の八景島と樺島の照葉樹林. 海岸林学会誌, 12, 9-12.

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 林田光祐 (2013) : 震災後の海岸林再生に向けた広葉樹の津波に対する耐性の評価と造成方法. 東北森林科学会大会講演要旨集、18、1.
- (2) 星野大介・金子智紀・田村浩喜・渡部公一・岡田穰・林田光祐・坂本知己 (2013) : 三陸北部で津波被害を受けたマツと落葉広葉樹の耐塩水性の評価. 東北森林科学会大会講演要旨集、18、2.
- (3) 本田詩織・林田光祐 (2013) : 三陸南部で津波被害を受けた落葉および常緑広葉樹の耐塩水性の評価. 東北森林科学会大会講演要旨集、18、3.
- (4) 岡田穰・坂本知己・後藤義明・林田光祐 (2013) : 平成23年東北地方太平洋沖地震津波による屋敷林および社寺林の被害からみた広葉樹の耐塩水性の評価. 東北森林科学会大会講演要旨集、18、4.

- (5) 渡部公一・林田光祐 (2013) : 海岸への植栽に適した広葉樹苗木の育成. 東北森林科学会大会講演要旨集、18、6.
- (6) 花井滉大・林田光祐 (2013) : 東北日本海側低山帯における小流域25haの大径木の毎木調査から判別できた高木10種の生育適地. 東北森林科学会大会講演要旨集、18、56.
- (7) 渡部公一・齊藤正一・上野満・須藤泰典・高内将文・林田光祐 (2013) : 海岸砂丘クロマツ林内への樹下植栽に耐える広葉樹種の評価. 日本海岸林学会大会講演要旨集、25、8-9.
- (8) 本田詩織・林田光祐 (2013) : 三陸南部の津波浸水地における広葉樹6種の個体のサイズと生育地盤高の違いが被害の程度に及ぼす影響. 日本海岸林学会大会講演要旨集、25、12-13.
- (9) 林田光祐・岡田穰・金子智紀・坂本知己 (2013) : 津波による常緑広葉樹の被害と萌芽枝発生に及ぼす微地形の影響. 日本海岸林学会大会講演要旨集、25、14-15.
- (10) 花井滉大・林田光祐 (2013) : 東北日本海側低山帯における小流域全域の大径木の毎木調査から判別できた高木種の生育適地. 日本生態学会東北地区会報、74、29.
- (11) 小林峻大・伊藤咲音・林田光祐 (2014) : イヌワシ保全のための列状間伐地における伐採幅の違いがノウサギ誘因効果に及ぼす影響. 日本生態学会大会講演要旨集、61、PA2-148.
- (12) 高橋あかり・林田光祐 (2014) : 常緑低木の除去と落ち葉掻きがコナラ当年生実生の生残と成長に及ぼす影響. 日本森林学会大会学術講演集、125、96.
- (13) 桑原景子・林田光祐・高橋誠 (2014) : クロマツ海岸林におけるオオタカとノスリの繁殖環境の選択に影響する要因. 日本森林学会大会学術講演集、125、119.
- (14) 林田光祐・蜂谷瑞季・坂本知己 (2014) : 仙台井土浦海岸林における2011年津波後の植生回復. 日本森林学会大会学術講演集、125、240.

### 1-③ その他の研究活動

- (1) 林田光祐ほか (2014) : 大山上池・下池、都沢湿地における植生に関する研究報告書 (平成25年度). 45pp. 2014年3月、鶴岡市.

## 小山浩正

### 1-① 著書

- (1) 小山浩正 (2013) 第14章 森を知り、まもり、つくる. p 363-386. 農学入門—食料・生命・環境科学の魅力—. 安田弘法ら編著. 養賢堂.

### 1-② 論文

- (1) 田熊亮介・小山浩正\* (2013) 河川敷におけるニセアカシア駆除の工法別の有効性. 森林立地学会誌. 55:37-42.
- (2) Shiono, Y., Haga, M., Koyama, H., Murayama, T. and Koseki, T. (2013) Antifungal Activity of a polyacetylene against the fungal pathogen of Japanese Oak from the liquid culture of the edible mushroom, *Hypsizygus marmoreus*. Z. Naturforsch. 68: 293-295.
- (3) 遠藤貴己・森 貴之・伊藤 聡・小山浩正\* (2013) 山形県におけるブナ豊凶予測の検証. 森林立地学会誌. 55:127-132.

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 高野智也・小関卓也・小山浩正・塩野義人, 平成25年10月26日, ナラ枯れの倒木より単離した糸状菌TT-10株が生産するナラ菌生育阻害活性物質について. 日本農芸化学会東北支部会第148回大会.

- (2) 阿部友幸・寺田文子・小山浩正，平成25年11月12日，乾燥冷凍貯蔵したブナ堅果の発芽率の地域変異. 第62回北方森林学会大会.
- (3) 山下吉國・小山浩正・森茂太，平成25年8月29日，クズの成長特性とマント群落を形成する要因. 東北森林科学会第18回大会.
- (4) 加藤翔子・小山浩正・森茂太・今博計，平成25年8月29日，上層木の開葉フェノロジーが下層のブナ稚樹の成長に与える影響. 東北森林科学会第18回大会.
- (5) 飯沼久仁佳・小山浩正・芦谷竜矢・森茂太，平成25年8月29日，ブナ開花個体ごとの繁殖・防御のトレード・オフ関係. 東北森林科学会第18回大会.
- (6) 富田莉奈・小林ひかる・西条裕美・小山浩正・高橋孝悦・芦谷竜矢，平成26年3月13日，スギ針葉の植物生長抑制効果（Ⅱ）. 第64回日本木材学会大会.
- (7) 加藤翔子・小山浩正・森茂太・今博計，平成26年3月29日，上層木の開葉フェノロジーが下層のブナ稚樹の成育に与える影響. 125回日本森林学会大会.
- (8) 東澤春菜・小山浩正・森茂太・佐藤充，平成26年3月29日，堅果サイズの変動を考慮したミズナラ堅果生産量の年次変動. 第125回日本森林学会大会.
- (9) 飯沼久仁佳・小山浩正・芦谷竜矢・森茂太，平成26年3月29日，中規模開花年におけるブナの繁殖・防御・貯蔵特性の個体差. 125回日本森林学会大会.
- (10) 山下吉國・小山浩正・森茂太，平成26年3月29日，クズがマント群落を形成する要因と資源利用のための現存量の把握. 125回日本森林学会大会.

#### 1-④ その他の研究活動

- (1) 小山浩正（2013）：「森の時間」連載，荘内日報2013年4月10日～2014年3月12日

### 芦谷竜矢

#### 1-① 論文

- (1) Tatsuya Ashitani\*, Norihisa Kusumoto, Anna-Karin Borg-Karlson, Koki Fujita, and Koetsu Takahashi (2013): Antitermite Activity of  $\beta$ -Caryophyllene Epoxide and Episulfide, *Zeitschrift für Naturforschung C*, 68, 302-306
- (2) Koki Fujita, Yasufumi Bunyu, Ken'ich Kuroda, Tatsuya Ashitani, Jun Shigeto, and Yuji Tsutsumi (2014): A novel synthetic pathway for tropolone ring formation via the olefin monoterpene intermediate terpinolene in cultured *Cupressus lusitanica* cells, *Journal of Plant Physiology*, 171, 610-614
- (3) N. Kusumoto, T. Zhao, G. Swedjemark, T. Ashitani, K. Takahashi and A.-K. Borg-Karlson (2014): Antifungal properties of terpenoids in *Picea abies* against *Heterobasidion parviporum*, *Forest Pathology*, DOI: 10.1111/efp.12106
- (4) Norihisa Kusumoto, Nobuhiro Aburui, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi, Ken-ichi Kimura (2014): Pharmacological Prospects of Oxygenated Abietane-Type Diterpenoids from *Taxodium distichum* Cones, *Advances in Biological Chemistry*, 4(2), 109-115

#### 1-② 学会発表（国内学会）

- (1) 小林憲史，高橋孝悦，芦谷竜矢（2013）：グリコール・バイサルファイト法によるスギ樹皮の低温蒸解，東北森林科学会第18回大会講演要旨集，p. 26
- (2) 富田莉奈，小林ひかる，高橋孝悦，芦谷竜矢（2013）：スギ針葉の植物生長抑制効果，東北森林科学会第18回大会講演要旨集，p. 27
- (3) 神戸良，藤田弘毅，芦谷竜矢，堤祐司（2013）：*Cupressus lusitanica*培養細胞が気相中に発散するモノテルペンの役割，第57回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会講演要旨集，p. 118
- (4) 西條裕美，小藤田久義，高橋孝悦，芦谷竜矢（2013）：Ferruginolの抗酸化活性及び抗酸化機構II，第64回日本木材学会大会研究発表要旨集，CD-ROM M13-P-14

- (5) 富田莉奈, 小林ひかる, 西條裕美, 小山浩正, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2013): スギ針葉の植物生長抑制効果, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-15
- (6) 佐藤京子, 西條裕美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦(2013): スギ個体内のFerruginolの分布について, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-16
- (7) 寺崎史也, 芦谷竜矢, 高橋孝悦(2013): ブナ (*Fagus crenata*)の抽出成分と抗菌活性について, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-17
- (8) 向井堯徳, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2013): Longifoleneの自動酸化反応の解析と生成物の抗蟻活性, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M13-P-18
- (9) 小林憲史, 亀井一郎, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2013): ポリエチレングリコール・バイサルファイト法によるスギ樹皮の液化と液化残渣の酵素糖化, 第64回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM Q13-P-16

### 1-③ 学会発表 (国外学会)

- (1) Koki Fujita, Yasufumi Bunyu, Ken'ichi Kuroda, Tatsuya Ashitani, Yuji Tsutsumi (2013): Terpinolene is the first olefin monoterpene intermediate to a tropolone,  $\beta$ -thujaplicin - Potential novel pathway to tropolone ring -, *Terpnet 2013 Abstracts* p. 155. June 1-5, Crete, Greece
- (2) Koki Fujita, Ryo Kanbe, Tatsuya Yagi, Loku Waduge Ransika De Alwis, Tatsuya Ashitani, Yuji Tsutsumi (2013): Air born defense signal transduction cascade with monoterpenes on *Cupressus lusitanica* culture cells, *Terpnet 2013 Abstracts* p. 247. June 1-5, Crete, Greece
- (3) Norihisa KUSUMOTO, Tatsuya ASHITANI, Sakae SHIBUTANI (2013): Transitions of Terpene Components and Antifungal Properties by the Mild Heat Treatments of Conifer Leaf Oils, *International Chemical Ecology Conference, Abstracts*, p. 129. August 19 - 23, Melbourne, Australia
- (4) Morikawa Takuya, Ashitani Tatsuya, Takahashi Koetsu (2013): Antitermitic Activities of Branch Heartwood Extracts of *Chamaecyparis obtusa*, *International Chemical Ecology Conference, Abstracts*, p. 135. August 19 - 23, Melbourne, Australia
- (5) Yohei YAMASHITA, Tatsuya ASHITANI, Naoya HASHIMOTO, Koetsu TAKAHASHI (2013): Acaricidal Activity of *Cryptomeria japonica* Leaf Components against Spider Mites, *International Chemical Ecology Conference, Abstracts*, p. 157. August 19 - 23, Melbourne, Australia

## 早尻正宏

### 1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 日本学術会議公開シンポジウム 福島原発事故による放射能汚染と森林・木材 Part2, 国内会議, 2014年01月, 日本学術会議講堂, 地域林業の原発被災と担い手問題, 口頭 (一般)
- (2) 林業経済学会2013年秋季大会, 国内会議, 2013年11月, 高知大学, 森林組合の原発被災と再建課題, 口頭 (一般)
- (3) JC総研第25回公開研究会, 国内会議, 2013年06月, 明治大学リバティタワー, 原発災害後の森林組合の取組み, 口頭 (一般)

### 1-② その他の研究活動

- (1) 原子力災害後の福島県林業と森林組合の取組み, 公益社団法人大日本山林会, 山林, 1558 19-28, 2014年03月
- (2) 原発事故に翻弄される林業・林産業界, 一般社団法人日本共済協会, 共済と保険, 667 8-11, 2014年01月

- (3) 原発災害後の森林組合の取り組み——その現状と課題，一般社団法人JC総研，協同組合経営研究誌にじ，643，2013年09月
- (4) 平成25年度「緑の雇用」現場技術者育成対策の評価に関する調査報告書

## 江成 広斗

### 1-① 著書

- (1) High Altitude Primates, Springer，2014年01月

### 1-② 論文

- (1) Impact assessment of dam construction and forest management for Japanese macaque habitats in snowy areas, American Journal of Primatology, 76(3) 271-280, 2014年03月, 共著
- (2) Synergistic effects of primates and dung beetles on soil seed accumulation in snow regions, Ecological Research, in press, 2014年, 共著
- (3) Seasonal changes and altitudinal variation in deer fecal pellet decay, European Journal of Wildlife Research, 59 765-768, 2013年09月, 共著
- (4) Influences of different large mammalian fauna on dung beetle diversity in beech forests, Journal of Insect Science, 13(54), 2013年06月, 共著
- (5) 東日本におけるニホンザルの分布変化に影響する社会・環境要因, 哺乳類科学, 53(1) 123-130, 2013年06月, 単著
- (6) Influence of heavy snow on the feeding behavior of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) in northern Japan, American Journal of Primatology, 25 534-544, 2013年06月, 単著
- (7) Resource use of Japanese macaques in heavy snowfall areas: implications for habitat management, Primates, 54(3) 259-269, 2013年06月, 共著

### 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 日本生態学会, 国内会議, 2014年03月, 多雪地における中・大型哺乳類の森林利用とその餌資源量評価, ポスター (一般)
- (2) 日本生態学会, 国内会議, 2014年03月, 針葉樹人工林の広葉樹林化はニホンザルの生息地回復に貢献するか?, ポスター (一般)
- (3) 「野生生物と社会」学会, 国内会議, 2013年11月, 日本農業新聞における鳥獣対策関連記事の動向, ポスター (一般)
- (4) 白神山地世界自然遺産登録20周年記念シンポジウム, 国内会議, 2013年11月, 白神山地における哺乳類の個体群モニタリングの意義と可能性, シンポジウム・ワークショップ パネル (指名)
- (5) 第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会, 国内会議, 2013年09月, ニホンザル特定鳥獣保護管理計画の10年, シンポジウム・ワークショップ パネル (公募)
- (6) 第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会, 国際会議, 2013年09月, 「多雪がニホンザルの採食行動に及ぼす影響: 2012年豪雪を例に」, ポスター (一般)
- (7) 第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会, 国内会議, 2013年09月, 多雪地に生息する中・大型哺乳類の非積雪期における森林利用評価, ポスター (一般)
- (8) 第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会, 国内会議, 2013年09月, シカの糞の分解率の季節変化および標高間での違い, ポスター (一般)

- (9) 第17回野生動物管理学研究センターセミナー，国内会議，2013年09月，岐阜大学，ニホンザル保護管理を巡る科学と現場～問題解決に必要な視点～，公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等
- (10) 「野生生物と社会」学会 グリーンフォーラム，国内会議，2013年05月，東京，白神山地におけるニホンザル管理—生態学者の視点から，公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等

# 水環境科学コース

## 奥山武彦

### 1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 奥山武彦 (2013) : 地すべり斜面浅層地下水の深度別観測、第52回日本地すべり学会研究発表会講演集、177-178

## 安中武幸

### 1-① 論文

- (1) 花山 奨・安中武幸 (2013) : 改良された田面水の対流制御装置による藻類の酸素消費実験、農業農村工学会論文集、285、77-78

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 安中武幸・花山 奨 (2013) : 5TEセンサーによる砂丘メロン畑における土壌水分日変動の測定、平成25年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集、312-313

## 渡邊一哉

### 1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 岡本侑樹、渡邊一哉、吉川尚、Jintana Sakaenoi、石川智士、2013年12月17日、タイ南部バンドン湾におけるCN安定同位体比を用いたフードウェブの推定、同位体環境学シンポジウム (京都)
- (2) 菊地朋希、渡邊一哉、大久保博、2013年11月、イシガイ類からみる農業用水路の環境構造、農業農村工学会東北支部会 (青森)
- (3) Susan PRAISE, Hiroshi OKUBO, Kazuya WATANABE, 2013.November, Manganese Concentration Change along the River Due to Sabo Dams, 農業農村工学会東北支部会 (青森)
- (4) 岡本侑樹、石川智士、今考悦、渡邊一哉、吉川尚、Jintana Salaenoi, 2014年3月31日、タイ南部バンドン湾の貝類養殖域における食物網構造、平成26年度日本水産学会春季大会 (海道大学)

### 1-② 学会発表 (国際学会)

- (1) Takashi Yoshikawa, Sukchai Arnupapboon, Ratana Munprasit, Jintana Salaenoi, Kazuya Watanabe, Yuki Okamoto, Udom Khrueniam, Takafumi Arimoto, 2013. November, Environmental Assessment and Ecosystem Health Survey (Component 3): Progress Report of Activities in Thailand, Thailand

## 渡部徹

### 1-① 著書

- (1) Toru Watanabe, Chen Jinxian, Wei Chunhai, Ryo Honda, Fumiyuki Nakajima and Kazuo Yamamoto (2013) Performance of long-term operation of membrane bioreactor with in-line sludge thickener enhanced by inclined tubes (itMBR). In: Southeast Asian Water Environment 5 (Edited by K. Yamamoto, H. Furumai, H. Katayama, C. Chiemchaisri, U. Puetpaiboon, C. Visvanathan, H. Satoh), pp.103-109, IWA Publishing, London, UK.

## 1-② 論文

- (1) 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹 (2013) 低pH抽出法及び酵素抽出法を用いた養殖カキからのノロウイルスの定量検出, 土木学会論文集G (環境), 69(7), III\_657-III\_665
- (2) Toru Watanabe, Sondra Teske\*, Charles N. Haas (2013) Classic dose response and time post inoculation models for Leptospira. Risk Analysis, in press
- (3) 渡部徹, 井田真悟, 福士謙介, 中島典之, 山本和夫 (2014) 都市のコンパクト化と地産地消の推進によって大気経由の農薬への曝露は増加するか?, 土木学会論文集G (環境), 印刷中
- (4) 渡部徹, 日本と世界の飲料水にかかる微生物水質基準 (2013) バムサジャーナル, 25(3), 8-12

## 1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 渡部徹, 平成25年6月12日, 病原微生物のリスク評価とその管理, 第33回リスク評価研究会 (FoRAM), つくば市
- (2) 渡部徹, 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 平成25年9月4~6日, 流入河川の影響に着目した養殖カキのノロウイルス汚染解析, 土木学会平成25年度全国大会第69回年次学術講演会, 習志野市
- (3) 村松亜由美, 渡部徹, 佐々木貴史, 梶原晶彦, 平成25年9月4~6日, 下水処理水からの窒素除去と高品質米の栽培を目的とした水稻栽培条件の検討, 土木学会平成25年度全国大会第68回年次学術講演会, 習志野市
- (4) 小澤耕平, 渡部徹, 伊藤紘晃, 真砂佳史, Chiemchaisri Wilai, 本多了, 平成25年9月4~6日, チャオプラヤ川流域から分離された大腸菌からのテトラサイクリン耐性遺伝子の検出, 土木学会平成25年度全国大会第68回年次学術講演会, 習志野市
- (5) 村松亜由美, 佐々木貴史, 梶原晶彦, 渡部徹, 平成25年11月10日, 環境負荷の軽減に役立つ省資源型的水稻栽培システムの開発, 第9回もがみがわ水環境発表会, 山形市
- (6) 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹, 養殖ガキはどうしてノロウイルスの汚染されるのか?, 平成25年11月10日, 第9回もがみがわ水環境発表会, 山形市
- (7) 小澤耕平, 伊藤紘晃, 本多了, 渡部徹, 平成25年11月10日, 途上国の水環境に分布する薬剤耐性菌: テトラサイクリン耐性大腸菌を例に, 第9回もがみがわ水環境発表会, 山形市
- (8) 佐藤未菜, 安野さゆり, 阿部優花, 佐藤咲, 蛸井葉月, 小澤耕平, 渡部徹, 平成26年1月28日, 庄内地方の湧水から分離された大腸菌の薬剤耐性, 第19回庄内・社会基盤技術フォーラム, 酒田市
- (9) 高田優生, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 渡部徹, 平成26年1月28日, ベトナム中部の洪水氾濫域にある農地の微生物汚染調査, 第19回庄内・社会基盤技術フォーラム, 酒田市
- (10) 熊谷卓也, 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 渡部徹, 平成26年1月28日, 養殖域におけるカキのノロウイルス汚染の消長, 第19回庄内・社会基盤技術フォーラム, 酒田市
- (11) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 藤井学, 梶原晶彦, 渡部徹, 平成26年1月28日, 鉄との結合性を考慮した腐植物質の光分解反応の評価, 第19回庄内・社会基盤技術フォーラム, 酒田市



- (12) 村松亜由美, 佐々木貴史, 梶原晶彦, 渡部徹, 平成26年3月8日, 飼料用米栽培のための下水処理水循環利用システムにおける循環手法に関する検討, 平成25年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸市
- (13) 小澤耕平, 渡部徹, 佐藤未菜, 安野さゆり, 阿部優花, 佐藤咲, 蛸井葉月, 平成26年3月8日, 山形県庄内地方の湧水から分離された大腸菌の薬剤耐性, 平成25年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸市
- (14) 高田優生, 梶原晶彦, Duong V. Hieu, Pham K. Lieu, 渡部徹, 平成26年3月8日, ベトナム・フエ市周辺の洪水に見舞われる農地における微生物汚染, 平成25年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸市
- (15) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 渡部徹, 藤井学, 梶原晶彦, 平成26年3月8日, 太陽存在下における腐植物質の構造及び鉄錯体形成速度定数の経時変化, 平成25年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸市
- (16) 熊谷卓也, 伊藤紘晃, 渡部徹, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 平成26年3月8日, 養殖カキに蓄積したノロウイルスの網羅的な検出・同定, 平成25年度土木学会東北支部技術研究発表会, 八戸市

#### 1-④ 学会発表 (国際学会)

- (1) Sutiab Srilachai, Chittima Charudacha, Panja Yaithavorn, Chawala Sienglum, Ryo Honda, Yoshifumi Masago, Toru Watanabe, Mesak Millintawasag. June 15-16, 2013, Removal of fecal indicator bacteria and viruses in water reuse for agriculture by aerated lagoon of Buriram Municipality, Thailand. Water and Environment Technology Conference (WET) 2013, Tokyo, Japan (Poster)
- (2) K. Ozawa, T. Watanabe, H. Ito, Y. Masago, W. Chiemchaisri, R. Honda and A. Kajihara. September 8-12, 2013, Tetracycline resistance genes detected in Escherichia coli isolated from the Chao Phraya River and its tributaries in Thailand. The 5th IWA-ASPIRE Conference and Exhibition, Daejeon, Korea (Oral)
- (3) H. Ito, K. Hoshi, Y. Masago, Y. Ueki and T. Watanabe. September 8-12, 2013, Seasonal accumulation of Norovirus to oyster in relation with epidemic situation around watershed. The 5th IWA-ASPIRE Conference and Exhibition, Daejeon, Korea (Oral)
- (4) Ito H., Hoshi K., Masago Y., Ueki Y. and Watanabe T. September 15-20, 2013, Norovirus accumulation to oysters in estuary and its relationship to epidemic of gastroenteritis. The 17th International Symposium on Health-Related Water Microbiology, Florianopolis, Brazil (Oral)
- (5) A. Muramatsu, T. Watanabe, A. Sasaki, H. Ito, A. Kajihara. October 22-25, 2013, Rice production with minimal irrigation and no nitrogen fertilizer by intensive use of treated municipal wastewater. The 7th IWA Specialist Conference on Efficient Use and Management of Water, Paris, France (Oral)
- (6) K. Ozawa, H. Ito, T. Watanabe, R. Honda, Y. Masago, W. Chiemchaisri. November 23, 2013, Geographical distribution of tetracycline resistance genes carried by Escherichia coli in the Chao Phraya river and its tributaries. The International Conference on the Preservation and Rehabilitation of Urban Water Environment for Asian Core Program of NRCT, JSPS and ERDT, Bangkok, Thailand (Oral)
- (7) T. Phonsin, W. Chiemchaisri, C. Chiemchaisri, T. Watanabe, R. Honda. November 23, 2013, Change in antibiotic resistance of Escherichia coli during domestic wastewater treatment: comparison between sequencing batch reactor (SBR) and sequencing batch membrane bioreactor (SB-MBR). The International Conference on the Preservation and Rehabilitation of Urban Water Environment for Asian Core Program of NRCT, JSPS and ERDT, Bangkok, Thailand (Oral)
- (8) Toru Watanabe, Yuki Takada, Duong Van Hieu, Pham Khac Lieu. December 15-17, 2013, Impact of seasonal flood on bacterial contamination of agricultural field surrounding Hue city, Vietnam. JSPS-AASPP/GRENE Joint International Symposium on Water and Health in Urban Area, Hue, Vietnam (Oral)

- (9) Ayumi Muramatsu, Atsushi Sasaki, Ito Hiroaki, Toru Watanabe. December 15-17, 2013, Nitrogen removal from treated municipal wastewater by its intensive use for rice production. JSPS-AASPP/GRENE Joint International Symposium on Water and Health in Urban Area, Hue, Vietnam (Poster)

## 花山奨

### 1-① 論文

- (1) 花山奨, 安中武幸(2013) : 改良された田面水の対流制御装置による藻類の酸素消費実験 農業農村工学会論文集, 285, 77-78

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 安中武幸, 花山奨 (2013) : 5TEセンサーによる砂丘メロン畑における土壌水分日変動の測定、平成25年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集、312-313

# プロジェクト教員

## 伊藤紘晃

### 1-① 論文

- (1) 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹 (2013) 低pH抽出法及び酵素抽出法を用いた養殖カキからのノロウイルスの定量検出, 土木学会論文集G (環境), 69, III\_657-III\_665.

### 1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹, 2013年11月10日, 養殖ガキはどうしてノロウイルスに汚染されるのか?, 第9回もがみがわ水環境発表会.
- (2) 伊藤紘晃, 真砂佳史, 植木洋, 渡部徹, 2013年11月21日, 低pH抽出法及び酵素抽出法を用いた養殖カキからのノロウイルスの定量検出, 第50回環境工学研究フォーラム.
- (3) 熊谷卓也, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 渡部徹, 真砂佳史, 植木洋, 2014年1月28日, 養殖域におけるカキのノロウイルス汚染の消長, 第19回庄内・社会基盤技術フォーラム.
- (4) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 渡部徹, 藤井学, 2014年1月28日, 鉄との結合性を考慮した腐植物質の光分解反応の評価, 第19回庄内・社会基盤技術フォーラム.
- (5) 熊谷卓也, 伊藤紘晃, 渡部徹, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 2014年3月8日, 養殖カキに蓄積したノロウイルスの網羅的な検出・同定, 平成24年度土木学会東北支部技術研究発表会.
- (6) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 渡部徹, 藤井学, 梶原晶彦, 2014年3月8日, 太陽光存在下における腐植物質の構造及び鉄錯体形成速度定数の経時変化, 平成24年度土木学会東北支部技術研究発表会.
- (7) 西村直貴, 伊藤紘晃, 真砂佳史, 大村達夫, 2014年3月17日, *Microcystis aeruginosa*由来の酸性糖が持つ凝集阻害能の評価, 第48回日本水環境学会年会.
- (8) 伊藤紘晃, 熊谷卓也, 渡部徹, 真砂佳史, 風間しのぶ, 植木洋, 2014年3月19日, 養殖カキからのノロウイルス抽出における各種酵素の有効性の比較, 第48回日本水環境学会年会.

### 1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) H. Ito, K. Hoshi, Y. Masago, Y. Ueki and T. Watanabe (2013): Seasonal accumulation of norovirus to oyster in relation with epidemic situation around watershed, The 5th IWA-ASPIRE Conference & Exhibition, Korea.
- (2) K. Ozawa, T. Watanabe, H. Ito, Y. Masago, W. Chiemchaisri, R. Honda and A. Kajihara (2013): Tetracycline resistance genes detected in *Escherichia coli* isolated from the Chao Phraya River and its tributaries in Thailand, The 5th IWA-ASPIRE Conference & Exhibition.
- (3) H. Ito, K. Hoshi, Y. Masago, Y. Ueki and T. Watanabe (2013): Norovirus accumulation to oysters in estuary and its relationship to epidemic of gastroenteritis, 17th International Symposium on Health Related Water Microbiology WaterMicro 2013, Brazil.

## ②学会・社会活動

### 安全農産物生産学コース

#### 安藤豊

##### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会、評議員、国際土壌科学会議水田土壌ワーキンググループチェア
- (2) 日本作物学会、東北支部評議員
- (3) 熱帯農業学会
- (4) サゴ学会
- (5) アメリカ農学会

##### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition 3件
- (2) Field Crop Research 1件
- (3) Rapid communications in Mass Spectrometry 1件

##### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県エコエリア推進協議会委員 (2006～現在)
- (2) 鶴岡市特別栽培認証委員会委員 (2007～現在)

#### 夏賀元康

##### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業機械学会評議員(2005年04月～)
- (2) 近赤外研究会理事 (2005年04月～)
- (3) 農業機械学会東北支部長・理事 (2011年04月～)
- (4) 韓国農業機械学会 (The Korean Society for Agricultural Machinery) 英文誌編集委員 (2011年04月～)
- (5) 農業機械学会表彰委員会委員 (2011年04月～)
- (6) 北海道家畜管理研究会
- (7) 農業施設学会
- (8) 農業機械学会北海道支部会
- (9) 日本食品科学工学会

- (10) アメリカ農業生物工学会(American Society of Agricultural and Biological Engineers)
- (11) 農業機械学会東北支部
- (12) エダマメ研究会

## 2-② 学会賞受賞等

- (1) 学生奨励賞, 2013年08月22日, 日本国, 農業食料工学会東北支部, 鈴木ミチル・片平光彦・夏賀元康

## 西澤隆

### 2-① 学会活動

#### 2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) 日本園芸学会
- (2) 生物環境工学会(評議員2013)
- (3) 園芸学会東北支部会
- (4) 国際園芸学会
- (5) 米国園芸学会
- (6) 人間植物関係学会

#### 2-①-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「植物工場」について講演：酒田商工会議所主催・酒田産業会館（平成25年7月3日）
- (2) 「あなたの身の回りにある農学」について講演：鶴岡幼児教育連絡協議会主催・鶴岡中央公民館（平成25年11月8日）
- (3) 「農学部研究概要」について講演：酒田法人会主催・酒田産業会館（平成26年2月21日）
- (4) 「ひらめき☆ときめきサイエンス」事業実施・日本学術振興会補助事業・山形大学農学部主催（平成25年9月28日）
- (5) 「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業実施・日本学術振興会補助事業・鶴岡南高校主催（平成25年4月～平成26年2月）

## 藤井弘志

### 2-① 学会活動

#### 2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会、日本作物学会
- (2) 日本土壌肥料学会（第6部門、部門長2011～2014）
- (3) 日本土壌肥料学会（欧文誌）編集委員（2011～2014）
- (4) 日本土壌肥料学会東北支部会評議員
- (5) 日本作物学会評議員、日本作物学会東北支部会評議員

## 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Sci. Plant Nutri. 8件
- (2) 日本土壌肥料学雑誌：1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立農業大学校特別講義（土壌肥料）3回：6月6日、7月11日、10月10日
- (2) 山形県立農業大学校「働きながら学ぶ稲作講座」2回：7月31日、8月28日
- (3) 営農指導員技術研修会「藤井塾」10回：4月19日・26日、5月17日・24日、6月12日・19日、7月10日・17日、8月2日、9日
- (4) 新規就農者技術研修（土壌肥料）（山形市）：2回5月28日、6月26日
- (5) 里山市民講義（鶴岡市）：6月14日30人
- (6) スラグ協会講演会（東京）10月11日100人
- (7) ビジネススクール講義（稲作の栽培管理）：8月28日、（山形市）、25人
- (8) 土づくり講演会（仙台市、全農主催）：11月19日100人
- (9) JA田川青年部研修会（鶴岡市）：11月17日100人
- (10) 農研機構シンポジウム「基調講演」（東京）：11月20日200人
- (11) 土づくり講演会（大石田町）：11月29日100人
- (12) JA余目町土づくり講演会（余目町）：12月8日150人
- (13) 新春座談会（JAみどり農協）：12月6日
- (14) 環境保全型農業推進研修会（鶴岡市）：1月25日150人
- (15) 東北農業研究会（環境部門）（盛岡市）：1月29日～30日60人
- (16) 土づくり講演会（石川県）：2月3日150人
- (17) 土づくり講演会（岩手県）：2月5日150人
- (18) JA田川営農指導員研修会（鶴岡市）：2月21日30人
- (19) スラグによる塩害軽減成果発表会（古川市）：3月5日100人
- (20) 米作り講演会（酒田市）：3月11日100人
- (21) 土づくり研修会（余目町）：8回3月14日、3月15日、3月16日、3月20日、3月27日計150人

## 平智

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会（評議員、学会活動活性化特別委員会委員長、2012～現在）
- (2) 日本食品保蔵科学会（理事、学会賞選考委員会委員、2011～現在）
- (3) 人間・植物関係学会（理事、2005～現在）

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農林水産業活性化推進本部委員（2009～現在）

- (2) 山形県農林水産業活性化フォローアップ委員会委員（2011～現在）
- (3) 鶴岡総合研究所所長（2012～現在）
- (4) 鶴岡市グリーンツーリズム推進協議会会長（2007～現在）
- (5) 鶴岡市森林文化研究会会長（2011～現在）
- (6) 鶴岡市総合計画審議会委員、同企画専門委員会委員長（2007～現在）
- (7) 山形在来作物研究会副会長（2009～現在）

## 堀口健一

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会
- (2) 日本草地学会（国際情報担当委員2011年度～）
- (3) 東北畜産学会（評議員2010年度～）
- (4) 日本家畜管理学会
- (5) 肉用牛研究会
- (6) 家畜栄養生理研究会
- (7) ルーメン研究会（評議員2013年度～）

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本畜産学会報（日本） 1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 農学部オープンキャンパス模擬講義 「高級肉ってどんな肉？」 2013年8月2日
- (2) サイエンスジャンボリー2013 「食・農・環境について学ぶ」 2013年9月20日
- (3) 農学のタベ 「ウシ学 -ウシをモウッと知ろう！-」 2013年10月31日

## 吉田宣夫

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本草地学会（評議員2001～現在）
- (2) 東北畜産学会（評議員2008～現在）

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 東北畜産学会第63回大会：山形市山形テルサ（平成25年8月29日～平成25年8月30日）

## 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Animal Science Journal(日本) 1件
- (2) 日本畜産学会誌(日本) 2件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 農林水産省生産局畜産振興課 平成23年度国産粗飼料増産対策事業に係る稲発酵粗飼料コーディネーター資質向上会議委員 (2012～)
- (2) (一社) 日本草地畜産種子協会 フォーレンジテスト新システム構築事業に係る推進委員 (2012～)
- (3) (一社) 中央畜産会 畜産経営活性化サポート事業教材作成会議委員 (2012～)
- (4) (一社) 中央畜産会 全国優秀畜産経営管理技術発表大会審査委員 (2013)
- (5) (一社) 日本草地畜産種子協会 全国自給飼料生産コンクール審査委員および全国飼料増産優良事例選考委員 (2013)
- (6) (一財) 畜産環境整備機構 牛由来堆肥被災地水田施用実証等事業に係る事業推進委員 (2012～)
- (7) 山形県農林水産部 山形県農林水産技術会議委員 (2010～2014)
- (8) 山形県最上総合支庁 農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業審査委員(2009～2014)
- (9) 「飼料用米・WCS用稲の現状と今後の展開方向」について講演：鹿児島県・全国飼料増産協議会主催・ホテル京セラ(平成25年9月30日)
- (10) 「水田を活用した肥育牛飼料」について講演：JA秋田しんせい・秋田県由利地域振興局主催・由利本荘市文化交流館カダレー(平成25年12月25日)
- (11) 「飼料用米・WCS用稲の現状と今後の展開」について講演：青森県西北地域振興局主催・つがる市柏公民館(平成26年1月14日)

## 小笠原宣好

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「リンドウ個体の発達パターンについて」について講演：第16回リンドウ研究会・場所：岩手大学農学部(平成25年6月28日)
- (2) 「食用菊の多様性とデータベース化」について講演：ナショナル・バイオリソース・プロジェクト中核拠点整備プログラム・広義キク属・場所：広島大学理学研究科(平成25年12月16日)

## 長谷修

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会 (東北部会幹事2008～現在)



- (2) アメリカ植物病理学会 会員
- (3) 日本植物生理学会 会員
- (4) 北日本病害虫研究会 会員 (評議員2013.4～現在)
- (5) 日本菌学会 会員

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of General Plant Pathology (日本) 1件
- (2) Plant Cell Report (日本) 1件

### 小林隆

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会
- (2) 北日本病害虫研究会(編集委員2009～現在)
- (3) 日本植物病理学会東北部会(幹事2011～現在)

##### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 北日本病害虫研究会 3件
- (2) 日本植物病理学会 1件

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「Googleマップによる気象予測データを用いた水稻気象被害軽減システム」について講演：山形大学農学部・山形大学工学部・鶴岡高专連携プロジェクト情報交換会（平成26年度3月14日）
- (2) 「イネ紋枯病の発生生態・発生予測・防除法について」について講演：内水田農業推進機構ワークショップ水田農業の最新技術を広く現場に！イネ紋枯病の現状と防除方法（平成25年12月12日）

### 森静香

#### 2-① 学会活動

##### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会
- (2) 日本作物学会

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 農業のキーワードと今後の対策 6月14日（鶴岡市自然学習交流館）、20人

## 佐々木由佳

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会
- (2) 日本作物学会
- (3) 農業農村工学会
- (4) 日本熱帯農業学会
- (5) サゴヤシ学会
- (6) 山形在来作物研究会
- (7) 東北地区自然災害科学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition (日本) 1件
- (2) 山形大学紀要(農学) (日本) 1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 庄内水田農業推進機構委員 (2009年4月～)
- (2) 山形大学農学部鶴窓会代議員 (2011年4月～)
- (3) 附属農場開故事業「わんぱく農業クラブ」の運営
- (4) JICA地域別研修「アフリカ地域陸稲栽培及び品種選定技術」講師 (2013年8月6日)
- (5) JICA短期研修「アフリカ地域(英語圏)稲作収穫後処理」講師 (2013年9月6日)
- (6) 国際理解(サマースクールin韓国忠北大学)引率および忠北大学での交流セミナーの実施 (2013年8月25日～8月31日)
- (7) 山形大学農学部農学紹介講座「農学のタベ」講師(少ない水で水稻を育てる) (2014年1月9日)

## 池田和生

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会
- (2) 国際園芸学会
- (3) 日本植物細胞分子生物学会

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 酒田西高校大学模擬授業, 2014年07月

## 松本大生

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) PLOS ONE(アメリカ) 2件

# 食農環境マネジメント学コース

## 岩鼻通明

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本山岳修験学会（理事1994～現在）
- (2) 東北地理学会（評議員2013～現在）
- (3) 日本民俗学会（理事2010～現在）
- (4) 歴史地理学会（評議員1990～現在）
- (5) 史学研究会（評議員2004～現在）

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県景観審議会委員（2012～2016）、大江町文化的景観調査検討委員会委員（2008～2014）
- (2) 講演：出羽三山信仰の広がり与人々の心、鶴岡市市民大学講座、鶴岡市中央公民館、2013年11月9日
- (3) 講演：出羽三山の近代の変容 信仰の山から観光の山へ、第2回月山ジオパーク構想に向けた学習会、鶴岡市羽黒町いでは文化記念館、2014年1月24日
- (4) コーディネーター：次世代に伝える千葉徳爾の学問、日本民俗学会第871回談話会、国学院大学、2013年11月10日
- (5) 講話：草木塔と出羽三山信仰、やまがた夜話、コンソーシアム山形、2013年5月22日

## 小沢互

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会（東北地区担当常務理事、2012～2014）
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 農業情報学会（評議員、2005～現在）
- (4) 東北農業経済学会（副会長、2008～現在）
- (5) 農村計画学会（評議員、2013～現在）
- (6) 日本フードシステム学会
- (7) 地域活性学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) フードシステム研究 1件
- (2) 農業経営研究 1件
- (3) 農村計画学会誌 1件
- (4) 日本養豚学会 1件

- (5) 農業経済研究 1件
- (6) 農村経済研究 2件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北農政局国営事業事後評価第三者委員 (2006年4月～2014年3月)
- (2) 山形県農業・農村政策審議会委員 (山形県. 会長代理. 2006年4月～)
- (3) 「やまがた6次産業ビジネススクール」プログラム開発リーダー (やまがた6次産業コンソーシアム. 2008年10月～)
- (4) 「庄内地域集落営農組織連絡会議」参与 (庄内地域営農組織連絡会議. 2009年6月～)
- (5) 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員 (鶴岡市. 2009年11月～)
- (6) 鶴岡市総合計画審議会農林水産専門委員会委員 (鶴岡市. 2013年4月～2014年3月)
- (7) 専門家派遣事業にかかる専門家 (山形県農業会議. 2008年5月～)
- (8) 山形県米政策推進会議委員 (山形県. 会長. 2007年9月～)
- (9) 農林水産業元気再生戦略フォローアップ委員会委員 (山形県. 座長. 2011年2月～)
- (10) 山形県卸売市場審議会委員 (山形県. 委員長. 2011年3月～)
- (11) やまがた6次産業人材創生コンソーシアム全体会議委員 (やまがた6次産業コンソーシアム. 2009年4月～)
- (12) 産学連携による高度アグリビジネス人材育成プロジェクト委員会委員 (高崎経済大学. 2011年11月～)
- (13) 山形県農村環境保全推進委員会委員 (山形県. 座長. 2012年2月～)
- (14) 公益財団法人やまがた農業支援センター評議員選定委員会委員 (やまがた農業支援センター. 2011年2月～)
- (15) やまがた6次産業ビジネススクール講師 (やまがた6次産業コンソーシアム. 2009年8月～)
- (16) やまがた6次産業化戦略推進本部 (仮称) (山形県. 2013年4月～)
- (17) 国営村山北部土地改良事業 (農業用排水) 計画に係る専門技術者 (東北農政局. 2013年5月～8月)
- (18) 「機能性を持つ農林水産物・食品開発プロジェクト」における外部公募研究課題の外部審査員 (食品需給研究センター. 2013年5月～6月)
- (19) 庄内町いきいき産業塾塾長 (庄内町新産業創造協議会. 2013年7月～)
- (20) 鶴岡市総合計画審議会農林水産専門委員会委員 (鶴岡市. 委員長. 2013年7月～)
- (21) ファーマーズフォーラム講演 (生活クラブ連合会. 2013年7月4日)
- (22) 庄内交流会40周年記念集会記念講演 (山形親生会. 2013年7月23日)
- (23) ステップアップ6次産業化④ 鶴岡市宝谷集落の「宝谷そば」 (農業共済新聞山形版12面. 2013年7月24日)
- (24) 平成25年度おしゃべりな畑講師『農業の現状と課題』 (山形大学農学部. 2013年8月27日)
- (25) 庄内町いきいき産業塾開講式記念講演『6次産業の意義と役割～庄内町に期待するもの』 (庄内町. 2013年9月2日)
- (26) 平成25年度農学のタベ『消費者の目、生産者の目～農産物に対する両者の感じ方～』 (2013年10月17日)
- (27) 平成25年度東北農業試験研究推進会議農業生産基盤推進部会合同研究会講師『東北地域における6次産業化の現状と課題 (II) -コーディネータの視点から-』 (2013年11月5日)
- (28) 第4回農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウムアドバイザー (2013年11月12日)

- (29) 根ほり葉ほり 山形大農学部教授 小沢互さん（56）（朝日新聞．2013年11月18日）
- (30) 学部学科編成について（鶴窓会だより第20号．2013年12月10日）
- (31) 遊佐農業の発展を目指す米政策研究会講師『農政の流れと今後の遊佐町農業』（2014年1月20日）
- (32) 平成25年度おしゃべりな畑講師『在来作物で地域を元気に』（山形大学農学部．2014年1月21日）
- (33) 第1部・翻弄（ほんろう）[10] 識者に聞く（下）－山形大農学部・小沢互教授（山形新聞．2014年1月24日）
- (34) ステップアップ6次産業化⑨ 農家のお母さんがイタリアンレストラン（農業共済新聞山形版14面．2014年1月29日）
- (35) 平成25年度西村山地域営農フォーラム講師『農政改革を踏まえた地域水田農業の活性化』（広域農業活性化センター．2014年2月1日）
- (36) 実践キャリア・アップ戦略キャリア段位制度実施事業選定評価委員会（内閣府．2014年2月～3月）
- (37) この人に聞く：山形大農学部教授・小沢互さん（毎日新聞地方版．2014年2月23日）
- (38) 平成25年度第2回「山形県農業経営者トップセミナー（認定農業者交流会）」『新しい米政策と今後の農業経営について』（天童ホテル瑞祥．2014年3月7日）
- (39) 庄内町新産業創造協議会・実践事業公開講座・平成25年度成果発表会『平成25年度事業を振り返って』（庄内町文化創造館響ホール．2014年3月25日）
- (40) 農をつなぐ 対談 岐路に立つ干拓地（秋田さきがけ新聞3面．2014年3月29日）

## 角田毅

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経営学会
- (2) 日本農業経済学会
- (3) 東北農業経済学会・理事
- (4) 地域農林経済学会
- (5) 日本農業普及学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Japan Agricultural Research Quarterly（日本） 1件
- (2) 農業経営研究（日本） 2本
- (3) 農村経済研究（日本） 1本

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 酒田市スーパー農業経営塾座長（2013.4～2014.3）
- (2) 東北公益文科大学非常勤講師（2013.4～2013.9）
- (3) やまがた6次産業ビジネススクール講師
- (4) 山形県創意工夫プロジェクト支援事業（最上総合支庁）計画審査委員（2013.4～2014.3）
- (5) 山形県ベストアグリ賞表彰事業審査委員（2013.4～2014.3）

- (6) 講演「TPPの真相 庄内農業に与える影響について」山形県土地改良事業団体連合会庄内支部  
会員研修会、2013. 5. 30、鶴岡市
- (7) 鶴岡市農業委員会農業振興担い手専門委員会・山形大学農学部交流事業、2013. 10. 25
- (8) コントラクター経営育成におけるコンサルタント、山形県置賜総合支庁、2014. 2. 26
- (9) 鶴岡市大泉地区集落営農設立に向けたコンサルタント、JA鶴岡（2013. 7～2014. 3）
- (10) 講演「法人や営農集団による担い手形成」櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会、産直  
めぐり、2013. 8. 1
- (11) 庄内水田フォーラム2014、コーディネーター、鶴岡市、グランドエルサン、2014. 2. 20

## 家串哲生

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 論文審査の依頼等

- (1) 地域農林経済学会 1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡市環境保全型農業委員(2012～)、庄内出羽地域文化遺産による地域活性化実行委員会  
(2012～)
- (2) 「減反政策」について説明：T U Yテレビに出演(平成25年11月25日)

## 藤科智海

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 東北農業経済学会
- (2) 日本農業経済学会
- (3) 農村計画学会
- (4) システム農学会
- (5) 日本フードシステム学会
- (6) 日本農業経営学会

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 三瀬観光協会研修会 講演：農山漁村の地域活性化，2013年07月
- (2) 荘銀かねやま絆の森 講演：農山村の地域活性化，2013年05月
- (3) 在来作物の実践講座「おしゃべりな畑」講師，2012年09月 ～ 継続中
- (4) 庄内町6次産業化推進戦略会議委員，2012年07月 ～ 2014年03月
- (5) 山形県研究評価委員，2012年06月 ～ 継続中
- (6) 立谷沢地区活性化推進協議会オブザーバー，2011年10月 ～ 継続中
- (7) やまがた6次産業人材創生コンソーシアム全体会議委員，2011年08月 ～ 継続中
- (8) やまがた6次産業ビジネススクール講師，2011年08月 ～ 継続中

# 食品・応用生命科学コース

## 三橋 渉

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生化学会 (東北支部幹事 1995～現在)
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本植物生理学会
- (4) 日本植物学会
- (5) 日本分子生物学会

## 小関 卓也

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(JABEE対応委員会委員2011～現在、東北支部山形県代表参与2013.7～)
- (2) 日本生物工学会(北日本支部代議員2011.5～現在)
- (3) 日本応用糖質科学会(東北支部理事2010.5～現在)
- (4) 日本醸造学会
- (5) 日本栄養・食糧学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) PLoS One(米国), 1件
- (2) Applied Microbiology and Biotechnology(ドイツ), 1件
- (3) Journal of Agricultural and Food Chemistry(米国), 1件
- (4) Enzyme and Microbial Technology(米国), 1件
- (5) Journal of Molecular Catalysis B: Enzymatic(英国), 2件
- (6) Korean Journal of Chemical Engineering(韓国), 1件
- (7) British Microbiology Research Journal(英国), 1件
- (8) Bioscience, Biotechnology and Biochemistry(日本), 2件
- (9) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本), 2件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形セレクション加工食品分野(日本酒)専門委員(2007.4～現在)
- (2) 山形県農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト計画審査会委員(2009.4～現在)
- (3) 山形県庄内総合支庁 庄内発酵食品技術開発研究会委員(2011.7～2014.3)



- (4) 酒田市新製品および新技術研究開発等助成金審査会委員(2011.6～現在)
- (5) 平成26年度「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」1次審査専門評価委員(2014.2.10～2014.3.28)
- (6) 鶴岡南高校スーパーサイエンスハイスクール支援(2013.4～現在)
- (7) 平成25年度大学模擬授業講師, 仙台東高校(2014.2.13)

## 豊増知伸

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 植物化学調節学会(評議員2010～現在)
- (3) 植物生理学会(評議員2012～2013)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Phytochemistry(米国) 1件
- (2) Plant J(英国) 1件
- (3) J Exp Bot(英国) 1件

## 木村直子

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会会員
- (2) 日本繁殖生物学会会員(2012年～理事、2010年～男女共同参画推進委員およびJRD編集委員)
- (3) 日本受精着床学会会員(2012年～理事、2010年～評議員)
- (4) 日本哺乳動物卵子学会会員(2014年～理事、代議員、2013年～生殖補助医療胚培養士資格認定委員)
- (5) 東北畜産学会(2011年～評議員)
- (6) 環境ホルモン学会(2007年～)

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第106回日本繁殖生物学会大会男女共同参画推進ランチョンセミナー「女性も男性も当たり前前に働くために」これから必要なこと」の世話役。(2013年9月13日. 東京農工大学農学部府中キャンパス(府中市).)

#### 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Reproduction and Development(日本) 6件
- (2) Reproductive Medicine and Biology(日本) 3件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探究活動）の講師、2013年度通年.

## 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本畜産学会第117回大会優秀発表賞受賞. 星野 由貴（受賞者）、木村 直子（指導者、共同研究者）. マウス初期胚発生におけるビタミンCの役割-活性持続型ビタミンCの効果-. 2013年9月9日. 新潟大学五十嵐キャンパス（新潟市）.
- (2) 山形大学学生表彰（学長賞）受賞. 星野 由貴（受賞者）、木村 直子（指導者、共同研究者）. 日本畜産学会第117回大会優秀発表賞受賞のため. 2014年2月21日. 山形大学小白川本部（山形市）.

## 塩野義人

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 植物化学調節学会
- (3) 日本薬学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 2件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「微生物からの生理活性物質の探索」について、新潟市立万代高等学校（平成25年11月22日）
- (2) 「天然物の世界」について、山形中央高等学校（平成25年12月11日）

## 加来伸夫

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本農芸化学会
- (4) 日本土壌肥料学会
- (5) 日本水環境学会
- (6) 日本微生物生態学会大会において「嫌気性界の微生物生態研究部会」を開催（事務局担当）（平成20年度より毎年開催）

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Water Research (英国) 1件
- (2) Microbes and Environments (日本) 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校科学部の研究活動への支援・協力・連携 (平成20年9月～現在)
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校SSH授業講師
- (3) 東北地区SSHサイエンスカフェ講師
- (4) 山形県立農業大学校地域連携会議委員
- (5) 山形県高等学校サイエンスジャンボリー講師
- (6) 茨城中央高校出前講義
- (7) 村山インダストリー倶楽部環境部会で講演
- (8) 山形県農林水産連携推進協議会総会で講演

## 渡辺昌規

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生物工学会
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本食品工学会
- (4) Journal of Bioscience and Bioengineering誌 (英文誌編集委員2013～2017)
- (5) 山形県サイエンス・ナビゲーター

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) The 2nd International Conference of Food and Applied Bioscience. Scientific Committee: Chiang mai, Thailand (Feb. 6-7, 2014)

#### 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本) 16件
- (2) Extremophiles(独) 1件
- (3) Food and Applied Bioscience (タイ) 4件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 本学地域教育文化学部食環境デザインコースとの情報交換会「米副産物からのエネルギー、有価資源回収による循環型社会の構築と地域産業創出の可能性」講演 (本学農学部、平成25年5月22日)
- (2) 山形県サイエンスナビゲーター事業「竹について、高性能な竹炭電池の製作」講演：主催・山形県工業戦略技術振興課・庄内町余目第一公民館(平成25年7月27日)
- (3) やまがた第6次産業ビジネススクール講師：主催・やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム、(山形県産業創造支援センター、平成25年8月21日)

- (4) 平成25年度産学連携交流会研究室紹介の実施：主催・本学工学部、農学部、国際事業化研究センター、山形市、上山市、東南村山商工会広域連携協議会・月岡ホテル（上山市、平成25年9月18日）
- (5) 平成25年度研究シーズ説明会コース別研究シーズの説明：主催・本学農学部（平成25年10月4日）
- (6) 技術指導：（株）佐藤製館所（本学国際交流事業化研究センター、平成25年10月12日）
- (7) 技術指導：（株）まるい食品（鶴岡市本社、平成25年12月9日）
- (8) 「鶴岡市議会議員研修会（農学部視察）」研究室紹介担当：主催本学農学部（平成26年2月18日）

# 植物機能開発学コース

## 村山哲也

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学（東北支部参与継続中）
- (2) 日本薬学会
- (3) 有機合成化学協会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry（日本）1件

## 俵谷圭太郎

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会（東北支部評議員）
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本菌学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition
- (2) Plant and Soil
- (3) Biology and Fertilites of Soils

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北公益文科大学非常勤講師（持続的農林業概論）
- (2) 山形県リサイクル製品認定審査委員会委員
- (3) 鶴岡市環境審議会委員

## 村山秀樹

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会（園芸学会雑誌編集委員2012～現在，園芸学会東北支部会支部長2013～現在）
- (2) 日本食品保蔵科学会（評議員2009～現在）

- (3) 植物化学調節学会
- (4) アメリカ園芸学会
- (5) 国際園芸学会

## 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 日本食品保蔵科学会第62回大会副委員長：山形県鶴岡市(平成25年6月15日～平成25年6月17日)

## 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 園芸学会雑誌論文審査(編集委員)4件
- (2) 日本食品保蔵科学会1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県バイオクラスター形成推進会議連携促進・成果活用委員会委員(2013)
- (2) 山形県「ラ・フランス」検討委員会委員(2013)
- (3) 山形県立鶴岡南高等学校「鶴南ゼミでの講師」(2013)
- (4) ひらめきときめきサイエンスプログラム「生物の多様性を考える」の開催、2013年9月28日、場所：農学部
- (5) おしゃべりな畑で「農産物の保存」について講義、2013年11月12日
- (6) 6次産業ビジネススクールで「農産物の保存」について講義、2013年11月13日
- (7) 平成25年度東北地区SSH指定校発表会におけるサイエンスカフェ講師、2014年2月2日

# 江頭宏昌

## 2-① 学会活動

### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) エダマメ研究会(幹事2002～現在)
- (2) 山形在来作物研究会(幹事2003～2007、副会長2008、会長2009～現在)
- (3) 日本育種学会、園芸学会、人間・植物関係学会、比較文明学会(～2013)、KJ法学会、農耕文化研究振興会、雑穀研究会、民族自然史研究会、生き物文化誌学会、農業機械学会、日本DNA多型学会

### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第11回山形在来作物研究会公開フォーラム：山形県鶴岡市(平成25年11月2日)

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所企画講師、鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員(2008年～)、鶴岡まちづくり塾アドバイザー、鶴岡食文化創造都市推進協議会委員、焼畑かぶブランド力向上プロジェクト協議会アドバイザー、山形県農林水産業活性化推進本部委員(2009～)、山形県農林水産技術会議委員(2010～)、荘内松柏会畑作講師(2008～)
- (2) 「山形在来作物研究会と在来作物について」ラジオ出演：JFN(ジャパン・エフエム・ネットワーク)ラジオ番組On the way Journal -Thursday(2013年5月2日)

- (3) 「孟宗について」および「庄内の春夏在来野菜」というテーマで講演：鶴岡市食文化産業創造センター主催の鶴岡おもてなし講座、場所：鶴岡市甚内旅館(平成25年5月15～16日)
- (4) 「伝統野菜を守り、育て、味わう」と題してラジオ出演：NHKラジオ深夜便「心の時代/明日への言葉」、(平成25年5月28・29日)
- (5) 「伝統野菜との出会いとこれから」というテーマで講演：NPO法人野菜と文化のフォーラム主催「野菜の学校」の特別講座、伝統野菜はおもしろい～なぜ守るのか、なぜ伝えるのか～、場所：東京ウィメンズプラザ視聴覚教室(平成25年6月1日)
- (6) 「在来作物の魅力と活用」と題して講演：山形大学主催の山形大学と交流する会総会にて、場所：山形市小白川キャンパス基盤教育1号館(2013年6月3日)
- (7) 「在来作物の魅力を生かす」と題して講演：熊本県高等学校教育研究会農業部会総会おける講演、場所：熊本県立熊本農業高等学校(2013年6月7日)
- (8) 「灰を通して考える里山文化」と題して講演：鶴岡市温海庁舎総務企画課主催の温海公民館講座「赤かぶ大学」にて、場所：温海ふれあいセンター会議室(2013年6月10日)
- (9) 「やまがたの在来作物とその魅力」と題して講演：日本食品保蔵学会主催の公開講座、場所：山形大学農学部(2013年6月15日)
- (10) 「伝統野菜へのサイエンスアプローチ」と題して講演：スーパーサイエンスハイスクール(SSH)異分野融合サイエンスの授業として、場所：山形県立米沢興譲館高等学校(2013年6月25日)
- (11) 「夏の在来野菜」というテーマで講演：鶴岡市食文化産業創造センター主催の鶴岡おもてなし講座、場所：鶴岡市TTCK研修室(平成25年7月8日)
- (12) 「在来作物の魅力と利用」と題して講演：JA鶴岡・認定農業者北支部研修会にて、場所：東京第一ホテル鶴岡・鶴の間(2013年7月9日)
- (13) 「在来作物の魅力と活用」と題して講演：昭和村からむし生産技術保存協会主催の伝承者養成特別講習会にて、場所：福島県大沼郡昭和村「昭和村へき地福祉館」(2013年7月12日)
- (14) 「よみがえりのレシピと山形在来作物研究会の10年」と題して講演：ひょうごの在来種保存会主催、場所：兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス(2013年7月27日)
- (15) 「在来作物の魅力を生かす」と題して講演：山形市「総合的学習の時間」部会、場所：山形大学附属中学校(2013年7月31日)
- (16) 「山形県の在来作物とそれを継承する意味」と題して講義：オープンキャンパス模擬講義、場所：山形大学農学部(2013年8月2日)
- (17) 「地域に活力を与える在来作物の魅力」と題して講演：全国農業高等学校長協会東北支部総会および研究会にて、場所：ホテルサンルート米沢(2013年8月29日)
- (18) 「山形県最上地方の在来作物とその魅力」と題して講義：NPO法人野菜と文化のフォーラム「野菜の学校」、場所：東京(2013年9月7日)
- (19) 「庄内在来作物へのイントロダクション～在来作物入門編」と題して講演：「おしゃべりな畑」実践講座、場所：山形大学農学部(2013年9月10日)
- (20) 「焼畑の火入れを科学する」と題して講演：大阪ガス主催「炎と食シンポジウム」にて、場所：大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所(大阪市)(2013年9月20日)
- (21) 「在来作物の魅力と活用」と題して講演：大分県宇佐市堺農業遺産利活用等対策本部事務局主催、場所：宇佐市民図書館視聴覚ホール(2013年9月23日)
- (22) 「北庄内の在来作物」と題して講演：酒田市立飛鳥中学校の教員と生徒の皆さん、場所：山形大学農学部(2013年10月3日)
- (23) 「やまがた在来作物の魅力と継承」と題して講演：日本科学者会議第24回東北地区シンポジウム、場所：山形大学工学部百周年記念会館(2013年10月5日)
- (24) 「全国の伝統野菜の動向」と題して講演：山形県およびおいしい山形推進機構主催「やまがた伝統野菜フォーラムIN山形」にて、場所：山形県総合体育館(天童市)(2013年10月19日)
- (25) 「よみがえりのレシピから学ぶやまがた在来作物の魅力」と題して講演：山形県栄養士会主催平成25年度生涯学習研究会、場所：食糧会館(2013年10月19日)
- (26) 「それは生産者、料理人、研究者から始まった」と題して鼎談：庄内総合支庁主催食の都庄内10周年記念シンポジウム、場所：三川町菜の花ホール(2013年11月2日)

- (27) 「在来作物をどう護り、どう受け継ぎ、どう活用するか」と題するパネルディスカッションのパネルとして登壇：山形在来作物研究会主催、場所：三川町菜の花ホール（2013年11月2日）
- (28) 「庄内の秋冬野菜」と題して講演：鶴岡食文化産業創造センター主催おもてなし講座、場所：鶴岡市にこふる（2013年11月5日）
- (29) 「日本とイタリアの農業・農産物・食文化」と題するパネルディスカッションのパネルとして登壇：農林水産省主催の「美味しい日本食材を体験！ジャパンフードフェア」において、場所：イタリア・ミラノ市（2013年11月8日）
- (30) 「灰が育む里山文化」と題して講演：庄内自然博物館構想推進協議会主催の里地里山学講座、場所：鶴岡市自然学習交流館ほとりあ（2013年11月13日）
- (31) 「在来作物の魅力と活用」と題して講演：みやぎ在来作物研究会主催キックオフフォーラム、場所：ホテルレオパレス仙台（2013年11月17日）
- (32) 'Why are heirloom crops important for our life?' と題して講演：山形大学国際事業化研究センター主催「日本・タイ食文化セミナー」において、場所：山形大学基盤教育2号館（山形市）（2013年11月26日）
- (33) 「全国の伝統野菜の流れと最上伝承野菜」と題して講演：最上総合支庁主催（山形大学国際事業化研究センター共催）第60回最上夜話、開催10周年特別企画「食を基点とした最上の産業の未来」講演会にて、場所：ニューグランドホテル新庄（新庄市）（2013年11月29日）
- (34) 「在来作物の魅力と活用」と題して講演：「秋田郷土作物研究会」準備会の依頼で、同研究会設立記念フォーラムにおいて、秋田カレッジプラザ（秋田市）（2013年12月1日）
- (35) 「庄内の在来作物を学ぶ」と題して講演：庄内町新産業創造協議会の依頼で人材育成メニューの地域食文化育成セミナーとして、場所：庄内町文化創造館 響ホール（2013年12月4日）
- (36) 「在来作物の魅力と活用」と題して講演：農村通信社の依頼で創刊66周年記念読者交流会において、ベルナル酒田（酒田市）（2013年12月5日）
- (37) 「全国の伝統野菜の動向」と題して講演：おきたま伝統野菜推進協議会の依頼、場所：置賜総合支庁（米沢市）（2013年12月9日）
- (38) 「山形の在来作物をめぐる動き」と題して講演：岩手県奥州市研修視察において、場所：山形大学農学部平研究室（2013年12月16日）
- (39) 「在来作物の魅力と活用」と題して講義：「おしゃべりな畑実践講座」において、場所：山形大学農学部（2013年12月17日）
- (40) 「在来作物を伝える意義」と題して講演：高知県農業振興部地域農業推進課主催「平成25年度伝統作物活用研修会」において、場所：高知市総合あんしんセンター（2014年1月10日）
- (41) 「地方伝統野菜の個性の見直しと地域活性化」と題して講演：公益財団法人日本特産農産物協会主催「特産農産物セミナー」において、場所：三会堂ビル石垣記念ホール（東京都港区赤坂）（2013年1月24日）
- (42) 「種継ぎ人の会」主催、茨城県常陸太田市の在来作物交流会にコメンテーターとして出席、場所：常陸太田市生涯学習センター（2014年2月23日）
- (43) 「在来農法が教えてくれるもの～暮らしと生産のつながり」と題して講演：コープこうべ主催「ひょうご暮らしの親子塾『食と環境シンポジウム』」において、場所：兵庫県民会館（神戸市）（2014年3月7日）
- (44) いわき市農林水産部、いわきリエゾンオフィス主催「第4回いわき昔野菜フェスティバル」のパネルディスカッション「種が伝えた食文化・つなげよういわき昔野菜」のコーディネーターとして、場所：いわき市中央台公民館（2013年3月25日）
- (45) 「在来作物と地方文化」と題して講演：食と農のひろば主催映画「よみがえりのレシピ」上演と新発田市在来の食用一重菊「花嫁」の紹介イベントにおいて、場所：新発田市生涯学習センター（2013年3月30日）



## 程為国

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会（英文誌SSPN編集委員2009～現在）
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本作物学会（学会連携ワーキンググループ委員、2012～2014）
- (4) 日本気象学会
- (5) Soil Science Society of America

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition 20件以上
- (2) Biology and Fertility of Soils 15件
- (3) Agriculture, Ecosystems & Environment 7件
- (4) Plant and Soil 4件
- (5) Applied Microbiology and Biotechnology 1件
- (6) Science of the Total Environment 1件
- (7) Paddy and Water Environment 1件
- (8) 「食と緑の科学」 1件
- (9) Biological Agriculture & Horticulture 1件
- (10) Geomicrobiology Journal 1件
- (11) Wetlands Ecology and Management 1件

## 笹沼恒男

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会（幹事2012年4月～現在、東北地域代表幹事2012年4月～2014年3月）
- (2) 日本遺伝学会
- (3) 日本作物学会
- (4) 文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）コムギ小委員会委員（2003～現在）、（データベースWG座長2012年4月～2014年3月）
- (5) 研究情報電子ジャーナル Wheat Information Service (eWIS) 編集委員（2005～現在；副編集長2008～2009；編集長2010～2011）

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Breeding Science（日本） 1件
- (2) Genetica（ドイツ） 1件
- (3) 生命環境学術誌（日本） 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農業総合研究センター園芸試験場 遺伝子組換え実験安全委員会委員 (2013～現在)
- (2) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会事務局員 (2011～2013)
- (3) ホームメイドクッキング機関誌キッチン倶楽部通信にて、コラム「ご存知ですか こんなこと」連載 (年5回) (2006年11月～現在)
- (4) 「コムギとベニバナの進化と多様性」について講演：山形大学農学部・農学紹介講座「農学の夕べ2013」 (平成25年11月14日)
- (5) 「ベニバナ」について説明：テレビ朝日「奇跡の地球物語～ベニバナ染め～」に出演 (平成25年8月11日)

## 及川 彰

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会東北支部会 (庶務幹事2013.4～2014.3)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) BMC Plant Biology (英国), 1件
- (2) Journal of Bioscience and Bioengineering (日本), 1件
- (3) Journal of Agricultural Food Chemistry (米国), 1件
- (4) Metabolomics (米国), 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「農産物と食品のメタボローム解析」について講演：鶴岡高専シンポジウム, 鶴岡高専, 20131026.
- (2) 「成分分析からの農産業への貢献」について講演：おしゃべりな畑, 山形大学, 20140114.
- (3) 「農作物のメタボローム解析」について講演：弘前大学技術セミナー, 弘前大学, 20140124.
- (4) 「農産物と食品分野におけるメタボローム解析の応用」について講演：バイオ技術者養成講座, 久留米リサーチパーク, 140227.

## 星野友紀

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Acta Physiologiae Plantarum (ポーランド) /2件

## 服部 聡

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会（編集委員会幹事、英文誌Microbes and Environments Managing Editor 2011～現在）
- (2) 極限環境微生物学会
- (3) 日本農芸化学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Environmental Science &Technology（アメリカ）1件
- (2) Microbes and Environments（日本）2件
- (3) Journal of Bioscience and Bioengineering（日本）1件
- (4) Biochemical Engineering Journal（オランダ）1件

# 森林科学コース

## 菊間満

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 林業経済学会、日本協同組合学会、東北森林科学会
- (2) 東日本入会・山村研究会、日本住宅会議、建設政策研究所、協同総合研究所（理事）、伝統木構造の会

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県高齢者福祉生活協同組合理事長（2012～2013）
- (2) 協同総合研究所理事（2011～2013）
- (3) 国民森林会議評議員（2010～2013）
- (4) さかた木づかい夢ネット顧問（2012～2013）
- (5) 酒田地区水平連携事業オブザーバー（2010～2013）
- (6) 酒田市森林整備計画変更検討委員会委員（2013）
- (7) 山形県林業木材産業構造改革推進協議会専門委員（2013）

## 野堀嘉裕

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 森林計画学会
- (3) 東北森林学会（副会長理事）
- (4) 比較文明学会

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia, モンゴル・ウランバートル（平成25年3月5日～平成25年3月6日）

#### 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌（2013）5件

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県森林審議会会長（2011～）
- (2) 山形県文化環境部CO2固定認証評価検討委員会会長（2009～）
- (3) 山形県環境影響評価審査会委員（2011～）

- (4) 鶴岡市景観審議会 (2010～)
- (5) 鶴岡市公園整備計画懇談会座長 (2010～)
- (6) 東北森林管理局計画策定委員会委員 (2011～)

## 高橋孝悦

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会(幹事 現在)
- (2) 日本林学会
- (3) 日本醸造学会
- (4) 日本紙パルプ技術協会(木材科学委員会委員 現在)
- (5) 東北森林科学会
- (6) International Society of Chemical Ecology

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal Wood Science (日本) 1件
- (2) Holzforschung (独国) 2件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 独立行政法人森林総合研究所 非常勤招聘講師

### 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 第64回日本木材学会大会ポスター賞, 西條裕美, 小藤田久義, 高橋孝悦, 芦谷竜矢, Ferruginolの抗酸化活性及び抗酸化機構II (2014年3月15日)
- (2) 第64回日本木材学会大会ポスター賞, 小林憲史, 亀井一郎, 高橋孝悦, 芦谷竜矢, ポリエチレングリコール・バイサルファイト法によるスギ樹皮の液化と液化残渣の酵素糖化 (2014年3月15日)

## 森 茂太

### 2 学会・社会活動

#### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生態学会 (ポスター賞審査委員)
- (2) 日本熱帯生態学会(吉良賞審査委員 2014～現在)
- (3) 根研究会(編集委員、根研究会賞審査委員2013～現在)
- (4) 東北森林科学会(会計理事、2014～現在)
- (5) Ecological Processes (Springer) 編集委員
- (6) Eurasian journal of forest research 審査委員

## 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Ecology(米国生態学会) 1件
- (2) Ecological Research 3件
- (3) Plant Ecology 1件
- (4) Plant Species Biology 1件
- (5) 日本森林学会誌 1件
- (6) Journal of Plant Research 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 青森県平内町林業研究グループ 平内ヒバ研究会顧問
- (2) 青森県平内町林業研究グループ 滝の沢林業研究グループ顧問
- (3) 山形市森林整備推進協議会委員
- (4) 東北森林管理局国有林野管理審議委員

## 林田光祐

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本海岸林学会 (副会長 2008～現在)
- (4) 東北森林科学学会
- (5) 植生学会
- (6) 日本鳥学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌 (3件)
- (2) 東北森林科学学会誌 (1件)

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県環境審議会委員(2005～現在)
- (2) 山形県生物多様性地域戦略策定検討委員会委員 (2012～現在)
- (3) 飯豊山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する連絡調整会議委員、東北森林管理局置賜森林管理署 (2007～現在)
- (4) 平成25年度山地保全調査(海岸防災林現況調査)事業検討委員会委員、林野庁(2012～2013)
- (5) 交付金プロジェクト「東日本大震災で被災した海岸林の復興技術の開発」外部評価委員、独立行政法人森林総合研究所(2012～現在)
- (6) 庄内自然博物館構想推進協議会運営委員会委員(2012～現在)

- (7) 湿地保全サポーターの指導：鶴岡市大山都沢湿地(平成25年6月16日、9月5日、10月5日、10月19日の4回)
- (8) 「海岸林の津波被害軽減機能」について説明：NHKニュースやまがたに出演(平成25年4月15日)
- (9) 里地里山学講座第1回において「里山の生態系サービス」について講演：鶴岡市自然学習交流館(平成25年5月10日)
- (10) 毎日新聞山形支局版「この人に聞く」で海岸生態系の重要性について解説(平成25年6月23日)
- (11) 平成25年度最上地域森の感謝祭における「みやぎ・やまがた復興支援森づくり交流会」での「海岸林の歴史と役割」の講演およびパネルディスカッションのコーディネータ：最上町・最上地域林業振興協議会主催(平成25年6月22日)
- (12) 平成25年度山形大学農学部公開講座「里山再生の科学」での「里山の豊かさを取り戻すには？」の講演(平成25年7月6日)
- (13) 平成25年度山形県森づくり支援人材育成研修の講師：山形県森林研究研修センター主催、山形県寒河江市(平成25年8月3～4日)
- (14) 津波被災後の海岸林の再生に関する研究報告会にて「津波被害を受けた落葉および常緑広葉樹の耐塩水性の評価」について講演：岩手県久慈市合同庁舎(平成25年8月7日)
- (15) 山形県高等学校サイエンスジャンボリーにて「自然環境をまもるとは？—大山都沢湿地の保全から考える—」の講演：山形県高等学校文化連盟科学専門部主催、鶴岡市金峰少年自然の家(平成25年9月20日)
- (16) 都沢湿地での自然観察会の講師：鶴岡市自然学習交流館主催(平成25年9月28日)
- (17) 現地検討会および講演「海岸砂草地の生物多様性」：NPO法人庄内海岸のクロマツ林をたてる会主催、酒田市十坂コミュニティセンター(平成25年9月29日)
- (18) コミュニティしんぶんの特集発電用大型風車計画を学識経験者に聞く①での庄内海岸の生物多様性について解説(平成25年11月1日)
- (19) 小学生対象体験型学習イベント「イヌワシふれあい体験！in 山形」での「人と共生する里山の生き物たち」の講演：大学コンソーシアムやまがた主催、山形市ゆうキャンパスステーション(平成25年11月9日)
- (20) 森林ボランティア指導者育成研修会での講演「テーマに沿った森づくり」および現地研修講師：やまがた公益の森づくり支援センター主催、寒河江市幸生ふれあい友遊館(平成25年11月24日)
- (21) テレビユー山形のテレビ番組「えこいろ」に出演して里山の再生に関する研究を紹介した。(平成25年12月9日と12月16日)
- (22) 平成25年度研究成果発表会「里山再生の科学」での「里山の豊かさを取り戻すには？」の講演：大学コンソーシアムやまがた主催、山形市ゆうキャンパスステーション(平成25年12月14日)
- (23) 鶴岡市立山戸小学校の総合学習「学びの森・森の学習」での指導：山形県森林研究研修センター主催(平成26年2月3日)
- (24) 生物多様性保全を基軸とした中山間地農業及び地域社会の持続的発展に関する検討会でのパネラー：NPO法人ネイチャーアカデミーもがみ主催・最上郡鮭川村(平成26年2月8日)
- (25) 庄内銀行との若手職員合同研修会での講演「森林環境教育のための森づくり」：山形大学農学部(平成26年2月20日)
- (26) 平成25年度山形県学校林環境学習推進検討会でのアドバイザー：山形県森林研究研修センター主催、山形県寒河江市(平成26年3月7日)

## 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本生態学会大会ポスター賞優秀賞：イヌワシ保全のための列状間伐地における伐採幅の違いがノウサギ誘因効果に及ぼす影響、小林峻大・伊藤咲音・林田光祐(平成26年3月17日)

## 小山浩正

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会（編集委員（2012.4.～2015.3）
- (2) 日本森林学会（評議委員2012.4.～2014.3.）
- (3) 森林立地学会地域幹事（2011.5～）
- (4) 森林計画学会
- (5) 日本生態学会

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Plant Species Biology（日本）1件
- (2) Ecological Research（日本）2件
- (3) 日本森林学会誌（日本）8件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡市森林文化研究会委員（2006年～）
- (2) 鶴岡市広葉樹の森整備計画検討委員（2006年～）
- (3) 山形県みどり推進機構運営協議会委員（2011年4月～）
- (4) 山形県アドバイザー・ボードメンバー（2012.4.～2015.3.31）
- (5) 公益財団法人リバーフロント研究所 河川・海岸環境機能等検討委員会委員（2012.4.～2014.3）
- (6) 東北森林管理局技術開発委員会委員（2013.4～2014.3）
- (7) やまがた緑県民会議委員（2013.6.～2015.3.31）
- (8) 2013年度 山形大学附属博物館公開講座 トチノキの生活史 第1回 講師「森の木々の素敵な生き残り戦略」―彼らと私たちは意外と似ている― 講演 農学部附属演習林、2013年6月1日
- (9) 2013年度 山形大学農学部公開講座 「里山再生の科学」 企画・講師 農学部、2013年7月6日、13日
- (10) 東北森林管理局 保護林モニタリング調査検討委員（2013.7.25.～）
- (11) 鶴岡市致道大学第二講師「身近な生活に潜む進化の話～失敗を繰り返す生き物たちに学ぶ～」 東北公益文科大学大学院ホール、2013年7月24日
- (12) 鶴岡市自然科学交流館 里地里山学講座③「木々たちの生き残り戦略」講演、鶴岡ほとりあ、2013年7月19日
- (13) 平成25年度 研究成果発表会 里山再生の科学 ～いま起きていること、これからやるべきことを考える～ 大学コンソーシアムやまがた 平成25年12月14日 ゆうキャンパス・ステーション.
- (14) 平成25年度山形大学OB・OGセミナー 講演「ブナの森の不思議―その知られざる生態から地域の話づくりまで―」 キャンパスイノベーションセンター（東京）、2014年3月1日

## 芦谷竜矢

### 2-① 学会活動



## 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会
- (2) 日本化学会
- (3) 日本セラミック協会
- (4) 日本木材加工技術協会
- (5) 東北森林科学会
- (6) International Society of Chemical Ecology

## 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第64回日本木材学会大会・口頭発表座長（抽出成分部門3件）：愛媛県松山市

## 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal Wood Science（日本），2件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 農学部公開講座（平成25年7月，農学部）にて講演
- (2) 日本木材学会 2013年度木材教育委員会委員

## 2-③ 学会賞受賞等

- (1) 第64回日本木材学会大会ポスター賞，西條裕美，小藤田久義，高橋孝悦，芦谷竜矢，Ferruginolの抗酸化活性及び抗酸化機構II（2014年3月15日）
- (2) 第64回日本木材学会大会ポスター賞，小林憲史，亀井一郎，高橋孝悦，芦谷竜矢，ポリエチレングリコール・バイサルファイト法によるスギ樹皮の液化と液化残渣の酵素糖化（2014年3月15日）

## 早尻正宏

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本地域経済学会
- (2) 日本協同組合学会
- (3) 林業経済学会，編集担当主事，2013年04月～2015年03月
- (4) 日本社会教育学会
- (5) 日本森林学会
- (6) 東北森林科学会

#### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会，2014年03月～2015年03月
- (2) ふくしま中央森林組合 21世紀の森プロジェクト委員会，2014年02月～2015年03月

- (3) ふくしまの今…風評を吹き飛ばせ!! (福島県消費者と生産者等の理解・交流促進事業), 2013年12月
- (4) 平成25年度鶴岡市生涯学習関係職員合同研修会, 2013年11月
- (5) 第4回山形県社会教育研究大会, 2013年09月
- (6) 平成25年度「緑の雇用」現場技術者育成対策事業に係る調査事業検討委員会, 2013年07月～2014年03月
- (7) 平成25年度鶴岡市総合計画審議会第市民生活専門委員会, 2013年07月～2014年03月

## 江成 広斗

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 「野生生物と社会」学会
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本哺乳類学会, ニホンザル保護管理作業部会 副部長(2013年09月～)
- (4) The Wildlife Society
- (5) 東北森林科学会

# 水土環境科学コース

## 奥山武彦

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本地すべり学会（理事2004～現在）
- (2) 農業農村工学会
- (3) 土木学会
- (4) 地盤工学会（災害連絡会議地方連絡委員）

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業農村工学会

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東日本高速道路株式会社東北支社山形地域技術懇談会委員（24.4.24～26.3.31）
- (2) 財団法人日本水土総合研究所客員研究員（24.7.5～25.3.31）
- (3) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業外部評価委員（24.8.3～25.3.31）
- (4) 農林水産省農村振興局 官民連携新技術研究開発事業審査委員会委員（23.8.19～26.8.18）
- (5) 平成25年度地すべり調査意見聴取会（25.7.16～26.3.31）
- (6) 平成25年度庄内あさひ地区地すべり対策技術検討会委員長（25.9.2～26.3.31）
- (7) 平成25年度滝の沢地区地すべり対策技術検討会委員長（25.10.2～26.3.31）
- (8) 赤川二期幹線用水路補修技術検討委員会委員長（25.10.17～26.3.31）

## 安中武幸

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会（代議員2012～現在； 土壌物理研究部会長2013～現在）
- (2) 土壌物理学会
- (3) 日本砂丘学会
- (4) 地盤工学会
- (5) アメリカ土壌科学会
- (6) 日本土壌肥料学会

#### 2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第52回農業農村工学会土壌物理研究部会研究集会 (2013. 10 福島市)

## 2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Sci. Soc. Am. J. (米国) 1件
- (2) Soil and Foundation (地盤工学会 英文誌) 1件
- (3) 農業農村工学会論文集 2件
- (4) 日本地下水学会誌 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 荘内社会基盤技術フォーラム運営委員長(2013～現在)
- (2) 農業用水(畑)計画基準検討意見聴取会委員(2013.6～2014.3)
- (3) 東北農政局管内国営事業総合技術支援地区委員会委員及び合同委員会委員(2013.10～2014.3)
- (4) 山形県ゆとりとうるおい空間整備推進委員会アドバイザー(2013.10～2014.3)

## 渡邊 一哉

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会(研究部会幹事)
- (2) 日本生態学会(正会員)
- (3) 環境情報科学(論文査読委員)
- (4) 自然環境復元学会(正会員)
- (5) 農村計画学会(正会員)

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 環境情報科学1件

### 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 平成25年度総合地球環境学研究所共同研究員

## 渡部徹

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会(1998～現在, 東北支部幹事2010～現在, 環境工学委員会委員兼幹事2011～現在)
- (2) 日本水環境学会(1998～現在)
- (3) Society for Risk Analysis(2009～現在)
- (4) International Water Association(2000～現在)

- (5) 農業農村工学会 (2011～現在)

## 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) PLOS ONE (米国) 1件
- (2) Water Research (英国) 1件
- (3) Risk Analysis (米国) 1件
- (4) Water Science and Technology (英国) 1件
- (5) Hydrological Research Letters (日本) 1件
- (6) Journal of Water and Environment Technology (日本) 1件

## 2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校 スーパーサイエンスハイスクール事業への協力 (平成25年4月～現在)
- (2) 山形放送による電話取材「西川町で発生した断水に関するコメント」 (平成25年7月31日夕刻のニュース番組にて放送)

## 花山奨

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会
- (2) 土壌物理学会
- (3) 日本土壌肥料科学会

# プロジェクト教員

## 伊藤紘晃

### 2-① 学会活動

#### 2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会
- (2) 日本水環境学会
- (3) Association for the Sciences of Limnology and Oceanography

#### 2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 土木学会論文集（国内） 1件

## ③産学官など国内他機関との連携研究実績

(研究費を受けていない場合も含む)

### 安全農産物生産学コース

#### 安藤豊

- (1) 名古屋大学：熱帯泥炭湿地を利用した持続的・低環境負荷の食料・エネルギー生産技術の確立(2000年～現在)
- (2) 名古屋大学・九州大学：杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田（30～2,000年の栽培来歴）の土壌有機炭素プールの安定性と土壌炭素の増減に関する研究
- (3) 高知大学：サゴヤン野生林の実態解明と持続的利用に関する研究

#### 西澤隆

- (1) 庄内産イチゴ研究ユニット：山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携ユニット，平成25年4月～平成26年3月
- (2) 庄内産メロン研究ユニット：山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携ユニット，平成25年4月～平成26年3月

#### 平智

- (1) 山形県庄内総合支庁：「食の都庄内」推進会議アドバイザー（2010～現在）

#### 堀口健一

- (1) 大商金山牧場 「肥育豚における粳米サイレージ給与研究」 2013年7月～2014年3月

#### 小笠原宣好

- (1) (独)農業環境技術研究所：農村環境における生物多様性を包括的に評価する手法の開発，2013年5月～2014年2月

#### 長谷修

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 野菜花き病害研究ユニット，2012年4月～継続

#### 小林隆

- (1) 山形県：野菜花き病害研究ユニット，2013年4月～2014年3月

- (2) 鶴岡市：ミョウガ根茎腐敗苗に関する連携研究，2014年10月～2014年3月
- (3) 有限会社ワークム農業研究所：植物由来成分の抗菌性と水稲病害防除効果，2014年4月～2014年3月

## 森静香

- (1) (独) 理化学研究所(鶴岡)：潮風害を受けた水稲のメタボローム解析に関する連携研究、2013年4月～2014年3月(科研費)
- (2) (独) 農業環境技術研究所：資材中のケイ酸形態に関する連携研究、2013年4月～2014年3月(科研費)
- (3) 山形県、鶴岡市、香蘭産業(株)：未利用資源の資材化に関する連携研究、2013年4月～2014年3月(東北創生研究所)
- (4) (独) 理化学研究所：水稲における塩耐性系統の塩分付着害に関する連携研究、2013年4月～2014年3月
- (5) 大塚アグリテクノ(株)：「亜りん酸肥料の施用が水稲の生育、品質および収量に及ぼす影響」に関する連携研究、2013年7月～2014年3月
- (6) サカタのタネ(株)、(株) サミュエルインターナショナル：「バリカタの施肥試験」に関する連携研究、2013年6月～2014年3月
- (7) 昭和化学工業(株)：「珪藻土が水稲に及ぼす影響」に関する連携研究、2013年9月～2014年3月
- (8) 日本ロックウール(株)：「こめパワーマット(ロックウールマット)の試験」に関する連携研究、2013年4月～2014年3月

## 佐々木由佳

- (1) 名古屋大学大学院生命農学研究科：SATREPS(テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)
- (2) 名古屋大学大学院生命農学研究科：熱帯泥炭湿地における環境農業—サゴヤシ栽培の炭素シンク機能と生産技術の改善
- (3) 高知大学農学部：サゴヤシ野生林の実態解明と持続的利用に関する研究
- (4) 東京農工大学：ハイパースペクトルセンサによる水稲収量・品質、大豆収量・品質、土壌成分推定のための研究
- (5) JA鶴岡：だだちゃ豆の連作障害防止に関する研究
- (6) 株式会社関東農産：だだちゃ豆栽培における有機質肥料の連用効果に関する研究

## 松本大生

- (1) 山形県：オウトウ品質に関する連携研究，2013年4月～2014年3月
- (2) 山形県：バラ科サクラ属自家不和合性機構に関する連携研究，2013年4月～2014年3月



# 食農環境マネジメント学コース

## 小沢互

- (1) 自給飼料多給による高付加価値豚肉生産技術の開発（研究代表者・吉田宣夫）・平成22年4月～平成27年3月（農林水産省）
- (2) やまがた第6次産業（農商工連携）人材創生プロジェクト（やまがた6次産業人材創生コンソーシアム、管理法人・フィデア総研）におけるプログラム開発リーダー
- (3) 山辺町の農林水産物利用促進に係る調査研究（共同研究）

## 角田毅

- (1) 国際農林水産業研究センター：アフリカ低湿地における低投入稲作技術の開発
- (2) 北海道大学大学院農学研究科：後継者がいない農業経営者の資産計画と生活設計に関する研究
- (3) 秋田県立大学生物資源科学部：東北水田地帯における田畑輪換作の現局面と農法変革に向けた条件に関する研究

## 藤科智海

- (1) 多雪平野景観北日本における代表種の選定と生息条件に及ぼす農法の影響解明，2013年06月～ 継続中，農林水産省，一般受託研究

# 食品・応用生命科学コース

## 小関卓也

- (1) 山形県農業総合研究センター、民間企業：新規発酵技術による風味の良い米糠高機能化製品の開発(2012.10～現在)

## 木村直子

- (1) 平成24年度地域産学官連携プロジェクト「庄内産ブランド豚の低コストかつ安定生産を目指した高受精能なブタ凍結精液作製法の研究」の継続研究で、山形県農業総合研究センター養豚試験場と共同研究。

## 加来伸夫

- (1) 東京薬科大学：メタン発酵ならびに微生物燃料電池に関する研究（2011年～現在）
- (2) 山形県自動車販売店リサイクルセンター：資源リサイクルに関する研究（2010年～現在）
- (3) （株）森環境技術研究所：各種条件下におけるセルロース分解に関する研究
- (4) （株）エコハイテクコーポレーションおよび（有）拓芯工建：浄水発生土焼成物の有効活用に関する研究

## 渡辺昌規

- (1) 平成25年度 山形県3R研究開発事業費補助金（先導的研究開発事業・共同研究）「米副産物からのリン成分・高純度タンパク質の同時回収・精製プロセスの開発」（採択、配分額1,500千円、（株）三和油脂）
- (2) 平成25年度 ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金（経済産業省）採択課題：「デンプン加工食品工場から排出される難処理水を簡便で安定的に処理できるシステム装置の開発」（採択、配分額1,580千円、（株）アクト）
- (3) 広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター「米表層タンパク質組成の任意制御による米の高品質化に関する研究」
- (4) （株）サタケ、食協：「米糠、無洗米製造排水からの有価資源回収に関する研究」
- (5) 大道山竹炭工房：「竹炭を用いた学習教材用空気電池の開発」

## 植物機能開発学コース

### 俵谷圭太郎

- (1) 農林水産省農林水産技術会議事務局：「イネの低コスト化・省力化・環境負荷低減に資する有用遺伝子の同定とDNAマーカーの開発」

### 村山秀樹

- (1) 山形県農林水産部と「りんご研究」連携ユニットならびに「西洋なし品種開発・生理研究ユニット」連携ユニットで研究活動

### 江頭宏昌

- (1) （独法）農業・食品産業技術総合研究機構・作物研究所：「ダダチャマメ等のエダマメ在来品種間の食味、機能性成分の相違に関する研究」（平成20年11月4日～平成26年3月31日）
- (2) 独立行政法人 農業生物資源研究所 遺伝資源センター 「伝統野菜等の生息域内保存支援システムの開発（CRS1003）」（平成25年6月～）

### 程為国

- (1) 山形県農業総合研究センター：農耕地からの温室効果ガス削減技術の研究、2013年4月～2014年3月
- (2) 農業環境技術研究所：地球温暖化に関する研究、2013年4月～2014年3月
- (3) 豊橋技術科学大学：環境保全型循環農業における土壌生物性の診断技術の開発、2013年9月～2014年3月

### 笹沼恒男

- (1) 京都大学農学研究科：コムギ・エギロプス属の系統進化、遺伝的多様性に関する研究、2002年5月～現在

- (2) 岡山大学資源植物科学研究所；ロシア・北コーカサスのムギ類遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究，2010年6月～現在
- (3) 岡山大学農学部：東アジアのムギ類遺伝資源の調査研究：2011年4月～現在
- (4) 三栄源エフ・エフ・アイ株式会社：ベニバナの品種内多様性に関する研究，2013年10月～現在
- (5) 味の素株式会社：紅花種子の品種選抜に関する研究，2014年1月～現在

## 及川彰

- (1) 鶴岡市：地域産学官連携プロジェクト，2013年度。

## 森林科学コース

### 野堀嘉裕

- (1) 最上総合支庁：真室川町再生可能エネルギー勉強会、2013年10月～

### 高橋孝悦

- (1) 秋田県立大学木材高度加工研究所：木質材料の化学加工についての研究，継続中
- (2) クミアイ化学：天然由来の植物害虫抑制剤について研究：継続中

### 森茂太

- (1) 琉球大学理学部海洋自然科学科：植物個体呼吸の共同研究（科研基盤（B））
- (2) 筑波大学大学院生命環境科学科：植物個体呼吸に与えるエンドファイトの影響評価研究（科研基盤（B））
- (3) 京都大学生態学研究センターとの樹木個体生理に関する共同研究
- (4) 新潟県森林研究所との個体呼吸に関する共同研究，
- (5) 東北森林管理局森林技術センターとの共同研究
- (6) 青森県平内町林業研究グループ 平内ヒバ研究会、滝の沢林業研究グループとのヒバの持続的省力化施業に関する研究

### 林田光祐

- (1) 「震災後の海岸林再生に向けた広葉樹の津波に対する耐性の評価と海岸林造成方法の提案」に関する研究代表者（三井物産環境基金東日本大震災復興助成2011.9～2013.9）
- (2) やまがた森林環境学習推進研究ユニット：山形県森林研究研修センターとの共同研究

### 芦谷竜矢

- (1) 九州大学：樹木成分化学についての研究，継続中

- (2) 秋田県立大学木材高度加工研究所：木質材料の化学加工についての研究，継続中
- (3) クミアイ化学：天然由来の植物害虫抑制剤について研究：継続中
- (4) 鶴岡工業高等専門学校：木質廃材の金属炭化物への利用について研究：継続中
- (5) ネクサス株式会社：バイオマス由来プラスチック材料の性能評価：継続中

## 水土環境科学コース

### 奥山武彦

- (1) 農林水産省：気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発，2013～2017

### 渡邊一哉

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 連携研究ユニット

### 渡部徹

- (1) 東京大学，東北大学，金沢大学：熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発，2009年4月～2013年9月
- (2) 東北大学，北海道大学：水環境におけるヒトノロウイルス未知動態の解明，2012年4月～現在
- (3) 東京大学：都市における健康リスク評価研究国際基盤形成，2011年4月～現在
- (4) 東北大学，宮城県保健環境センター，東京大学：迅速・高精度・網羅的な病原微生物検出による水監視システムの開発，2011年10月～現在
- (5) 東京工業大学，カセサート大学（タイ）：アジアにおける都市水環境の保全・再生のための研究教育拠点，2011年9月～現在
- (6) 東京大学，愛媛大学，総合地球環境研究所，長崎大学：気候，土地利用，人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成，2011年10月～現在
- (7) 東北大学，金沢大学，カセサート大学（タイ）：東南アジアの水環境における薬剤耐性菌と耐性獲得経路の推定，2012年4月～現在
- (8) 愛媛大学：フィリピンにおけるデング熱媒介蚊の集団遺伝学的研究：飛翔パターンと感染経路，2013年4月～現在

## ④海外研究者との研究活動

### 安全農産物生産学コース

#### 安藤豊

##### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 中国：JST-MOST共同研究（11月、3月、計2回渡航）
- (2) インドネシア：奨学寄付金によるSRI現地圃場視察（8月）
- (3) マレーシア：科研費によるサゴ調査（9月）

##### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2011年2月から：杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田（30～2,000年の栽培来歴）の土壤有機炭素プールの安定性と土壤炭素の増減に関する研究（JST-MOST研究交流）
- (2) 2011年から 熱帯泥炭に関する共同研究（マレーシアサラワク熱帯泥炭研究所所長ルリー博士と共同研究）科研費
- (3) 2011年から SRIに関する共同研究（ガジヤマダ大学ベニト准教授と共同研究）

#### 西澤隆

##### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 二国間共同研究事業（バングラデシュ）：日本学術振興会，平成25年4月～平成26年3月
- (2) 論文博士支援事業（バングラデシュ）：日本学術振興会，平成25年4月～平成26年3月

##### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 二国間共同研究事業（バングラデシュ）：日本学術振興会，平成25年4月～平成26年3月

#### 吉田宣夫

##### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 中国・黒竜江八一農墾大学動物科学技術学院において講演と学術交流
- (2) 中国・吉林大学動物科学技術学院において講演と学術交流
- (3) 中国・中国農業大学工学院において食品残さ飼料化で学術交流

## 佐々木由佳

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年8月25日～8月31日、韓国：国際理解（サマースクール）引率および忠北大学での交流セミナーの実施
- (2) 2013年9月24日～10月7日、インドネシア：サゴヤシ野生林の実態解明と持続的利用に関する研究の現地調査、試料採取
- (3) 2013年12月7日～12月18日、ケニア：SATREPS（テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト）に関する研究の現地調査、研究打ち合わせ
- (4) 2013年3月25日～3月28日、中国：浙江省農業科学院におけるJST-MOST（杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田（30～2,000年の栽培来歴）の土壌有機炭素プールの安定性と土壌炭素の増減に関する研究）の成果報告会に出席

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) マレーシア、熱帯泥炭湿地を利用した持続的サゴヤシ栽培に関する研究、共同研究者：Tropical Peat Research Laboratory UnitのDr. Lulie Melling、2010年～
- (2) 中国、JST-MOST（杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田（30～2,000年の栽培来歴）の土壌有機炭素プールの安定性と土壌炭素の増減に関する研究）、共同研究者：浙江省農業科学院のMr. Fu Jianrong、Ms. Ye Jing、2011年～
- (3) ベトナム、国際共同研究（東アジアにおける無農薬・無化学肥料・無除草剤による低投入環境保全型水稻栽培の確立）、共同研究者：ハノイ農業大学のDr. Cuong、Dr. Hanh、2011年～
- (4) ケニア、SATREPS（テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト）、共同研究者：Ministry of AgricultureのMr. Johnson Irungu Waithaka, Kenya Agricultural Research Institute (KARI), MweaのMr. John Kimani, Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology (JKUAT)のMr. Hunja Murage, Maseno UniversityのMr. John Collins Onyango, Natinal Irrigation Board (NIB), Mwea Irrigation Agriculture Development Centre (MIAD)のMr. Raphael Wanjogu、2012年～
- (5) インドネシア、三井物産環境基金研究助成国際共同研究（サゴヤシ野生林の実態解明と持続的利用に関する研究）、共同研究者：ハルオレオ大学農学部講師Mr. Fransiscus S. Rembon、2012年～

## 食農環境マネジメント学コース

### 岩鼻通明

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年4-5月 韓国：全州国際映画祭調査
- (2) 2013年7月 韓国：プチョン国際ファンタスティック映画祭調査

### 角田毅

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年6月 ガーナ：アフリカ低湿地プロにおける農家経済調査

- (2) 2013年12月 ガーナ：アフリカ低湿地プロにおける農家経済調査
- (3) 2013年11月 アメリカ、カナダ：北米における経営継承システムに関する調査

## 食品・応用生命科学コース

### 塩野義人

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年9月 インドネシア：熱帯生植物を生理活性物質の探索源の可能性について

### 渡辺昌規

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年7月15-24日 タイ・チェンマイ大学農工学部特別講義の実施
- (2) 2013年8月22-26日 タイ・チェンマイ大学農工学部訪問（国際合同セミナー開催打合せの実施）
- (3) 2013年2月7日 タイ：Thepsatri Rajabhat大学Peangjaidian Wichayakul副学部長と国際共同研究、国際交流事業に関する情報交換の実施。
- (4) 2014年2月8日 タイ・チェンマイ大学農工学部訪問（学生交流（JASSOについて）、共同研究打ち合わせの実施）
- (5) 2013年2月7日 タイ：Thepsatri Rajabhat大学Peangjaidian Wichayakul副学部長と国際共同研究、国際交流事業に関する情報交換の実施。

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年3月 亜熱帯性微生物を用いた新規発酵技術の開発とその事業化に関する共同研究（JSPS研究拠点形成事業、チェンマイ大学農工学部長Charin Techapun氏、神戸大学農学部教授竹中慎治氏との共同研究）（平成26年3月採択）

#### 4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 2013年11月26日 日タイ食文化セミナーの開催（会場：本学小白川キャンパス、参加国数：2、参加人数：80名）

## 植物機能開発学コース

### 俵谷圭太郎

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年5月 インドネシア：日本学術振興会論文博士号取得希望者に対する支援事業による派遣

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年12月 インドネシアの熱帯林の修復に関する共同研究（インドネシア林業省Turjaman博士との共同研究）

### 村山秀樹

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年6月 スペイン：国際アウトウシンポジウムでポスター発表
- (2) 2013年8月 中国ウルムチにおいてナシ属植物の遺伝資源調査
- (3) 2013年9月 イタリアボローニャ大学においてナシ属植物の遺伝資源調査
- (4) 2013年10月 アメリカUSDAにおいてナシ属植物の遺伝資源調査

### 程為国

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年10月17-20日、ベトナムHanoi Agricultural Universityを訪問し、研究交流を行なった
- (2) 2013年12月22-30日、中国科学院大気物理物理研究所、安徽省農業科学院を訪問し、研究交流を行なった

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年01月から、中国科学院大気物理研究所XU Xingkai教授と一緒に「森林生態系における炭素・窒素の動態に及ぼす土壌凍結の影響」共同研究を行なっている

### 笹沼恒男

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年7月～8月 キルギス：ムギ類を中心とする植物遺伝資源調査

#### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ロシア・北コーカサスのムギ類遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究（バビロフ研究所T. N. Smekalova博士との共同研究）：2010年6月～現在

### 及川彰

#### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年6月 スペイン：国際アウトウシンポジウムで講演（ポスター）発表



# 森林科学コース

## 野堀嘉裕

### 4-① 国際研究集会の開催

- (1) Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia, モンゴル・ウランバートル(平成25年3月5日～平成25年3月6日)

## 高橋孝悦

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年8月 オーストラリア：International Chemical Ecology Conferenceにてポスター発表

## 森茂太

### 4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) スペイン・リエイダ大学の FERRIO DIAZ Juan Pedroと  
{樹木個体レベルの炭素/水フローのバランス：根呼吸と水分吸収の統合理解} の共同研究を開始した。

## 芦谷竜矢

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年8月 オーストラリア：International Chemical Ecology Conferenceにてポスター発表

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 植物成分の化学に関する共同研究（スウェーデン王立工科大学教授Anna-Karin Borg-Karlson氏との共同研究）：継続中

# 水土環境科学コース

## 渡邊一哉

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年8月および2014年3月 タイ国バンドン湾での研究調査
- (2) 2013年12月 ベトナム フェエ市での研究調査

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年8月および2014年3月 タイ国バンドン湾での研究調査（タイ カセサート大学、タマサート大学との共同研究）

## 渡部徹

### 4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年4月, 8月, 12月 ベトナム: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成のための現地調査
- (2) 2013年5月 (2回), 6月 タイ: 熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発
- (3) 2013年9月 韓国: 国際水学会アジア太平洋地域会議にて研究発表 (口頭)
- (4) 2013年9月 フランス: 第4回サステイナビリティ学国際会議に参加, セッション記録担当
- (5) 2013年10月 フランス: 第7回水の効率的利用と管理に関する国際会議で研究発表 (口頭)
- (6) 2013年11月 タイ: 都市水環境の保全・再生に関する国際シンポジウムで研究発表 (口頭)
- (7) 2013年12月 ベトナム: 都市域における水と健康に関するJSPS-AASPP/GRENE国際シンポジウムの開催
- (8) 2014年3月 タイ: アジアにおける都市水環境の保全・再生のための研究教育拠点に関する打合せ

### 4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2009年4月～2013年9月 熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発 (タイ王国天然資源環境省, および同国カセサート大学Wilai Chiemchaisri准教授, Chart Chiemchaisri准教授との共同研究)
- (2) 2008年4月～現在 病原微生物による感染症リスクの定量評価に関する共同研究 (米国ドレクセル大学Charles Haas教授との共同研究)
- (3) 2011年4月～2014年3月 都市における健康リスク評価研究国際基盤形成 (ベトナム・フェエ大学, およびバングラデシュ技術科学大学との共同研究)

### 4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 平成25年12月 JSPS-AASPP/GRENE Joint International Symposium on Water and Health in Urban Areaの開催 (会場: ベトナム・フェエ市・パークビューホテル, 参加国数: 6, 参加人数: 79)

# プロジェクト教員

伊藤紘晃

## 4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2014年3月 オーストラリア：水中の鉄の動態と藻類による鉄摂取に関する共同研究（ニューサウスウェールズ大学T. David Waite教授との共同研究）

## ⑤研究員等の受け入れ状況

### 安全農産物生産学コース

#### 西澤隆

- (1) シェレ・バンガラ・農業大学（バンガラデシュ）・教授 Tuhin Suvra Roy：二国間共同研究事業（平成25年5月19日～6月17日）
- (2) シェレ・バンガラ・農業大学（バンガラデシュ）・教授 Tuhin Suvra Roy：二国間共同研究事業（平成26年3月15日～3月30日）
- (3) シェレ・バンガラ・農業大学（バンガラデシュ）・教授 Md. Hazrat Ali：二国間共同研究事業（平成26年3月15日～3月21日）
- (4) シェレ・バンガラ・農業大学（バンガラデシュ）・准教授 Abul Faiz Md. Jamal Uddin：二国間共同研究事業（平成26年3月15日～3月30日）
- (5) シェレ・バンガラ・農業大学（バンガラデシュ）・助教 Abul Hasnat Md. Solaiman：論文博士支援事業（平成25年5月19日～5月24日）
- (6) シェレ・バンガラ・農業大学（バンガラデシュ）・助教 Abul Hasnat Md. Solaiman：二国間共同研究事業（平成26年3月10日～3月30日）
- (7) タクシン大学（タイ）・Faculty of Technology and Community Development・副学部長 Samak Kaewsuksaeng（平成25年8月30日～9月2日）

### 食品・応用生命科学コース

#### 塩野義人

- (1) インドネシア共和国・パジャジャラン大学・数学・自然科学部・大学院生, Ms Yenny Febriani Yun: 「インドネシアにおける薬用植物資源からの生理活性物質の探索研究」 (平成25年4月26日から～平成25年7月1日)
- (2) インドネシア共和国・パジャジャラン大学・数学・自然科学部・大学院生, Ms Lilis Siti Aisyah: 「インドネシアにおける薬用植物資源からの生理活性物質の探索研究」 (平成25年4月26日から～平成25年7月1日)
- (3) インドネシア共和国・リアウ大学 講師 理学部 数学・自然科学部, Dr. Hilwan Yuda Teruna: 「インドネシアにおける薬用植物資源の生理活性物質の研究」 (平成25年11月25日から12月3日)
- (4) インドネシア共和国・リアウ大学 講師 理学部 数学・自然科学部およびパジャジャラン大学大学院生, Mrs. Yum Emyarti : 「インドネシアにおける薬用植物資源の生理活性物質の研究」 (平成25年11月25日から12月9日)

#### 渡辺昌規

- (1) 広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター 塩野忠彦 主任研究員・広島県立総合技術センター探索研究費・米表層タンパク質組成の任意制御による米の高品質化に関する研究・平成25年9月3～5日

- (2) タイ国・チェンマイ大学農工学部Ampin Kuntiya副学部長、Noppol Leksawasdi学科長、Phisit Seesuriyachan博士・山形大学への表敬訪問、国際共同研究、大学間交流事業に案ずる打ち合わせ・平成25年11月25日

## 植物機能開発学コース

### 村山秀樹

- (1) Student Exchange Support Programでガジヤマダ大学より修士学生1名受け入れ

### 程為国

- (1) Landcare Research New Zealand Ltd の Professor Surinder Saggat氏をJSPS外国人招へい研究者（短期）として受け入れ、「日本とニュージーランドの火山灰土壌におけるメタンと亜酸化窒素の放出と吸収」の共同研究を行なった（平成26年3月29日～平成26年4月15日）
- (2) Gadjahmada University, Indonesia 修士2年学生Valensi Kautsar君をJASSO（留学生交流支援制度（短期受け入れ））の支援制度で受け入れ、「水田土壌の炭素・窒素の動態変動に及ぼす有機栽培歴の影響に関する研究」を行なった（平成25年9月1日～平成26年8月31日）

### 笹沼恒男

- (1) スパールバル国際種子保機関シニアアドバイザー R. von Bothmer、スウェーデン農業科学大学教授 I. Backeus：外国人研究者として受け入れ、「日本海沿岸東北地域の作物遺伝資源及び伝統農法に関する情報収集」（平成25年5月30日～平成25年6月2日）

## ⑥その他

### 安全農産物生産学コース

藤井弘志

- (1) 公務員ゼミ開催：2回参加人数40人

### 食農環境マネジメント学コース

小沢互

- (1) 学科長（学務委員長兼任）（2013年4月～2015年3月）
- (2) 山形大学高度観光人材育成県等事業に係る検討委員会委員（2011年9月～）
- (3) 全学就職委員会委員（2012年4月～2014年3月）
- (4) 全学教育・学生委員会委員（2013年4月～2014年3月）

### 食品・応用生命科学コース

三橋渉

- (1) 農学部遺伝子実験室室長
- (2) 農学部遺伝子組換え実験安全委員

木村直子

- (1) 研究費獲得状況：①平成24年度科学研究費補助金基盤研究（C）（平24-26，420万円，代表）、②平成25年度YU-COE「山形大学先進的研究拠点」（E）形成支援（400万円，分担）
- (2) 学部内委員関係：学務委員副委員長（学務委員平成24～25年度中、平成25年のみ）、山形大学動物実験委員会委員（平成25年～）、山形大学男女共同参画推進（平成26年2月～）

渡辺昌規

- (1) 「山形大学国際化推進事業支援プログラム」：申請課題「チェンマイ大学農工学部・地域教育文化学部・農学部合同の国際セミナー「日タイ食文化セミナー」事業申請（採択：決定額800千円）の申請代表者
- (2) 「日タイ食文化セミナー」実施取りまとめ担当
- (3) 山形大学国際交流コーディネーター（タイ・チェンマイ大学担当）
- (4) 教員養成機構運営委員会

- (5) 教員養成機構運営委員会WG (H25-26)
- (6) 教育ディレクター (H25-26)
- (7) 農学部学務委員 (H25-26)
- (8) 農学部運営協議会 (H25)
- (9) 農学部FD委員会 (H25)
- (10) 農学部教育研究支援室運営委員会 (H25-26)
- (11) (株)三和油脂(天童市)企業研修・見学会の実施(平成25年8月7日, 食応コース3年12名)

## 植物機能開発学コース

### 江頭 宏昌

- (1) 「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマとして2015年5月1日～10月31日にイタリアミラノ市で開催される、ミラノ国際博覧会の日本館サポーターに任命された。

## 森林科学コース

### 菊間満

- (1) 前期講義(森林政策学、7月9日)において、元宮城教育大学学長・伊藤博義氏を講師に迎え、特別講義(労働法とは何かーブラック企業に負けないためにー)を実施した。

### 3. 国際交流状況について

#### (1) 学部間国際交流協定締結大学一覧

国名	機関名	締結年月日
インドネシア	ガジャマダ大学農学部	2002年 3月11日
インドネシア	ガジャマダ大学林学部	2002年12月19日
中華人民共和国	浙江省農業科学院	2003年 8月 1日
モンゴル	モンゴル国立農業大学	2004年 5月 5日
バングラデシュ	シエレ・バングラ農業大学	2005年 8月31日
ラオス	ラオス国立大学工学部	2006年 3月 9日
スリランカ	ペラデニア大学農学部	2006年 7月 5日
中華人民共和国	中国農業大学食品科学栄養工学部	2006年11月22日
中華人民共和国	瀋陽農業大学	2006年12月26日
中華人民共和国	延辺大学農学院	2006年12月27日
バングラデシュ	ハジエ・モハマト・ダグネ科学技術大学	2007年 3月 7日
タイ	キング・モンクット工科大学トブリ校	2008年 6月24日
フィリピン	ビサヤ大学	2008年 7月24日
インドネシア	インドネシア林業省森林研究開発庁森林自然保護研究開発センター	2008年 7月25日
インドネシア	ムラワルマン大学林学部	2008年11月25日
インドネシア	ガジャマダ大学農業工学部	2010年 7月 7日
インドネシア	ランブンマンクラート大学林学部	2010年 7月 7日
中華人民共和国	南京農業大学	2011年 3月24日
インドネシア	バンジャラン大学	2011年 3月31日
中華人民共和国	華中農業大学	2011年 9月16日
ドイツ	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	東北林業大学	2012年 7月27日
インドネシア	ボルネオ大学	2012年10月12日
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	2013年 2月 4日

#### (2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）

国名	機関名	締結年月日
インドネシア	ガジャマダ大学	2013年 2月 6日
チリ	タルカ大学	2005年 8月26日



大韓民国	忠北大学校農業生命環境大学	2008年 6月 5日
モンゴル	モンゴル国立農業大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	延辺大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	北京林業大学	2009年 2月25日
タイ	チェンマイ大学	2012年 1月30日
ベトナム	ハノイ農業大学	2008年 4月21日
ペルー	ラモリナ国立農業大学	2012年12月 3日
ペルー	カトリカ大学	2012年12月 4日

### (3) 外国出張一覧

氏 名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
ロペス・ラリー	アメリカ	25. 4. 3～25. 4. 8	学会出席
岩 鼻 通 明	韓国	25. 4. 24～25. 5. 4	現地調査
渡 部 徹	タイ	25. 5. 9～25. 5. 13	研究指導
渡 部 徹	タイ	25. 5. 25～25. 5. 28	研究打合せ
安 藤 豊	ベトナム	25. 5. 27～25. 5. 29	研究打合せ
夏 賀 元 康	フランス	25. 5. 27～25. 6. 8	学会出席及び資料収集
片 平 光 彦	フランス	25. 6. 1～25. 6. 13	学会出席及び資料収集
角 田 毅	ガーナ	25. 6. 2～25. 6. 17	現地調査
及 川 彰	スペイン	25. 6. 21～25. 6. 29	シンポジウム出席
村 山 秀 樹	スペイン	25. 6. 22～25. 6. 30	シンポジウム出席
渡 部 徹	タイ	25. 6. 25～25. 6. 28	会議出席
安 藤 豊	ミャンマー	25. 7. 1～25. 7. 5	研究打合せ
佐 藤 英 世	イギリス	25. 7. 19～25. 7. 26	学会出席及び研究打合せ
笹 沼 恒 男	キルギス	25. 7. 21～25. 8. 5	現地調査
西 澤 隆	バングラデシュ	25. 8. 11～25. 8. 16	研究指導
渡 部 徹	ベトナム	25. 8. 15～25. 8. 22	研究打合せ及び現地調査
ロペス・ラリー	モンゴル	25. 8. 15～25. 9. 5	研究打合せ
芦 谷 竜 矢	オーストラリア	25. 8. 17～25. 8. 25	学会出席
塩 野 義 人	シンガポール	25. 8. 18～25. 8. 24	学会出席
俵 谷 圭太郎	トルコ	25. 8. 18～25. 8. 25	学会出席
渡 辺 昌 規 大 谷 和 彦	タイ	25. 8. 22～25. 8. 26	合同セミナー開催に係る打 合せ
村 山 秀 樹	中国	25. 8. 23～25. 8. 30	現地調査
長 谷 修	中国	25. 8. 25～25. 8. 31	学会出席

氏名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
夏賀元康 片平光彦 佐々木由佳 柏倉弘喜	韓国	25. 8. 25～25. 8. 28 25. 8. 25～25. 8. 31 25. 8. 25～25. 8. 31 25. 8. 25～25. 8. 31	サマースクール引率
安藤豊	中国	25. 8. 27～25. 8. 30	研究打合せ及び現地調査
佐々木周平	中国	25. 8. 27～25. 8. 30	研究打合せ及び現地調査
塩野義人	インドネシア	25. 8. 31～25. 9. 10	学会出席及び研究打合せ
伊藤紘晃	韓国	25. 9. 7～25. 9. 12	学会出席
渡部徹	韓国	25. 9. 9～25. 9. 12	会議出席
村山秀樹	アメリカ	25. 9. 10～25. 9. 16	現地調査
ロペス・ラリー 小助川梓	モンゴル	25. 9. 11～25. 9. 17	サマースクール引率
伊藤紘晃	ブラジル	25. 9. 13～25. 9. 24	シンポジウム出席
渡部徹	フランス	25. 9. 14～25. 9. 20	会議出席
藤科智海	アメリカ	25. 9. 17～25. 9. 26	現地調査
佐藤智	ベトナム	25. 9. 17～25. 9. 23	シンポジウム出席
金成学	アメリカ	25. 9. 17～25. 9. 26	現地調査
程為国	ベトナム	25. 9. 18～25. 9. 22	シンポジウム出席
佐々木周平	マレーシア	25. 9. 23～25. 10. 4	現地調査及び試料採取
佐々木由佳	インドネシア	25. 9. 24～25. 10. 7	現地調査
安藤豊	マレーシア	25. 9. 27～25. 10. 4	研究打合せ
角田憲一	マレーシア	25. 9. 27～25. 10. 5	研究実施及び研究打合せ
村山秀樹	イタリア	25. 10. 5～25. 10. 12	現地調査
佐藤英世	ドイツ	25. 10. 9～25. 10. 13	研究打合せ
ロペス・ラリー	中国	25. 10. 13～25. 10. 20	研究打合せ
吉田宣夫	中国	25. 10. 14～25. 10. 23	学会出席
堀口健一	中国	25. 10. 14～25. 10. 20	学会出席
俵谷圭太郎	インドネシア	25. 10. 19～25. 10. 27	会議出席
渡部徹	フランス	25. 10. 20～25. 10. 26	会議出席
角田毅	アメリカ、カナダ	25. 11. 3～25. 11. 13	現地調査
安藤豊	中国	25. 11. 16～25. 11. 21	研究打合せ
佐々木周平	中国	25. 11. 16～25. 11. 30	研究打合せ
渡部徹	タイ	25. 11. 21～25. 11. 25	会議出席及び研究打合せ
角田毅	ガーナ	25. 11. 30～25. 12. 12	現地調査
俵谷圭太郎	インドネシア	25. 12. 1～25. 12. 8	研究打合せ

氏名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
佐々木 由佳	ケニア	25. 12. 7～25. 12. 18	研究打合せ及び現地調査
渡部 徹	ベトナム	25. 12. 12～25. 12. 19	シンポジウム出席及び現地調査
渡邊 一哉	ベトナム	25. 12. 14～25. 12. 22	シンポジウム出席及び現地調査
安藤 豊	インドネシア	25. 12. 16～25. 12. 20	講演
程 為 国	中国	25. 12. 22～25. 12. 30	研究打合せ
西澤 隆	バングラデシュ	25. 12. 30～26. 1. 6	現地調査及び研究打合せ
菊池 俊一	ニュージーランド	26. 1. 20～26. 2. 4	現地調査
渡辺 昌規	タイ	26. 2. 4～26. 2. 9	講演及び打合せ
恩田 弥生	オーストリア	26. 2. 10～26. 2. 17	学会出席
渡邊 一哉	タイ	26. 2. 20～26. 3. 3	現地調査
ロペス・ラリー	モンゴル	26. 2. 23～26. 2. 27	研究打合せ
俵谷 圭太郎	インドネシア	26. 3. 2～26. 3. 9	研究打合せ
伊藤 紘晃	オーストラリア	26. 3. 4～26. 3. 8	研究打合せ
金 成 学	韓国	26. 3. 6～26. 3. 13	現地調査
角田 憲一	マレーシア	26. 3. 14～26. 3. 28	現地調査及び会議出席
渡部 徹	タイ	26. 3. 23～26. 3. 26	研究打合せ
安藤 豊	中国	26. 3. 25～26. 3. 28	研究打合せ
佐々木 由佳	中国	26. 3. 25～25. 3. 28	共同研究報告会出席
佐々木 周平	中国	26. 3. 25～26. 3. 28	研究打合せ

#### (4) その他の国際交流の実施

##### ① 国際交流協定締結校との国際交流

###### ○ドイツ・ライプニッツ・ハノーヴァー大学

- ・学部間交流協定に基づく学生の受入 ロペス・ラリー准教授 (25. 4. 1～25. 9. 30)

###### ○インドネシア・ガジヤマダ大学

- ・大学間交流協定に基づく学生の受入 (25. 9. 1～26. 8. 31)

西澤隆教授、俵谷圭太郎教授、村山秀樹教授、程為国准教授、小山浩正教授、渡部徹准教授

- ・大学間交流協定に基づく教員の派遣

俵谷圭太郎教授 (25. 12. 1～25. 12. 8)、安藤豊教授 (25. 12. 16～25. 12. 20)

○インドネシア・パジャジャラン大学

- ・学部間交流協定に基づく教員の受入 塩野義人教授 (25. 4. 26～25. 7. 1)
- ・学部間交流協定に基づく教員の派遣 塩野義人教授 (25. 8. 31～25. 9. 10)

○バングラデシュ・シエレ・バングラ農業大学

- ・学部間交流協定に基づく教員の受入  
西澤隆教授 (25. 5. 19～25. 6. 17, 26. 3. 10～26. 3. 30)
- ・学部間交流協定に基づく教員の派遣  
西澤隆教授 (25. 8. 11～25. 8. 16, 12. 30～1. 6)

○ベトナム・ハノイ農業大学

- ・大学間交流協定に基づく教員の派遣  
安藤豊教授 (25. 5. 27～25. 5. 29)、程為国准教授 (25. 9. 18～25. 9. 22)、  
佐藤智准教授 (25. 9. 17～25. 9. 23)

○韓国・忠北大学校

- ・サマースクールの実施 (25. 8. 25～25. 8. 31)  
夏賀元康教授、片平光彦准教授、佐々木由佳助教、柏倉弘喜財務会計担当係長

○モンゴル・モンゴル国立農業大学

- ・サマースクールの実施  
ロペス・ラリー准教授、小助川梓一般職員 (25. 9. 11～25. 9. 17)
- ・学部間交流協定に基づく教員の派遣 ロペス・ラリー准教授 (26. 2. 23～26. 2. 27)

○タイ・チェンマイ大学

- ・大学間交流協定に基づく教職員の派遣  
渡辺昌規准教授、大谷和彦事務長 (25. 8. 22～25. 8. 26)、  
渡辺昌規准教授 (26. 2. 4～26. 2. 9)
- ・大学間交流協定に基づく教員の受入 渡辺昌規准教授 (25. 11. 25～25. 11. 27)
- ・日・タイ食文化セミナーの実施 (25. 11. 26)

○中国・浙江省農業科学院

- ・学部間交流協定に基づく教員の派遣  
安藤豊教授 (25. 8. 27～25. 8. 30, 25. 11. 16～25. 11. 21, 26. 3. 25～26. 3. 28)

○インドネシア・林業省森林研究開発庁森林自然保護研究開発センター

- ・学部間交流協定に基づく教員の派遣

俵谷圭太郎教授 (25. 10. 19～25. 10. 27, 26. 3. 2～26. 3. 9)

○中国・東北林業大学

・学部間交流協定に基づく教員の派遣 ロペス・ラリー准教授 (25. 10. 13～25. 10. 20)

○韓国・慶南科学技術大学

・大学間交流協定に基づく教員の派遣 ロペス・ラリー准教授 (26. 3. 6～26. 3. 13)

② 研修の受け入れ

独立行政法人国際協力機構(JICA)の地域別研修「アフリカ地域(英語圏)稲作収穫後処理」コースから、8月19日から9月26日にわたり、アフリカ地域10カ国から14名の研修生を受入

## 4. 社会活動・地域貢献

### (1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧

番号	類別	件名	研究者
1	調査	もみがらの再利用について	吉田 宣夫
2	調査	土壌の比較実験について	安藤 豊
3	調査	土壌改良剤の試験運用について	藤井 弘志
4	相談	大豆のタンパク質の利用について	藤井 弘志
5	相談	牛の飼料に関すること	堀口 健一
6	相談	きのこに関すること	貫名 学
7	相談	ニホンザルに関することについて	江成 広斗
8	相談	在来作物に関する出版物および在来作物研究会について	江頭 宏昌
9	相談	ヤスデの発生および駆除について	小林 隆 佐藤 智
10	相談	冬瓜(とうがん)のトゲに関すること	西澤 隆
11	相談	クマの生態について	江成 広斗
12	相談	湯殿山神社の即身仏について	岩鼻 通明
13	相談	水稻の生育に関すること	安藤 豊
14	相談	マツクイムシの駆除について	林田 光祐
15	相談	刈谷ナシに関すること	平 智
16	相談	なめこの転作に関すること	貫名 学
17	相談	ベニバナに関すること	笹沼 恒男
18	相談	かしろ菊に関すること	小笠原 宣好
19	相談	冷蔵庫の保管および保存方法について	渡部 徹
20	講演	山形県高等学校サイエンスジャンボリー施設見学および講演会	加来 伸夫 堀口 健一 小山 浩正
21	講演	商工支援団体ブロック内連携事業「植物工場、セミナー」	西澤 隆
22	講演	新庄中学校総合学習講演会	野堀 嘉裕
23	講演	酒田市立飛鳥中学校第一学年 総合学習「農業から学ぶ」	江頭 宏昌
24	講演	朝陽第三小学校3学年 総合学習「庄内柿について」	平 智

番号	類別	件名	研究者
25	委員委嘱	平成25年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会における講評者の委嘱について	西澤 隆
26	委員委嘱	東北地区SSH指定校発表会への評価者及びサイエンスカフェでの講師に	西澤 隆 村山 秀樹 加来 伸夫
27	その他	黄金地区食生活改善推進員会施設見学	企画広報室
28	その他	鶴岡北高等学校 研究室訪問	豊増 知伸
29	その他	エビチョコの取材について(依頼)	永井 毅
30	その他	寒河江高校・谷地高校 研究室訪問および模擬講義	佐藤 英世 長谷 修 森 茂太 村山 秀樹
31	その他	県立農業大学校 研究室訪問	西澤 隆 長谷 修 江頭 宏昌
32	その他	朝暘第三小学校3年4組 総合学習「世界を知ろう ぼくにもできる 国際協力！」	俵谷 圭太郎 留学生

(2) 平成25年度 社会・地域等の要請により派遣した職員一覧

氏名	職名	依頼元
西澤 隆	平成25年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会における講評者	独立行政法人科学技術振興機構理数学習支援センター
	山形県立鶴岡南高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	山形県教育庁高校教育課
	鶴岡市総合計画審議会委員	鶴岡市
	鶴岡市農業発展奨励賞表彰委員会委員	鶴岡市
	庄内水田農業推進機構会長	鶴岡市
	鶴岡工業高等専門学校 運営協議会委員	鶴岡工業高等専門学校
	学校評議員及び学校関係者評価委員	山形県立鶴岡南高等学校
	山形県立鶴岡南高等学校学校評議員及び学校関係者評価委員	山形県立鶴岡南高等学校
	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究活動)」での講師	山形県立鶴岡南高等学校
	評議員 理事	財団法人山形大学産業研究所 公益財団法人マエテクノロジーリサーチファンド
	実行委員	庄内出羽地域文化遺産による地域活性化実行委員会
	つるおか農商工観連携総合推進協議会 会 鶴岡食文化創造都市推進協議会 会員	つるおか農商工観連携総合推進協議会 鶴岡食文化創造都市推進協議会
	鶴岡商工会議所中期行動計画策定委員	鶴岡商工会議所
藤井 弘志	平成25年度東北農業試験研究推進会議生産環境推進部会及び土壌肥料研究会における外部委員	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター
	講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
平 智	平成25年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業兼平成25年度食産業王国やまがた推進事業審査委員	山形県庄内総合支庁
	鶴岡総合研究所所長	鶴岡市
	鶴岡市総合計画審議会委員	鶴岡市
	鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員	鶴岡市
	庄内自然博物館構想推進協議会委員	鶴岡市
	庄内自然博物館構想推進協議会専門委員並びに運営委員	鶴岡市
	鶴岡食文化創造都市推進委員会委員長	鶴岡食文化創造都市推進協議会
講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム	
堀口 健一	山形県試験研究機関アドバイザー・ボードメンバー	山形県商工労働観光部
吉田 宣夫	平成25年度ハイグレード稲発酵粗飼料コーデイナー資質向上会議委員	農林水産省生産局畜産部畜産振興課
	農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業及び食産業王国やまがた推進事業に係る現場の創意工夫プロジェクト計画審査会委員	山形県最上総合支庁
	平成25年度全国優良畜産経営管理技術発表会審査委員	公益社団法人中央畜産会
	平成25年度フォーレージテスト新システム構築事業に係る推進委員	一般社団法人日本草地畜産種子協会
	全国自給飼料生産コンクール審査委員	一般社団法人日本草地畜産種子協会
	平成25年度牛由来堆肥被災地水田施用実証事業等推進委員会委員	財団法人畜産環境整備機構
	飼料増産対策強化推進事業に係る全国飼料増産優良事例選考委員	全国飼料増産協議会
	平成25年度畜産経営活性化サポート事業に係る委員	畜産経営支援協議会



小笠原 宣好	技術指導員	株式会社フラワーハート・クリタ
角田 憲一	鶴岡市有機農産物認定判定委員会委員	鶴岡市藤島庁舎産業課
片平 光彦	産学官連携共同研究検討会議研究開発推進委員	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
岩鼻 通明	山形県景観審議会委員	山形県県土整備部
小沢 互	実践キャリア・アップ戦略キャリア段位制度実施事業選定評価委員	内閣府
	国営村山北部土地改良事業(農業用排水)計画に係る専門技術者	東北農政局農村計画部
	山形県米政策推進会議委員	山形県農林水産部
	やまがた6次産業化戦略推進本部(仮称)	山形県農林水産部
	平成25年度専門家派遣事業に係る専門家	山形県農業会議
	鶴岡市総合計画審議会農林水産専門委員会委員	鶴岡市
	鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員	鶴岡市
	庄内町いきいき産業塾塾長	庄内町新産業創造協議会
	「機能性を持つ農林水産物・食品開発プロジェクト」における外部公募研究課題の外部講師	一般社団法人食品需給研究センター
	全体会議委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
角田 毅	国営事業事後評価技術検討会委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
	農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業及び食産業王国やまがた推進事業に係る現場の創意工夫プロジェクト計画審査会委員	農林水産省東北農政局農村計画部
	山形県ベストアグリ賞表彰事業審査委員	山形県最上総合支庁
	平成25年度専門家派遣事業に係る専門家	山形県農林水産部
	酒田市集落営農組織ニューリーダー育成塾座長	山形県農業会議
	講師	酒田市
	全体会議委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
藤科 智海	山形県研究評価委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
	全体会議委員	山形県商工労働観光部
	講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
渡辺 理絵	山形県環境審議会委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
	山形県総合政策審議会特別委員	山形県環境エネルギー部
	天童市都市計画マスタープラン策定有識者懇談会委員	山形県県土整備部
	松江市史専門部会専門委員	天童市建設部都市計画課
小関 卓也	庄内発酵食品技術開発研究会委員	松江市教育委員会
	平成25年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト計画審査会委員	山形県庄内総合支庁
	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究活動)」での講師	山形県村山総合支庁
	山形セレクション加工食品分野(日本酒)専門委員会委員	山形県立鶴岡南高等学校
	山形県代表参与	山形県酒造組合
佐藤 英世	代議員	公益社団法人日本農芸化学会東北支部
	理事	公益社団法人日本生物工学会北日本支部
	平成25年度博士学位論文外部審査委員	公益社団法人日本応用糖質科学会東北支部
永井 毅	第36回全国豊かな海づくり大会準備委員会企画専門委員会委員	信州大学
	庄内発酵食品技術開発研究会委員	山形県農林水産部
木村 直子	講師	山形県庄内総合支庁
	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究活動)」での講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
加来 伸夫	平成25年度農業大学校地域連携会議委員	山形県立鶴岡南高等学校
	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究活動)」での講師	山形県立農業大学校
		山形県立鶴岡南高等学校

渡辺 昌規	英文誌編集委員会委員 講師	公益社団法人日本生物工学会 やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
貫名 学	専門調査員	文部科学省科学技術政策研究所科学技術 動向研究センター
	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究 活動)」での講師	山形県立鶴岡南高等学校
俵谷 圭太郎	鶴岡市環境審議会委員	鶴岡市
村山 秀樹	山形県「ラ・フランス」検討委員会委員	山形県農林水産部
	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究 活動)」での講師	山形県立鶴岡南高等学校
	平成25年度学校評議員兼学校関係者評価 委員	山形県立鶴岡北高等学校
	講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
江頭 宏昌	山形在来作物研究会会計幹事	山形在来作物研究会
	やまがた伝統野菜推進委員会委員	山形県農林水産部
	焼畑温海かぶブランド力向上対策協議会オ ブザーバー	鶴岡市温海庁舎産業課
	京都産業大学新学部(学際領域)構想に係 る実務委員会委員	京都産業大学
	現地学習会講師	鶴岡食文化創造都市推進協議会
	鶴岡市食育・地産地消推進協議会 委員	鶴岡市食育・地産地消推進協議会
	山形おきたま伝統野菜振興協議会アドバイ ザー	山形おきたま伝統野菜振興協議会
笹沼 恒男	ミラノ万博日本館サポーター	2015年ミラノ国際博覧会日本館
及川 彰	遺伝子組換え実験安全委員会委員	山形県農業総合研究センター園芸試験場
	専門調査員	文部科学省科学技術政策研究所科学技術 動向研究センター
菊間 満	客員研究員	独立行政法人理化学研究所
	理事	一般社団法人共同総合研究所
野堀 嘉裕	さかた木づかい夢ネット顧問	さかた木づかい夢ネット
	森林計画の策定等に係る検討会委員	東北森林管理局
	山形県CO2森林吸収量等評価委員会委員	山形県農林水産部
	山形県森林審議会委員	山形県農林水産部
	総合評価落札方式による入札を行う場合に 意見を聴取する学識経験者	山形県農林水産部
	山形県環境審議会委員	山形県環境エネルギー部
	山形県水資源保全総合計画検討委員会委 員	山形県環境エネルギー部
	鶴岡公園環境整備懇談会委員	鶴岡市建設部都市計画課
文化財保護審議会委員	鶴岡市教育委員会	
森 茂太	「つるおか住宅」モデル住宅事業審査委員	つるおか住宅活性化ネットワーク
林田 光祐	国有林野管理審議会委員	東北森林管理局
	山形市森林整備推進協議会委員	山形市農林部
	飯豊山周辺森林生態系保護地域の保全管 理に関する連絡調整会議委員	東北森林管理局置賜森林管理署
	山形県環境審議会委員	山形県環境エネルギー部
	庄内自然博物館構想推進協議会委員	鶴岡市企画部
庄内自然博物館構想推進協議会専門委員 並びに運営委員	鶴岡市企画部	
「山地保全調査(海岸防災林現況調査)」に 関する検討委員会委員	国土防災技術株式会社	
小山 浩正	東北森林管理局技術開発委員会委員	東北森林管理局
	保護林モニタリング調査検討委員会委員	東北森林管理局
	鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊(土湯の森)	東北森林管理局
	自然再生実施協議会委員	
	やまがた緑県民会議委員	山形県環境エネルギー部
	河川・海岸環境機能等検討委員会委員	公益財団法人リバーフロント研究所
運営協議会委員	公益財団法人山形県みどり推進機構	

柳原 敦	最上小国川流域環境保全協議会委員	山形県最上総合支庁
	平成25年度第54期生協役員(副理事長)	山形大学生協同組合
菊池 俊一	朝日山地森林生態系保護地域管理委員会委員	東北森林管理局
	ナラ枯れ被害拡大防止検討委員	山形県農林水産部
	山形県土砂災害警戒避難基準雨量検討会委員	山形県県土整備部
	環境つるおか推進協議会監事	環境つるおか推進協議会
小川 三四郎	豊かな森と海づくりinあつみ実行委員	温海町森林組合
早尻 正宏	鶴岡市総合計画審議会 市民生活専門委員会委員	鶴岡市企画部企画調整課
	「平成25年度『緑の雇用』現場技能者育成 対策事業に係る調査事業」検討委員会委員	財団法人林業経済研究所
	「21世紀の森プロジェクト委員会」委員	ふくしま中央森林組合
江成 広斗	山形県特定鳥獣保護管理検討委員会委員	山形県環境エネルギー部
	有害鳥獣対策アドバイザー	米沢市産業部農林課
	特定鳥獣に係る保護管理政策推進のための 対応等調査・検討業務に関する検討委員	一般財団法人自然環境研究センター
大久保 博	総合評価落札方式による入札を行う場合に 意見を聴取する学識経験者	山形県農林水産部
	ゆとりとうるおい空間設備推進委員会委員	山形県農林水産部
	一般社団法人地域環境資源センター技術 検討委員会委員	一般社団法人地域環境資源センター
奥山 武彦	非常勤研究員	農林水産省農村振興局農村政策部
	非常勤研究員	独立行政法人農業・食品産業技術総合 研究機構
	客員研究員	一般財団法人日本水土総合研究所
安中 武幸	非常勤研究員	一般財団法人日本水土総合研究所
	非常勤研究員	公益社団法人農業農村工学会
	非常勤研究員	一般財団法人日本水土総合研究所
渡邊 一哉	非常勤研究員	国土交通省東北地方整備局山形河川国道 事務所
	非常勤研究員	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所
渡部 徹	非常勤研究員	山形県立鶴岡南高等学校
	非常勤研究員	公益社団法人土木学会調査研究部門環境 工学委員会
	非常勤研究員	一般財団法人建設工学研究振興会

※氏名非公開，学会，営利企業は除く

(3) 平成25年度 他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧

氏名	職名	依頼元
岩鼻 通明	非常勤講師	秋田大学教育文化学部
	非常勤講師	山形県立米沢女子短期大学
角田 毅	非常勤講師	東北公益文科大学
貫名 学	非常勤講師	鶴岡工業高等専門学校
俵谷 圭太郎	非常勤講師	東北公益文科大学
村山 秀樹	非常勤講師	東北公益文科大学
笹沼 恒男	非常勤講師	帯広畜産大学
	非常勤講師	鶴岡工業高等専門学校

(4) 外部資金等の受け入れ状況

平成25年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	氏名	直接経費	間接経費	合計額	課題名
基盤研究 (B) 海外	渡部 徹	3,900,000	1,170,000	5,070,000	東南アジアの水環境における薬剤耐性菌の発生源と耐性獲得経路の推定
基盤研究 (B) 海外	安田 弘法	3,600,000	1,080,000	4,680,000	東アジアにおける無農薬・無化学肥料・無除草剤による低投入環境保全型水稲栽培の確立
基盤研究 (B) 一般	我妻 忠雄	4,100,000	1,230,000	5,330,000	膜脂質層の分子的改変による酸性土壌複合ストレスへのマルチ耐性植物の創生
基盤研究 (B) 一般	森 茂太	2,600,000	780,000	3,380,000	樹木個体吸収スケーリングから見た個体群構造とCO2収支の時間推移
基盤研究 (C)	安田 弘法	500,000	150,000	650,000	温暖化がもたらす時間的隠れ家の増大によるカイガラムシのエスケープの検証
基盤研究 (C)	森 静香	1,000,000	300,000	1,300,000	メタボローム解析による水稲の潮風害発生機構および抵抗性発現機構の解明
基盤研究 (C)	長谷 修	800,000	240,000	1,040,000	生物防除微生物による単子葉作物の病害抵抗性誘導機構
基盤研究 (C)	俵谷 圭太郎	1,200,000	360,000	1,560,000	酸性ホスファターゼ分泌能が高いアーバスキュラー菌根菌の探索とその利用
基盤研究 (C)	程 為国	1,000,000	300,000	1,300,000	水田土壌炭素の変動を予測するためのイネの根から分泌される有機炭炭素量の測定
基盤研究 (C)	三橋 涉	1,200,000	360,000	1,560,000	高等植物における細胞周期停止因子の新規機能の探索
基盤研究 (C)	奥山 武彦	700,000	210,000	910,000	多雪地域における再活動地すべりの誘因と対策
基盤研究 (C)	高橋 敏能	500,000	150,000	650,000	家畜飼料からの強抗酸化物質“エルゴチオネイン”の探索と赤肉内抗酸化能の検証
基盤研究 (C)	岩鼻 通明	600,000	180,000	780,000	映画を通じた地域活性化の日韓比較研究
基盤研究 (C)	塩野 義人	1,100,000	330,000	1,430,000	ナラ類集団枯損の防除物質の探索とその利用可能性について
基盤研究 (C)	豊増 知伸	1,400,000	420,000	1,820,000	イネのジペルペン環化酵素遺伝子群の進化・分化に関する研究
基盤研究 (C)	小山 浩正	800,000	240,000	1,040,000	ブナ林における個体ごとの繁殖と防御のトレード・オフ関係の検証
基盤研究 (C)	花山 奨	700,000	210,000	910,000	水田からのり回収に関する基礎的研究
基盤研究 (C)	木村 直子	900,000	270,000	1,170,000	抗酸化機能欠損マウス卵を用いた染色体異数性発症機構の解明による新規IVM法の開発
基盤研究 (C)	渡邊 一哉	2,200,000	660,000	2,860,000	沿岸生態資源と人間の相互依存の動態解明
基盤研究 (C)	林田 光祐	1,700,000	510,000	2,210,000	震災後に造成される海岸林の生物多様性を考慮した保育技術の開発
基盤研究 (C)	加来 伸夫	1,500,000	450,000	1,950,000	水田微生物燃料電池の土壌生態系への影響解析と電極からの新規有用微生物の分離・利用
挑戦萌芽研究	村山 秀樹	500,000	150,000	650,000	銀ナノ微粒子を利用した切り花・花木の新たなポストハーベスト技術の確立
挑戦萌芽研究	梶原 晶彦	500,000	150,000	650,000	渡り鳥の飛来する湖沼底泥の農業用肥料としての利用可能性に関する研究
挑戦萌芽研究	永井 毅	1,800,000	540,000	2,340,000	高品質な米粉パン製造に最適な高ストレス耐性野生酵母の獲得と製パン技術開発
若手研究 (B)	恩田 弥生	300,000	90,000	390,000	植物の蛋白質ジスルフィド結合形成ネットワークの解明
若手研究 (B)	江成 広斗	800,000	240,000	1,040,000	ニホンザルの分布回復が冷温帯林における生物間相互作用に与える影響

若手研究（B）	池田 和生	1,700,000	510,000	2,210,000	セイヨウナシ枝変わりの赤着色変異機構の解明と育種の利用
若手研究（B）	松本 大生	2,400,000	720,000	3,120,000	バラ科サクラ属における自家不和合性ジェネラルインヒビター候補の機能解析
研究活動スタート支援	伊藤 紘晃	1,100,000	330,000	1,430,000	有機鉄錯体の光化学的反応メカニズムの解明
研究活動スタート支援	星野 友紀	1,100,000	330,000	1,430,000	DNA修復機構突然変異体を利用したイネ次世代リソース開発基盤の構築
奨励研究	佐久間 拓也	400,000		400,000	中耕除草におけるイネに対する物理刺激の種類及び強度が生育・収量に及ぼす影響
合計		42,600,000	12,660,000	55,260,000	

分担金一覧(平成25年度分)

研究種目	氏名	分担金の配分額	直接経費	間接経費	研究課題名
新学術領域研究	及川 彰	1,300,000	1,000,000	300,000	植物個体発生を支える代謝ネットワークの解明
基盤研究(A)	渡部 徹	520,000	400,000	120,000	水環境におけるヒトノロウイルス未知動態の解明
基盤研究(A)	笹沼 恒男	195,000	150,000	45,000	東アジアに渡来・起源した作物資源の遺伝的評価と開発的研究
基盤研究(B)	安藤 豊	1,040,000	800,000	240,000	熱帯泥炭湿地における環境農業－サゴヤシ栽培の炭素シンク機能と生産技術の改善
基盤研究(B)	村山 秀樹	650,000	500,000	150,000	大規模ゲノム情報と自殖F2集団を利用したナシ育種の効率化と新規優良品種の育成
基盤研究(B)	池田 和生	390,000	300,000	90,000	ゲノミクス・トランスクリプトミクスのアプローチによる異形花型不和合性の機構解明
基盤研究(B)	渡辺 昌規	429,000	330,000	99,000	光駆動性の生物学的レアメタル濃縮系の開発とメタロミクスによる金属動態の理解
基盤研究(B)	角田 毅	130,000	100,000	30,000	後継者がいない農業経営者の資産計画と生活設計に関する研究
基盤研究(B)	渡部 徹	650,000	500,000	150,000	フィリピンにおける Dengue 熱媒介蚊の集団遺伝学的研究: 飛翔パターンと感染経路
基盤研究(B)	村山 秀樹	1,300,000	1,000,000	300,000	ナシ属植物の伝播にともなう果実形質および病原菌の共進化過程の解析
基盤研究(B)	及川 彰	650,000	500,000	150,000	ナシ属植物の伝播にともなう果実形質および病原菌の共進化過程の解析
基盤研究(C)	及川 彰	325,000	250,000	75,000	アブラムシによる寄主植物の栄養条件改善機構の解明: アミノ酸の選択的蓄積
基盤研究(C)	家串 哲生	65,000	50,000	15,000	青果物輸送における環境対応型包装資材に関する研究
基盤研究(C)	角田 毅	130,000	100,000	30,000	東北水田地帯における田畑輪換作の現局面と農法変革に向けた条件に関する研究
基盤研究(C)	我妻 忠雄	195,000	150,000	45,000	中国東北部のソーダ質土壌の性質と植物の耐性
基盤研究(C)	野堀 嘉裕	312,000	240,000	72,000	気候温暖化が積雪減少を介してブナとミズナラの成長に及ぼす影響の解明
基盤研究(C)	小林 隆	260,000	200,000	60,000	気象データを用いた葉面湿潤状態の推定手法の高度化と検証
挑戦的萌芽研究	及川 彰	260,000	200,000	60,000	ナシにおけるメタキセニア現象の分子機構解明と栽培技術への応用
合計		8,801,000	6,770,000	2,031,000	

## H25年度 奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況

	件 数	金 額
奨学寄附金	21件	9,536,400円
受託研究	29件	96,984,889円
共同研究	17件	8,730,000円

(5) 公開講座等大学開放実施状況

1 在来作物実践講座「おしゃべりな畑」

8月27日（火）～2月7日（金） 19回開講

会場：山形大学農学部

2 公開講座

「里山再生の科学－いま起きていること、これからやるべきことを考える－」

第1回目

7月6日（土） 会場：山形大学農学部

里山で何が起きているのか？

- 「いま里山で何が起きているのか」
- 「里山の動物達とどうつきあうか？」
- 「里山の豊かさを取り戻すには？」

第2回目

7月13日（土） 会場：山形大学農学部

里山で何をやるか？演習林と農場の挑戦

- 「里山のナラ枯れ跡をどうするか？子供たちとの挑戦」
- 「食べて保全！里山の低木をウシは食べてくれるのか？」
- 「食べて保全！里山の低木をヤギも食べてくれるのか？」

第3回目

7月20日（土） 会場：山形大学農学部

里山で見つける・学んで、遊ぶ

- 「スギ林やナラ枯れ跡で見つけた有用物質」
- 「里山のキノコから有用物質を見つける」
- 「鶴岡市とコラボ！サイエンス・ツーリズムの実践」

第4回目

7月27日（土） 会場：山形大学農学部

サイエンス・ツーリズム！里山を歩こう

- 「山大演習林見学・紹介」

3 農学紹介講座「農学の夕べ」

第1回目

10月3日（木） 会場：山形大学農学部

- 「食品・化粧品素材としてのポリフェノールと私たちの暮らし」

第2回目

10月17日（木） 会場：山形大学農学部

- 「消費者の目、生産者の目－農産物に対する両者の感じ方－」

第3回目



- 10月31日（木） 会場：山形大学農学部  
 ○「ウシ学ーウシをモウッと知ろう！ー」
- 第4回目  
 11月7日（木） 会場：山形大学農学部  
 ○「樹木はなぜ巨大化するか？」
- 第5回目  
 11月14日（木） 会場：山形大学農学部  
 ○「コムギとベニバナの進化と多様性」
- 第6回目  
 11月28日（木） 会場：山形大学農学部  
 ○「キラリ！と光る水産加工品開発」
- 第7回目  
 12月12日（木） 会場：山形大学農学部  
 ○「Yell-Stream サクラマスの故郷を創ろう」
- 第8回目  
 1月9日（木） 会場：山形大学農学部  
 ○「少ない水で水稻を育てる」

#### 4 高校生対象の夏期セミナー

- 8月1日（木） 会場：山形大学農学部
- 食料系コース  
 「おコメの食味を評価してみよう！」  
 「日本農業の将来をちょっと考えてみよう！」
- 生命系コース  
 「大腸菌にオワンクラゲ由来の遺伝子を組み込む」  
 「植物に含まれる物質を見てみよう！」
- 環境系コース  
 「森のCO2バランスを見よう！」  
 「カエルはどこにカエル？ー水田のエコデザインー」

#### 5 鶴岡市との共催事業 農業体験「わんぱく農業クラブ」の実施

5月18日（土）～11月16日（土）

#### 6 附属やまがたフィールド科学センター実施

(1) 収穫体験「大学農場に行こう」

9月13日（木）～10月31日（木）

(2) 「森の学校」

7月20日（土）※悪天候により中止、10月19日（土）、2月1日（土）

- 7 第3回 自然共生型水稲栽培国際ワークショップ  
9月19日(木) 会場: ベトナム ハノイ農業大学
- 8 ひらめき☆ときめきサイエンス  
「生物の多様性を考える—土壤微生物・植物・昆虫間の相互作用—」  
9月28日(土) 会場: 山形大学農学部  
○生物の多様性を考える—土壤微生物・植物・昆虫間の相互作用—(講義)  
○土壤微生物を観察する—菌根菌の役割(実験)  
○植物を分析する—ポリフェノールの役割(実験)  
○昆虫を観察する—植食者と捕食者との関係(実験)  
○なんでも質問コーナー
- 9 山形大学農場フェスティバル  
9月28日(土) 会場: 山形大学農学部附属高坂農場
- 10 平成25年度山形大学農学部研究シーズ説明会  
10月4日(木) 会場: 山形大学農学部
- 11 山形大学農学部地域産学官連携プロジェクトシンポジウム  
庄内発の食ドラマ10年のあゆみ  
「在来作物をどう獲り、どう受け継ぎ、どう活用するのか」  
11月2日(土) 会場: いろり火の里文化館「なの花ホール」
- 12 農学部・農業大学校・農業高校連携シンポジウム  
第4回「農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム～私たちの挑戦～」  
11月12日(火) 会場: 山形県立村山農業高等学校
- 13 日本酒シンポジウム Oh!酒落に日本酒de Night!  
11月22日(金) 会場: 山形大学農学部
- 14 知の拠点庄内第3回シンポジウム～世界における庄内～  
12月8日(日) 会場: 鶴岡メタボロームキャンパスレクチャーホール  
○「紅花と健康について」  
○「"QMONOS"実用化への挑戦」  
○「鶴岡高専から世界に向けて知能制御システム技術を発信—知能ロボットの研究開発から実用化に向けた動向まで」  
○「アジア・アフリカの稲作、庄内の稲作」
- 15 第3回山形大学農学部ビジネスマッチ

1月29日（水）会場：山形大学農学部

16 駐日ルワンダ共和国大使公開講演会

「1994年のジェノサイドーあれから20年経ったルワンダの現在ー」

2月10日（月）会場：山形大学農学部

17 山形大学農学部と鶴岡市との連携協定事業「庄内水田フォーラム2014」

2月20日（木）会場：グランド・エル・サン

○卒業論文修士論文発表会

○基調講演「いま、水田農業をどう拓くか」

○パネルディスカッション「庄内水田農業の新たな展開」

18 3年目のキャンドルナイト

3月11日（火）会場：鶴岡アートフォーラム

19 山形大学農学部・山形大学工学部・鶴岡高専連携による情報交換会

3月14日（金）会場：鶴岡メタボロームキャンパスレクチャーホール

○基調講演「農業の現在と未来を考える中でのICTの有効利用」

○「Googleマップによる気象予測データを用いた水稻気象被害軽減システム」

○「エダマメの品質・形状特性のセンシングと選別用機械の開発」

○「山形大学・有機ICTシステム研究会とフロンティア有機システムイノベーション拠点」

○「現代型の統計的データサイエンス～温故知新を科学する～」

○「鶴岡高専フィールドモニタリングシステムの構築と運用」

○「水田用除草・攪拌機的设计とその発展」

## 5. フィールド科学センターの概況等

### 平成25年度課題の総括

1. エコ農業部門の組織機構整備を行う。
  - ・教育研究、技術、業務の3部門体制による組織機構の整備を行うように努力した。
  - ・学生等外部委託における農場運営の整備強化を図った。
2. 生産現場における教育研究活動を強化する。
  - ・フィールドサイエンス実験実習Ⅰ、Ⅱおよび野外科学、安全農産物生産学実験を安全農産物生産学コース教員と共同で行った。
  - ・農場を利用した研究課題は31課題であり、利用教職員は延べ18名であった。
  - ・農場を利用した研究業績は、学会誌等は18編、口頭発表は16編であった。
  - ・技術検討会議、農場開放への取り組みについてはほぼ計画とおり実施した。
3. 山形在来作物系統保存センターを充実させる。
  - ・展示圃場及び展示室を充実させた。
4. 農場予算について
  - ・技術職員の研修費等について、必要な経費は支出するようにした。

法人化後の労基法に定める免許・資格及び作業従事に係る研修等が増加していることに鑑み、学部共通及び農場運営経費より支出し、技能・技術の充実を図った。また、各業務上有益と判断される研修等についても予算化し、同様の充実を図った。

他機関（大学他）に派遣し、情報や技術交換、施設・装置の共同利用による商品開発等は非常に有益であり、今後も継続して予算措置を図りたい。
5. 農場生産物販売のあり方を検討する。
  - ・各生産物の販売目標と課題については、概ね明確にして販売を行った。

配置人員や生産計画について大きな変更は不可能なため、前年の収穫量・販売額を目標値として設定していたが、前年度と比較し3.8%程の増収となった。天候不順により、エダマメの収穫が大きく落ち込んだものの、他の農産物の収穫量が全般的に増加したことが主な要因である。
  - ・6月下旬～12月上旬の毎週木曜日に「農場市」を開場し、好評を得ることができた。
  - ・地域イベントに積極的に参加し、農産物の販売及びPRを行った。
  - ・アルケッチャーノ、産直こまぎ、産直あさひ、清川屋、ゆめりあ（新庄駅）等の新しい販売ルートを開拓した。
6. 生産基盤の点検・強化
  - ・水田の基盤整備（田床改良）は、石川准教授の協力を得て、「環境保全型汎用水田」の施工を30aの水田2枚で完了し、新たな2枚で着工した。
  - ・黒毛和種の繁殖成績ならびに繁殖技術の向上を目指した。
8. その他
  - ・リフレッシュセミナー（平成25年6月30日）を行い、農場のトマト、ブルーベリーの試食、動物とのふれあいを行った。
  - ・朝陽第6小学校及び渡前小学校へヤギを貸し出し、飼育支援を行った。

- ・国際協力機構（JICA）の地域別研修の研修プログラムの一環として、8月6日（火）に研修生9名と研修管理員2名が農場見学を行った。
- ・国際協力機構（JICA）の短期研修（平成25年8月19日～9月26日）の研修プログラムの一部として研修生15名と研修監理員2名が農場見学を行った。

## I. 教育

### 1. 実習教育等

#### (1) カリキュラム

農場で担当した授業科目は、以下のとおりである。

表 1-1 農場関係授業カリキュラム

授 業 科 目		必修・選択	単位数	開講学年・学期
専門基礎科目	基礎農学セミナー	必修	2	1年・前期
	安全農産物生産学概論	必修	2	1年・後期
基盤教育科目	やまがたフィールド科学	選択	2	全学年・前期
学科共通科目	食料生命環境学実験実習	必修	2	2年・前期
	環境保全型エコ農業論	必修・選択	2	2年・後期
コース必修科目	安全農畜産物生産論	必修・選択	2	2年（3年）・前期
	畜産学	必修・選択	2	2年・前期
	野外科学	必修	2	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-A	必修	2	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-B	必修	2	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅱ	必修	2	3年・前期
	安全農産物生産学研究調査演習	必修	2	3年・前期
	安全農産物生産学研究準備演習	必修	2	3年・後期
	安全農産物生産学コース実験実習	必修	2	3年・前期
	コース選択科目	果樹園芸学	選択	2
安全農産物生産学特講Ⅰ		選択	2	3年・後期

#### (2) 基礎農学セミナー

履修者：162名

農学部1年次学生が鶴岡キャンパス、農場、演習林での体験を通して各コースの概要を理解すると共に鶴岡キャンパスでの生活をイメージできるようにすることを目的に2泊3日の日程で実施され、農場では9月10日に稲刈り体験を行った。

#### (3) 安全農産物生産学概論

履修者：167名

食料生命環境学科・専門基礎科目として、安全・安心な農畜産物の生産について総合的な視点から考えさせることを目的に学部教員10名とともにいった。

#### (4) やまがたフィールド科学

履修者：11名（農学部3名他学部8名）

全学部、全学年を対象にした基盤教育教養科目の講義として9月18日～20日までの2泊3日で実施した。山形県金峰少年自然の家に宿泊し、農場で水稻の生育過程の学習、水稻収量調査、稲刈り体験、水田昆虫の観察、庄内柿の樹上脱渋、鶏の解体を行った。

(5) 食料生命環境学実験実習

履修者: 161名

農学が対応しなければならない幅広い内容を総合的に理解する目的で、食料系・生命系・環境系に分かれて実施した。食料系は15回を教員16名で行った。農場では食料系の実習: 田植え, リンゴ管理, 牧草収穫, 植物病害調査, 鶏解体をそれぞれ2回ずつ実施した。

(6) 環境保全型エコ農業論

履修者: 52名

循環型農業の1事例として堆肥の生産・利用技術を軸にして、飼料作物の栽培と給与、園芸作物への堆肥利用法、水稻への施用技術および食品残さの飼料化等について、学部内で後期15回の講義を農場所属教員3名で行った。

(7) 安全農畜産物生産論

履修者: 58名

安全な農畜産物を生産する視点から、植物病理学、作物学、畜産学関連の知識習得を目指した安全な農畜産物を生産するのに必要な考え方と最新情報の理解を深める。学部教員2名と分担して行った。

(8) 畜産学

履修者: 73名

家畜の生産から畜産物の利用までの基礎理論を習得することを目的として、畜産学の基礎知識、家畜家禽の定義、分類、起源、家畜の育種、繁殖、飼養管理、草地、衛生、利用等を総合的に学習し、今日の畜産業が直面する飼料問題、畜産物の安全性などの課題を理解させる。学部内で前期15回の講義を農場所属教員が行った。

(9) 野外科学

履修者: 41名

安全農産物生産学コースのフィールドサイエンスⅠA, ⅠBと関連付けて、野外における調査及び農作業の基本的な知識を概説した。

(10) フィールドサイエンス実験実習ⅠA, ⅠB

履修者: 41名

各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から、安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的、多面的な考え方や技術を習得することを目的とし、安全農産物生産学コース教員全員で行った。

(11) フィールドサイエンスⅡ

履修者: 46名

各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から、安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的、多面的な考え方や技術を習得することを目的とし、安全農産物生産学コース教員全員で行った。

(12) 果樹園芸学

履修者: 24名

旧生物生産学科開講科目として、良品質果実の安定生産に必要な理論とそれを実践する技

術を理解することを目的とし、学科教員と2名で行った。

## 2. 農場教員による学生指導

- (1) 卒業論文学生3年生6名、4年生5名を農場教員が指導を行った。
- (2) 博士コース院生2名、修士コース院生1名を協力・指導を行った。

## 3. 山形在来作物系統保存センターの充実

キュウリ7系統、カボチャ1系統、マクワウリ1系統、ナス1系統、エダマメ40系統、サトイモ10系統、アズキ1系統、ベニバナ1系統を展示栽培した。  
また、農場教員が指導する学生の修士論文のテーマとしてヤマブドウ在来系統83樹を実験材料として提供した。

## 4. 農場開放

### (1) 収穫体験「大学農場に行こう」

鶴岡市およびその近郊の保育園、幼稚園を対象に春のお花見から、リンゴ、クリの収穫体験、動物見学、農場内の散策・昆虫採集などに農場施設を開放した。案内・説明等は学生アルバイトを併用して行った。

実施時期：平成25年9月13日～10月31日

参加人員：46団体 1,979名

### (2) 農業体験「わんぱく農業クラブ」

庄内農業水田推進機構の事業の一つとして、学部教員、農場教職員、鶴岡市の三者共催で平成11年度から実施してきたものである。農場の水田を利用して田植えから稲刈り、わら細工の加工まで総合的な学習を行った。

実施時期：平成25年5月18日～11月16日

参加人員：小学3～6年生親子28組

実施内容： 5月 田植え、枝豆定植  
6月 農業用水の学習、牛舎見学、ヤギの乳搾り、昆虫採集  
7月 稲・枝豆の生育調査、田んぼの生きもの探し、野菜の学習  
8月 稲の開花観察、枝豆収穫  
9月 稲刈り・杭がけ体験、バケツ稲コンクール  
10月 脱穀から精米までの過程、食育学習、果樹の学習  
11月 わら細工体験、もちつき体験、収穫感謝祭

### (3) 「山形大学農場フェスティバル」

昨年度に引き続き、農場産米のPRを目的として、新米を食しながら若手音楽グループの野外演奏や各種催しを楽しむイベントを開催した。開催にあたり庄内2市3町からも米の提供や出店があり、地域との連携も深めることができた。当日は天候にも恵まれ、予想を超える来場者数となった。

実施日：平成25年9月28日

集客人数：約1100名

### (4) 小・中学校の総合学習、高校のインターンシップ等に対応する。

産業現場等における実習

山形県立鶴岡高等養護学校

実施日時：平成25年12月24日（火）～12月26日（木）

参加者：2年生1名

概要：産業現場で実習を通して、社会人としての望ましい勤労態度を学ば

せ、職業生活への適応能力を養う。また、社会人として自立し、働くことへの心構えを養うように指導を行った。

## Ⅱ. 研究

### 1. 研究課題

農場および学部教職員の農場を利用した研究課題は、表Ⅱ－1のとおりである。

農場教職員が科学研究費等を申請した課題は、表Ⅱ－2、3のとおりである。

表Ⅱ－1. 農場および学部教職員の研究課題

No.	担当者	研究課題	利用施設等	利用期間
(水田関係)				
1	安藤 豊	水稻の三要素試験	水田 30a	25.4 ~ 25.9
2	安藤 豊	科学室素肥料の堆肥方法に関する研究	水田 30a	25.4 ~ 25.9
3	安藤 豊	植栽方法及び追肥法が水稻の生育に与える影響	水田 30a	25.4 ~ 25.9
4	安藤 豊	水稻の節水栽培に関する研究	水田 30a	25.4 ~ 25.9
5	角田 憲一	ケイ酸資材の長期運用が水稻生育に与える影響	水田 30a	25.4 ~ 25.9
6	角田 憲一	化学室素肥料の効率的利用に関する研究	水田 30a	25.4 ~ 25.9
7	佐藤 智	持続的新水田農法の開発	水田 60a	25.4 ~ 26.3
8	小林 隆	イネ紋枯病の感染時期・被害度が収量・玄米品質に及ぼす影響	水田	25.5 ~ 25.10
9	藤井 博志 森 静香	塩分付着害に関する研究、高温ストレスと亜リン酸ケイ酸資材試験、F S II 実習用	水田 30a 2枚	25.4 ~ 25.12
10	加来 伸夫	微生物燃料電池の発電特性と発電に関与する微生物に関する研究	水田 20m <sup>2</sup>	25.4 ~ 26.3
11	片平 光彦	安全農産物生産学コース学生実験	水田 30a	25.4 ~ 25.9
12	笹沼 恒男	イネ酒米形質の調査	水田 0.5a	25.4 ~ 25.10
13	星野 友紀	コシヒカリDNA修復関連遺伝子変異体の放射線感受性の解析と突然変異集団作成への利用および保存種子の増殖	水田 2a	25.5 ~ 25.10
14	吉田 宣夫	異なる降水量による稲ワラのDCA D値測定実験	ガラス室 2m <sup>2</sup>	25.7 ~ 25.8



(畜産関係)

15	夏賀 元康	近赤外分光法による山羊乳由来の乳製品の品質測定	畜舎	25.4	～	26.3
16	吉田 宣夫 堀口 健一	反芻家畜における地域未利用資源の飼料化とその利用に関する研究	畜舎 放牧場	25.4	～	26.3
17	吉田 宣夫 堀口 健一	各種飼料の第一胃内消化性の検討	畜舎 放牧場	25.4	～	26.3
18	吉田 宣夫 堀口 健一	飼料用米のヤギへの給与試験（泌乳試験と肥育試験）	畜舎 放牧場	25.4	～	26.3
19	堀口 健一	堆きゅう肥を施用した飼料作物の栽培およびサイレージ品質に関する研究	畜舎	25.4	～	25.10

(蔬菜関係)

20	佐々木由佳	だだちゃ豆生育土壌に対する有機肥料運用の効果	蔬菜畑 10a	25.5	～	25.9
21	片平 光彦	エダマメの狭畦密植栽培に関する研究	野菜ほ場	25.4	～	25.9
22	江頭 宏昌	ダダチャ豆系統の食味・抗酸化能分析と近赤外分光法による食味成分の非破壊分析法の開発	畑 5a ガラス室 1a	25.5	～	25.10
23	笹沼 恒男	ムギ類及びベニバナを中心とした植物の多様性解析及びその育種学的応用研究	畑 3a	25.4	～	26.3
24	笹沼 恒男	ダダチャマメ新品種の特性試験	畑 1a	25.5	～	25.10
25	池田 和生	ベニバナアマにおける異型花型自家不和合性に関する研究	畑 10a	25.4	～	25.10
26	池田 和生	山形在来キュウリの果実特性と加工適性に関する研究	畑 10a	25.4	～	25.10
27	星野 友紀	良食味だだちゃ豆系品種の遺伝学的解析を目指した実験系統群の作出	畑 2a	25.5	～	25.10

(果樹関係)

28	平 智	リンゴ果実の発育と品質に及ぼす大きく切除処理の影響	リンゴ樹 1～2品種	25.4	～	25.11
29	平 智	種子数ならびに種子が含まれる位置がリンゴ果実の品質に及ぼす影響	リンゴ樹 1～2品種	25.4	～	25.11
30	池田 和生	ヤマブドウ在来系統群の特性解明	果樹園 10a	25.3	～	26.3
31	池田 和生	バラ科果樹の果皮における着色遺伝子の同定とその遺伝様式	果樹園 10a	25.3	～	26.3

## 農場教職員科学研究費等申請課題

表Ⅱ－２ 科学研究費

No.	区分	担当者	研究課題
1	奨励研究	佐久間拓也	異なる除草機を用いた場合の耐倒伏性・受光体勢・収量の差異
2	奨励研究	田中 健一	ビニルハウス内におけるマメコバチの増殖とメロンの花粉交配技術の確立
3	奨励研究	森田 昌孝	肉牛生産における環境保全型畜産のための吸引通気式堆肥化システムの活用

表Ⅱ－３ その他経費

### 農林水産省委託プロジェクト研究

No.	担当者	研究課題
1	吉田 宣夫	乳牛ペレット飼料の加工調製及び給与技術の開発（3系）
2	吉田 宣夫	自給飼料多給による高付加価値豚肉生産技術の開発（4系）

### 地域産学官連携プロジェクト事業

No.	担当者	研究課題
1	有賀 和裕	雪を利用したリンゴの長期保存の検討
2	田中 健一	庄内地域に自生する薬用植物の収集と栽培法の検討

### 山形大学事務系職員の自己啓発支援プロジェクト

No.	担当者	研究課題
1	田中 健一	生薬の栽培技術と系統保存方法の習得

## 2. 研究業績（2013年4月～2014年3月）

### 学報等

1. 小笠原千晶・平 智 2013: 3品種のリンゴにおける中心花由来果実と側花由来果実の発育と品質、山形大学紀要（農学）16（4）: 207-219
2. Shah Moinur Rahman, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Ho Ando 2013: Effect of mid-drainage on root physiological activities, N uptake and yield of rice in north east Japan. 山形大学紀要（農学）16（4）, 197-206

## 学会誌

1. Shin-ichi Tagawa, Masayuki Morita, Ken-ich Horiguchi, Norio Yoshida, Toshiyoshi Takahashi (2012): The Effect of Use of Tofu Cake, Corn Distiller's Dried Grains with Solubles and Enzyme on Fermentation Quality of Fermented Total Mixed Ration with Second Cutting Reed Canarygrass (*Phalaris arundinacea* L.). Bull. Yamagata Univ., Agr. Sci., 17(1): 1-7.
2. 松田朗海・堀口健一・高橋敏能・吉田宣夫・(2013): 枝豆茎葉残渣サイレージへの廃シロップの添加が発酵品質およびヒツジにおける栄養価と第一胃液性状に及ぼす影響. 日本草地学会誌, 59(2): 114-119.
3. 田川伸一・呂仁龍・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能・市原昭一・菱沼真一(2013): ジャトロファ (*Jatropha curcus* L.) 油粕の化学組成, *in vitro* 乾物消化率, 発生ガス総量およびメタン発生量. 日本草地学会誌, 59(2): 120-123.
4. 烏友図・片平光彦・夏賀元康・吉田宣夫 2013 近赤外分光法によるヤギ生乳成分の測定 (第3報) 農業食料工学会東北支部報 60巻 pp85 - 88
5. 鈴木ミチル・片平光彦・夏賀元康 2013 近赤外分光法による生育中のエダマメの品質測定 農業食料工学会東北支部報 60巻 pp89 - 92
6. Tonny KINSAMBWE・Mitsuhiko KATAHIRA・Motoyasu NATSUGA 2013 Effect of the Narrow Ridge - Direct Sowing Technique of Saving Labor in Green Soybean (Edamame) Production Tohoku branch report of the Japanese society of agricultural machinery, 59, 27-30.
7. Shuhei Makabe-Sasaki, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Ho Ando 2013: Effect of slag silicate fertilizer on dissolved silicon in soil solution based on the chemical properties of Gleysols. Soil Science and Plant Nutrition 59, 271-277
8. Shah Moinur Rahman, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Shuhei Makabe-Sasaki, Ho Ando 2013: Early growth stage water management effects on the fate of inorganic N, growth and yield in rice. Soil Science and Plant Nutrition 59, 921-932

## 口頭発表

1. 鈴木ミチル, 片平光彦, 夏賀元康 2013 近赤外分光法による立毛中のエダマメの品質測定 第28回近赤外分光法 沖縄県那覇市 ポスター (一般)
2. 烏友図, 片平光彦, 夏賀元康, 吉田宣夫 2013 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定 第28回近赤外分光法 沖縄県那覇市 ポスター (一般)
3. Youtu Wu, Motoyasu Natsuga, Mitsuhiko Katahira and Norio Yoshida 2013 Constituent Content Determination of Goat Raw Milk using Near-Infrared Spectroscopy 第16回国際近赤外会議 (NIR2013) Montpellier, France ポスター (一般)
4. Michiru Suzuki, Mitsuhiko Katahira and Motoyasu Natsuga 2013 In Situ Estimation of the Constituents of Green Soybean (Edamame) Pod using Near-Infrared Transmission Spectroscopy 第16回国際近赤外会議 (NIR2013) Montpellier, France ポスター (一般)
5. 鈴木ミチル, 片平光彦, 夏賀元康 2013 近赤外分光法による生育中のエダマメの品質測定 農業機械学会東北支部 2013年度大会 郡山市 口頭 (一般)
6. 烏友図, 片平光彦, 夏賀元康, 吉田宣夫 2013 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定 - 第3報 測定精度改良 - 農業機械学会東北支部 2013年度大会 郡山市 口頭 (一般)
7. 烏友図, 片平光彦, 夏賀元康, 吉田宣夫 2013 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定 - 第3報 測定精度の改良 - 農業食料工学会第72回年次大会 帯広 口頭 (一般)
8. Shah Moinur Rahman, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Shuhei Makabe, Ho Ando 2013: Water saving irrigation management of rice. 日本土壤肥料学会講演要旨集 59, 103
9. 佐々木由佳・鈴木真衣子・角田憲一・真壁周平・安藤豊 2013: 水稻茎数に対する活着肥の施用効果 - 慣行基肥量に上乗せ施用した場合 -. 日本土壤肥料学会講演要旨集 59, 103
10. Shah Moinur Rahman, Ken-Ichi Kakuda, Yuka Sasaki, and Ho Ando 2013: Effect of water management during early growth stage on nitrogen dynamics of paddy field. Proceedings

#### ポスター発表

1. Y. Cao, Y. Q. Zaug, H. M. Yang, N. Yoshida, Y. M. Cai (2013): Effect of liquid ammonium sulfate fertilizer and lactic acid bacteria inoculant on chemical composition, fermentation characteristics and in vitro ruminal digestion of rice straw silage. Proceedings of The 11th WCAP World Conference on Animal Production. 198.
2. Xijiu Jin, Norio Yoshida, Ken-ichi Horiguchi, Toshiyoshi Takahashi, Masahiro Amari (2013): Effects of fertilization and preparation after harvesting rice on dietary cation anion differences and feed composition of rice straw. Proceedings of The 11th WCAP World Conference on Animal Production. 240.
3. 2013年3月28日 日本育種学会第123回講演会（東京農業大学）  
笹沼恒男、柿崎彩佳、阿部利徳、河原太八、Smekalova Tamara N.、佐藤和広「北コーカサスで採集されたタルホコムギのジェノタイプング」
4. 2013年3月28日 日本育種学会第123回講演会（東京農業大学）  
工藤瑛司、大谷修平、阿部利徳、笹沼恒男「分子マーカーに基づくチモフェービ系コムギで見られる遺伝的に分化した3グループ間の系統関係」
5. 2013年3月28日 日本育種学会第123回講演会（東京農業大学）  
稲葉有紀、相澤由佳里、赤池隆亮、阿部利徳、笹沼恒男「トウガラシ *chinense* 種における果実色と *Psy* 遺伝子の関係について」
6. 2013年9月9日 The 12th International Wheat Genetics Symposium（パシフィコ横浜）  
Eiji Kudo, Shuhei Otani, Toshinori Abe, Tsuneo Sasanuma “Reproductive diversification of Timopheevi wheat and reconsideration of its domestication”
7. 2013年9月9日 The 12th International Wheat Genetics Symposium（パシフィコ横浜）  
Tsuneo Sasanuma, Ayaka Kakizaki, Toshinori Abe, Taihachi Kawahara, Tamara N. Smekalova, Kazuhiro Sato “Profiling of *Aegilops tauschii* collected in the North Caucasia”
8. 2013年10月13日 日本育種学会第124回講演会（鹿児島大学）
9. 角田憲一・菊地遼・佐々木由佳・安藤豊 2013：混植条件下のイネ・コナギの窒素吸収競合。日本土壌肥料学会講演要旨集 59, 106

### Ⅲ. 地域連携

#### 1. 地域および他大学との連携

##### (1) 施設見学の受入

##### 1) 鶴岡市黄金地区食改善推進員の受入

黄金地区食生活改善推進委員会長からの依頼のより、平成25年9月5日（木）に、黄金地区食生活改善推進委員13名を受け入れ、高坂農場の施設を案内した。

# 流域保全部門（上名川演習林）

流域保全部門は、「森林計画」を基本に、教育研究、社会連携、森林管理等を実施している。

平成25年度の報告は、第7次森林計画（平成16年～25年）に基づき立案された「平成25年度森林計画」の実行に関する概況である。

## I. 教育・研究林としての利活用

### 1. 教育

演習林に関連する授業科目を表-1に示す。

表-1 演習林に関連する授業科目

科目名	対象学科等	学年	開講期	単位数	実施方法
<b>学士課程</b>					
フィールド科学のテクニック	全学部	全学年	前期	1	夏期集中
やまがたフィールド科学Ⅱ	全学部	全学年	後期	2	冬期集中
1年生夏期セミナー	生物環境学科	1	前期	1	夏期集中
生物環境学へのアプローチ	生物環境学科	1	後期	2	週1回
流域保全論	全学科	2	前期	1	週1回
生物環境学実験実習	生物環境学科	2	前期	1	週1回
フィールドサイエンス実習Ⅲ	生物資源学科	2	前期	1	夏期集中
流域保全実習	生物環境学科	2	前期	1	夏期集中
雪山実習	全学科	2	後期	1	春期集中
森林雪氷学	生物環境学科	3	前期	2	週1回
森林生態学実験実習Ⅰ	生物環境学科	3	前期	1	前期集中
自然環境調査実験実習	生物環境学科	3	前期	1	夏期集中
森林測量学実習	生物環境学科	3	前期	1	夏期集中
河川環境調査実験実習	生物環境学科	3	前期	1	夏期集中
森林資源利用学実験実習	生物環境学科	3	後期	1	後期集中
森林生態学実験実習Ⅱ	生物環境学科	3	後期	1	後期集中
卒業論文（研究指導）	生物環境学科	3・4	前後	10	
<b>大学院修士課程</b>					
森林雪氷学特論	生物環境科学専攻	1	後期	2	集中
森林雪氷学特別演習	生物環境科学専攻	2	前後	4	集中
生物環境学特別研究	生物環境科学専攻	1・2	前後	8	集中

このうち、流域保全部門が主体となって実施した学部科目の授業概要を以下に記す。

#### (1) やまがたフィールド科学Ⅱ（雪との共生－雪国の自然と生活－）

一般教育科目「生命・環境」領域の教養セミナーとして全学部の学生を対象に平成13年度より開講しており、演習林における教科の全学開放の一つとしても位置づけられている科目である。今年度は、平成25年1月6日～9日の冬季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、TAの協力を得ながら集中合宿・自炊方式で実施した。

(2) 流域保全論

学部共通2年次前期の選択科目として平成11年度より開講している。授業のねらいは、私たちの暮らしを守り、快適に、豊かにしてくれる森林について広い視点からとらえ、森林の恵みを将来にわたって上手に利用していくためには何が必要かを論議し、森林とのつきあい方のあるべき姿について学ぶことである。授業は講義と上名川演習林におけるエクスカージョンとにより、グローバルな環境問題と深い関わりをもっている森林資源の実状について、わが国内外の様子を紹介したあと、森林の環境形成作用、森林と環境との相互作用、森林の有する多岐にわたる公益的機能のしくみ等について明らかにし、環境保全的な森林の取り扱い方に関する理論と実践について学習した。

(3) 流域保全実習

食料生命環境学科の2年次前期の選択科目として平成14年度より開講している。今年度は9月25日～27日の夏季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、集中合宿・自炊方式で実施した。授業のねらいは、グローバルな環境問題と深い関わりを持っている森林の多面的な働きについて、森林体験を通じて理解を深め、森林を健全な状態で持続的に維持していくための具体的な方法を修得することである。

(4) 雪山実習

2年前期の「森林雪氷学」に対応する実習として位置づけており、学部共通2年次後期の選択科目として平成11年度より開講している。授業のねらいは、雪国の森林や人々の生活に多大な影響を与える積雪環境について理解を深め、克雪から利雪、親雪へ向けての展望に関心を持ってもらうことである。

2. 卒業論文・修士論文・博士論文の指導

流域保全部門の研究室に学部学生（4年生2名）、修士課程（1年生1名）の学生を受け入れ、エコ農業部門および学部の教職員と共同で論文指導を行った。

3. 研究

上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマを表-2に示す。

表-2 上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマ

研究代表者	共同研究者	研究テーマ	場所
大久保 博	渡邊 一哉, 菊池 俊一, 桂 和彦, 河内 正行	河川整備事業後のマイクロハビタット創出を目指したストリームセラピー技術の開発	早田川
安喰 行舟	大久保 博	スリットダム上流部の河道における流木の滞留メカニズムー流木の安定状態についてー	早田川
齋藤 彩	大久保 博	サーモグラフィと水温計測からみた河川水温の局所性	早田川
佐々木 亮祐	大久保 博	砂防ダムスリット化後の河床変動とサクラマス産卵環境	早田川
鳥山 允瑠	大久保 博	渓流域におけるイワナ放流魚のハビタットの造成	演習林
高橋 教夫	鈴木 舞	ブナ二次林の葉生産量と結実量、肥大成長量の変動	演習林
高橋 教夫	小堤 武蔵	スギ高齢林における樹冠の形状と肥大成長の関係	演習林
高橋 教夫	高橋 佑典	ナラ類集団枯損被害地における稚樹による天然更新の実態	演習林
高橋 教夫	鈴木 諒	スギ造林地において下刈りの有無や実施時期の違いが昆虫相に与える影響	演習林
高橋 教夫	野村 征宏	ブナ二次林における個体の胸高断面積成長の予測	演習林

小山 浩正	清野 陽介	ブナの開花頻度の個体差とウエツキブナハムシの被害の程度の関係	演習林
林田 光祐	今田 貴裕	中・大型哺乳類によって散布される種子の発芽特性と実生の成長特性	生物多様性保全 研究園
桑原 理早	野堀 嘉裕	カラマツ樹幹部における炭素重量の推定	演習林
南 佳織	野堀 嘉裕	スギ林の炭素貯留量の推定	演習林
	Yayoi Yoshida, Norihisa		
Kazuya Turuta	Kusumoto, Nobuhiro Sekine, Tatuya Ashitani, Koetsu Takahashi	Inhibition activity of essential oils obtained from Japanese trees against <i>Skeletonema costatum</i>	演習林
佐藤 碧	西條 裕美, 小林 慧, 芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	スギ樹皮の機械的傷害に対する反応	演習林
星野 南	後藤 郁美, 芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	ヒノキの幹及び枝の心材色	演習林
小林 ひかる	小林 慧, 山下 陽平, 芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	スギ針葉ジテルペン炭化水素成分の抗蟻活性	演習林
後藤 郁美	芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	スギ心材抽出物の植物生長に及ぼす影響	演習林
小林 慧	唐田 信吾, 芦谷 竜矢, 高田 克彦, 高橋 孝悦	豪雪地帯に生育するスギの根元曲り形成による髄の偏心について	演習林
西條 裕美	芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	スギ樹皮の乾燥時間による成分変化と生物活性	生物多様性保全 研究園
高橋 孝悦	芦谷 竜矢	メタセコイア型スギのノルリグナン類について	演習林
星野 南	森川 卓哉, 小林 慧, 芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	ヒノキ心材色の変異と心材成分の関係	演習林
佐藤 碧	西條 裕美, 芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	スギ樹皮の機械的傷害に対する反応 (II)	演習林
森川 卓哉	芦谷 竜矢, 小藤田 久 義, 高橋 孝悦	ヒノキ枝心材部抽出物の抗菌活性	演習林
橋場 健嗣	森川 卓哉, 齊藤 正一, 芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	ミズナラ・ブナ材抽出成分のナラ菌に対する抗菌活性	演習林
山下 陽平	橋本 尚也, 楠本 倫久, 芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	スギ葉に含まれるジテルペン炭化水素の抗ハダニ活性	演習林
小林 ひかる	山下 陽平, 小林 慧, 芦谷 竜矢, 高橋 孝悦	スギ針葉抽出物及びその成分の抗蟻活性	演習林
小林 慧	芦谷 竜矢, 高田 克彦, 高橋 孝悦	豪雪地帯に生育する樹木の根元曲り材の解析 (II)	演習林

## II. 生涯学習林としての利活用および地域との連携

### 1. 演習林施設開放事業

上名川演習林の施設開放事業の一環として、鶴岡市内の小学生を対象に、「森の学校」を7月13日(土)、

10月12日（土）、3月8日（土）の3回実施し、植樹、炭焼き、バウムクーヘン作り、木の実・きのこ採取、落ち葉や草花のしおり作り、雪の特徴と雪で遊び等を行った。

## 2. 地域との交流

(1) 地元の名川森林保護組合が主催して毎年5月6日に定期的に行われる入山式に参加するとともに、同日に入山式懇談会を主催し、学長をはじめ多数の関係者が参集し、地元と大学関係者との交流を深めた。

## III. 教育研究支援および森林管理

### 1. 実習支援

演習林にて実施する実習計画に基づいて、事前に実習用具の準備・点検整備および歩道の整備等を行い、実習時には指導教員の指示に従い実習指導支援を行った。

### 2. 研究支援

教員からの研究支援の要請に応えるよう、森林管理作業と調整を図りながら研究支援を行った。昨年度に引き続き、大気成分調査依頼への協力、焼畑農法による温海カブの栽培を行い、修論・卒論研究に関する調査の支援を行った。

### 3. 調査

4林班そ小班iの立木調査を行った。

### 4. 収穫事業

#### (1) スギ直営生産

スギ素材生産を行った（4林班そ小班i）。計画量180m<sup>3</sup>に対し、183m<sup>3</sup>を生産し、販売した。採材に当たっては木材流通センターと連絡を取り、需要の多い寸法となるよう努めた。

#### (2) キノコ生産

生産予定収量90kgに対し、3.6kgにとどまった。今年度は発生量が少なく、また虫害対策として林床の枝葉の掻き取り・除去を試みたが被害が発生し、生産量が上がらなかった。

発生量低下の原因の一つとして、数年来、同一箇所にて植菌・仮伏せ等を行っており、その原木が現在収穫期にあっていることが考えられたため、今年度は植菌・仮伏せ等を従来の作業場所より移動して行った。また今年度秋季の植菌の際に種駒の品種変更を行った。今後も状況により品種の検討を行っていく。

#### (3) カブ生産

漬物屋『本長』へ加工用として280kg（うち規格外70kg）、農場市等で118kg販売した。

### 5. 育林作業

#### (1) 地拵え

伐採跡地を植栽予定地として行った（12林班へ小班）。また、焼畑による温海カブの栽培（4林班そ小班i）を行った。

#### (2) 新植・補植

伐採跡地に学生実習等でスギの植栽を行った。

新植：12林班へ小班：0.17ha

#### (3) 下刈り

新植～3年目の植栽地に対し2回/年、4～6年目の植栽地に対しては1回/年行った。また要請により、植栽後8年が経過した林分（13林班ぬ小班iii）に対して実施した。

・5林班ち小班：0.15ha×1回



- ・ 5 林班に小班 i : 0.35 ha×1 回
- ・ 5 林班に小班 ii : 0.23 ha×2 回
- ・ 13 林班ぬ小班 ii : 0.4 ha×1 回
- ・ 13 林班ぬ小班 iii : 0.15 ha×1 回

(4) 蔓切り・枝打ち・除伐

- ・ 6 林班た小班

(5) 防火帯

早田川右岸南側 3.6 km を計画したが、残雪、伐採・下刈り作業等の兼ね合いもあり、実施しなかった。

## 6. 土木作業

(1) 林道

早田線・大徳沢・芦沢の保守・管理であり、融雪災害による崩壊土砂や落石の撤去、側溝整備による排水路の確保、道路肩の低木・草本の刈取りによる路肩維持、冬季間の通勤路補修を行った。

(2) 歩道

要請のあった路線（尺平峯線）の整備を行った。

(3) その他

地滑り地や降雨後の林道の巡視、橋梁の雪下ろし、冬期通勤路における雪崩の復旧作業を行った。

## 7. 管理作業

(1) 車両

車両の点検・整備は事故防止につながることから、使用前に点検・整備を行った。

(2) 除雪

管理棟・分室・格納庫および仮設物等の維持管理のために雪下ろし、雪下ろし後の除雪および除雪機具の手入れ等を行った。

(3) 整理

各実習前に管理棟内の整理・清掃を行った。

(4) その他

入山式関連の諸準備、案内板・表示板の設置および撤去、入林者の送迎や地滑り、林道崩落地への案内・送迎を行った。

## 8. 製炭作業

炭材の調達、運搬、調整、炭窯の整備、学生への指導を行った。

## 9. 苗畑作業

(1) 育苗

除草等を行った。

(2) 樹木管理

見本林、樹木園の草刈り、道路・隣地との境界の支障木除去・枝払いを行った。

(3) その他

苗畑管理室・仮設物内の整理、教員や学生の要請に応じて耕耘、畝の作成を行った。

## 10. 会議等

健康診断、各種行事・委員会、センター試験補助、業務説明会等への出校。

### 1 1. 演習林開放事業

演習林施設開放事業として、鶴岡市内の小学3・4年生を対象とした『森の学校』を夏（7月）・秋（10月）・冬（3月）に開催した。

### 1 2. 調書作成等

作業計画・実績、作業・運転日誌、気象観測資料等の整理、作成、報告等を行った。

#### 《 今年度特徴 》

- ・伐採跡地に火入れを行い、前年度に引き続き温海カブの焼畑栽培を行った。  
生産したカブは加工用として、大山の漬物屋『本長』へ出荷し、農場市等でも販売を行った。
- ・演習林所有車両の更新を行った。
- ・今年度より公開森林実習として雪山実習への他大学学生の受け入れを行った。
- ・里山プロジェクトへの協力を行った。
- ・大徳沢林道の土砂崩れの復旧が行われた。
- ・地元の子供会が演習林に宿泊し、体験学習を行った。
- ・イタヤカエデの樹液を採取し、『メープルシロップ』の試験的作製を行った。

# 社会教育部門

## 1. H25 年度の総括

### 【地域貢献】

#### (1) “おしゃべりな畑” 公開講座の実施

平成 22・23 年度実施した公開講座「おしゃべりな畑」（全国中小企業団体中央会の「農商工連携等人材育成事業」を採択）を 24 年度より文科省事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」「食・農林水産分野の 6 次産業人材育成に関するモデル・カリキュラム実施と達成度評価の実証プロジェクト」の採択を受け、25 年も引き続き採択を受け実施を行った。

この講座は山形在来作物に関係する機関と連携し、在来作物の作り手の増加と、栽培、販売、加工、利用の促進を図り在来作物の高付加価値化を推進し、講義と実地研修を通じ、安全・安心な在来作物の栽培を実践する人材、及び在来作物を活かした農商工観の連携を進め、新たな食農ビジネスの創出や地域の食及び文化を理解し地域のリーダーとなれる人材の育成を図ることを目的としている。

講義 51 時間、実習 24 時間で 8 月から翌年 1 月までの 6 ヶ月間の実施で、講義、実習とも 50%以上の受講生には山形大学農学部から「やまがた在来作物案内人」として認証している。講義は農学部の在来作物研究会に協力をいただきながら広く外来講師もお呼びし、平成 25 年度は 41 名の受講希望者があり 39 名が「やまがた在来作物案内人」として認証された（4 年間で累計 143 名）。

受講生はこの講座をきっかけに受講生間の連携を強め情報交換をしながら在来作物を含む農産物の生産拡大、直売の取り組み、新商品の創作、加工品の開発、アグリツーリズムに組み込みなど活動の場を広げている。

#### (2) “おしゃべりな畑” 認定者、受講生のフォロー

「おしゃべりな畑」の受講生、「やまがた在来作物案内人」認定者を対象に新たな事業に取り組む方々のフォローを行った。

- ・直売活動に対する支援。
- ・新規就農・直販に取り組む受講生への支援。

#### (3) 各機関との連携について

農業、食産業に関わる個人、法人、団体、企業、行政等を訪問し、大学とのなご一層の連携を進めた。

#### (4) 社会連携コーディネータの配置継続

- ・赤松博美（平成 26 年 3 月退職）
- ・井上綾子（平成 24 年 10 月採用）

## 【国際貢献部門】

- JICA 長期研修生の受け入れについて
  - ・ 4名（ルワンダ）修士課程修了（H26年3月）
  - ・ 4名（ルワンダ）修士課程受け入れ（H26年4月入学）
- JICA 短期研修生の受け入れについて（6年目の受入れ）
  - ・ アフリカ稲作収穫後処理コース（英語圏）
  - ・ 平成25年8月19～9月26日（木）
  - ・ アフリカ10ヵ国14名の研修生
  - ・ 受け入れのコーディネータ：安藤・夏賀教授
- 教育強化
  - ・ 関連授業の実施（国際フィールド協力論、国際理解）
  - ・ 国際農業経済論（2011年度後期～）

## 6. 山形大学農学部図書館の概要等

昭和24年 5月	山形大学附属図書館農学部分館	発足
昭和47年12月	〃	竣工
平成3年 4月	受入業務を最後に全面的に電算化へ移行	
平成8年 4月	平日の時間外開館20時までとなる	
平成10年10月	土・日の時間外開館開始（13時～17時）	
平成15年 3月	山形大学附属図書館農学部分館	改修・増築
	面積 969 m <sup>2</sup>	収容可能冊数 58,000冊 座席数 120席
平成17年11月	土・日の時間外開館拡大（10時～17時）及び祝・休日の開館開始（10時～17時）	
平成20年 1月	平日の開館時間延長（8時45分～21時15分）	
平成21年 4月	平日の開館時間短縮（8時45分～21時）	
平成21年10月	「山形大学農学部図書館」に名称を変更	

### 開館時間

曜日	通常期	休業期(※)	
月～金	8時45分～21時	8時45分～17時	※夏季休業 8.1～9.30
土・日・祝・休日	10時～17時	閉館	冬季休業 12.25～1.10 春季休業 2.20～4.4

### 蔵書数 (25.3.31 現在)

和書	80,610	洋書	17,055	計	97,665
----	--------	----	--------	---	--------

### 入館者数 (カッコ内は1日平均)

年度	平日	土・日・祝・休日	計
23	49,511 (205)	5,378 (71)	54,889 (173)
24	51,188 (215)	7,018 (84)	58,206 (181)
25	44,488 (186)	4,770 (63)	49,258 (156)

### 文献複写件数

年度	学内からの受付	学外からの受付	学外へ依頼
23	28	188	303
24	33	168	236
25	21	151	297

## 7. 大型設備の設置状況

	一般設備費	特別設備費	特別教育研究経費	施設整備補助金	設備整備補助金	備考
昭和62年度		作物群落生理測定装置				
平成2年度	エネルギー分散形X線分析装置					電子顕微鏡
3年度	物性精密計測試験装置					人工気象装置
5年度		多核種用高磁場核磁気共鳴装置				NMR
6年度	ガスクロマトグラフ質量装置					
7年度		高性能質量分析装置				
		栽培環境条件設定装置				ファイトロン
8年度	フリーラジカルモニタ					
9年度	3次元データビジュアル化解析システム	遺伝情報解析装置				
10年度		スペースコロレーションシステム				
11年度		農業用ロボット実験システム				
15年度		環境負荷軽減物質成分分析システム				
21年度			地域在来作物の高度化利用研究 (質量分析装置)	微量成分解析装置	N・C安定同位体比測定用質量 分析システム	
22年度			地域在来作物の高度化利用研究 (共焦点レーザー顕微鏡)			
23年度					積雪寒冷地農林業気象観測システム 植物・土壌成分分析システム	
24年度			新・里山生態系管理システムの構築 (ガスクロマトグラフ質量分析装置)  (高所作業台車)		卓上走査型電子顕微鏡 開放型光合成蒸散測定システム	

## 8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地，土地・建物の概要

### 山形大学農学部

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23  
 TEL 0235-28-2805  
 FAX 0235-28-2812  
 ホームページアドレス <http://tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp/>

### 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場

〒997-0369 鶴岡市高坂字古町5-3  
 TEL 0235-24-2278  
 FAX 0235-24-2270

### 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林

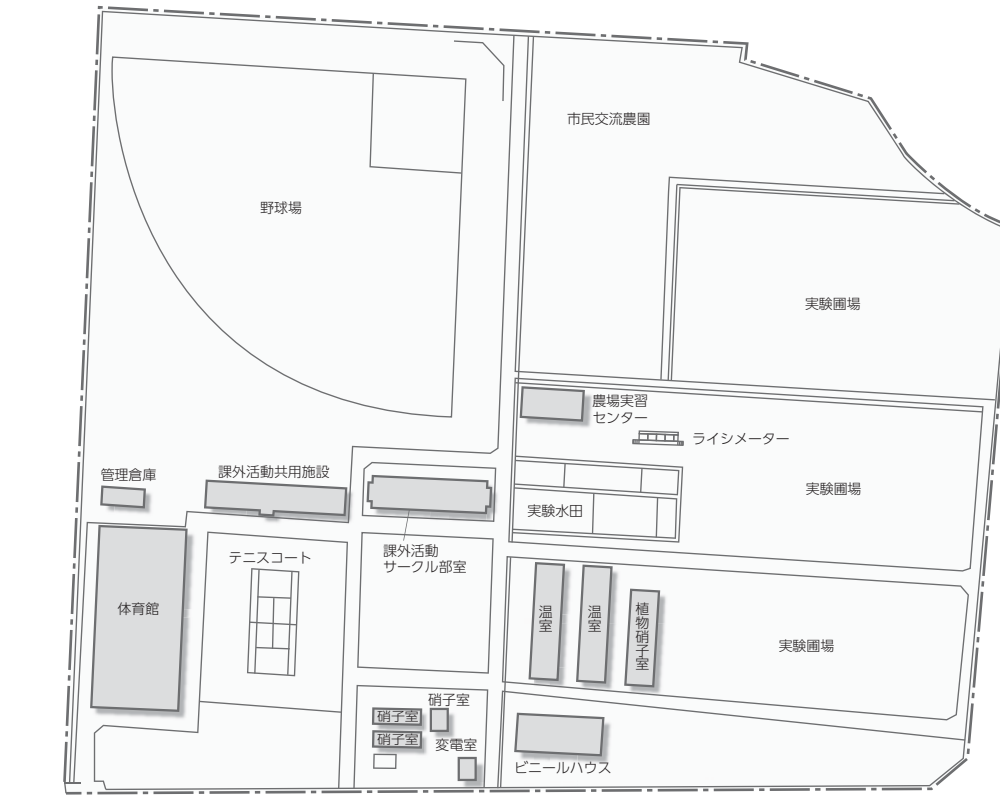
〒997-0405 鶴岡市上名川字早田川10  
 TEL 0235-53-2755  
 FAX 0235-53-2755

### 土地

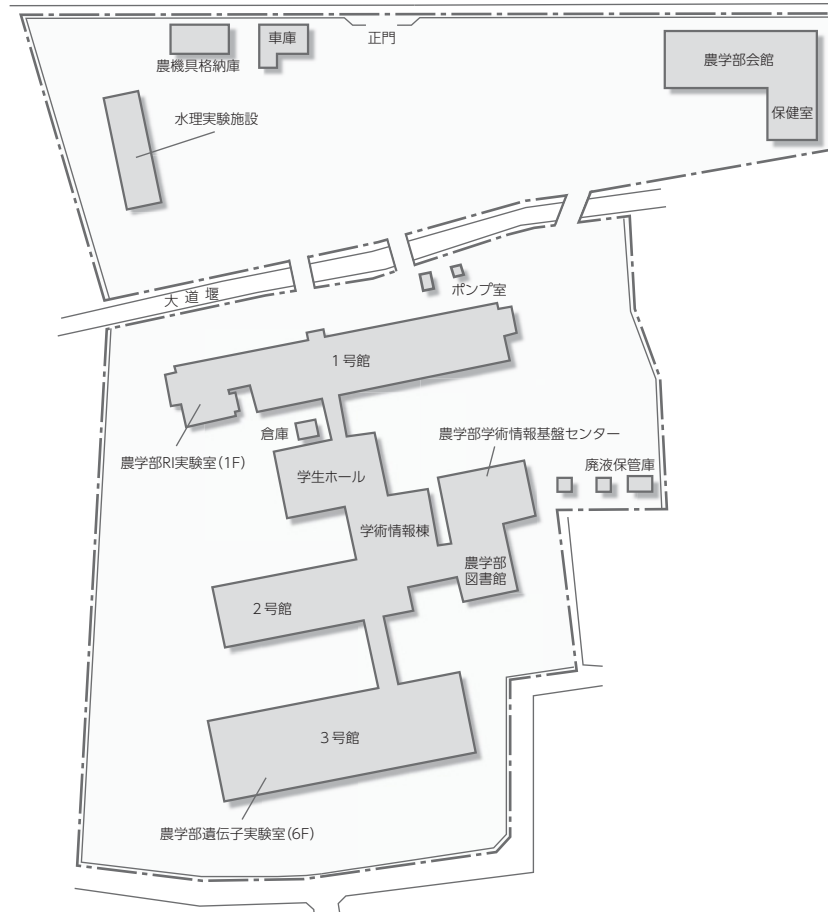
区分	面積 (㎡)
農学部	62,506
農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場	240,655
農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林	7,530,908
農学部附属やまがたフィールド科学センター生物多様性保全研究園	7,871
学生寮 (啓明寮)	6,756
職員宿舍	4,318
計	7,853,014

### 建物

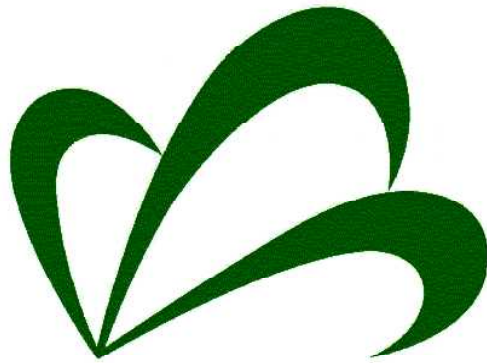
区分	構造	築年度	面積 (㎡)
水理実験施設	S1	平成17	321
3号館	SR6	平成15	3,266
3号館	SR6	平成12	3,103
2号館	R5	昭和47	3,431
学生ホール棟	R1	昭和46	427
1号館	R5	昭和44	5,795
図書館	R2	昭和47	820
学術情報棟	S2	平成14	384
学術情報基盤センター	R1	昭和61	112
農学部会館	R2	昭和51	1,090
体育館	S2	昭和45	1,083
課外活動施設棟	R2	昭和57	406
	S2	平成20	572
その他			1,041
計			21,851



県道332号線







Yamagata University  
Faculty of Agriculture